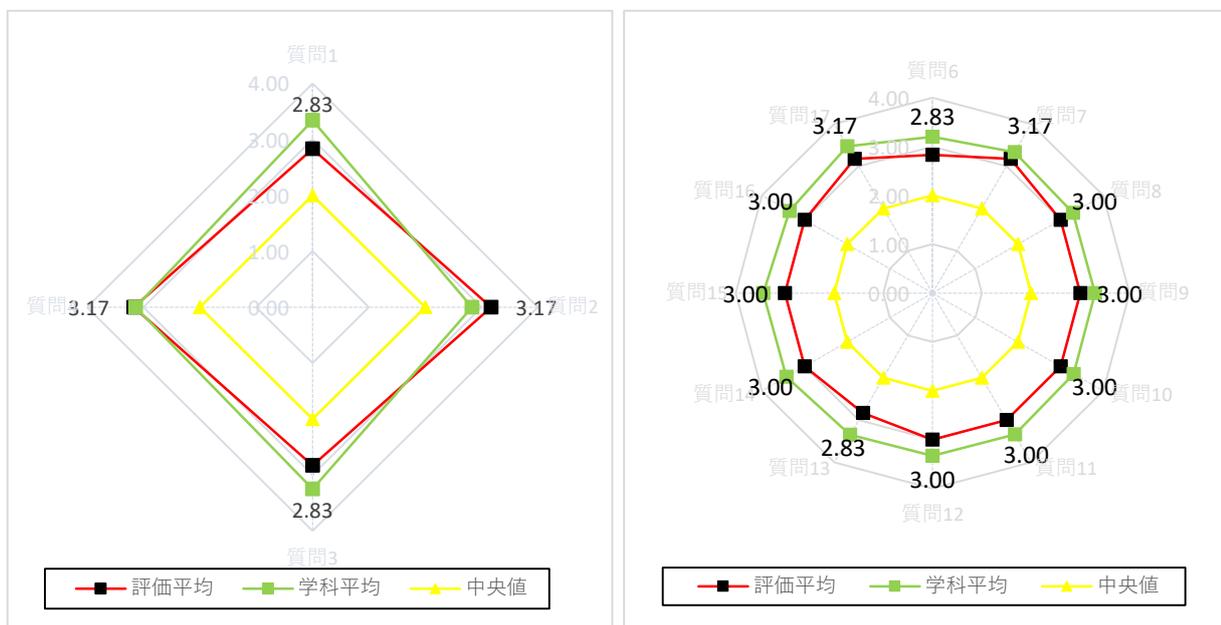


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		基礎演習あすなろう	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

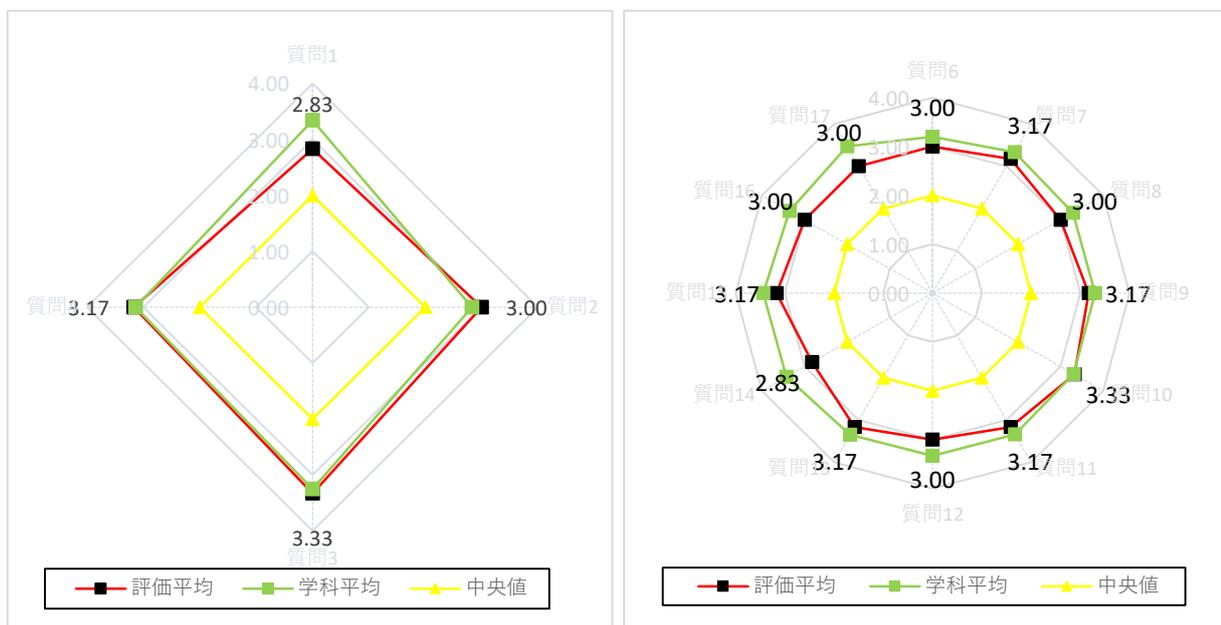
学科もしくは学部全体での合同授業が多いため、自身の授業としては評価し難い。
 担当学生との個別対応の時間が少ないため、学生の意見や疑問等に十分答えられていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度同科目の担当者ではないが、今回の評価を参考に他の授業に活かしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろう体験 I (基礎)	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

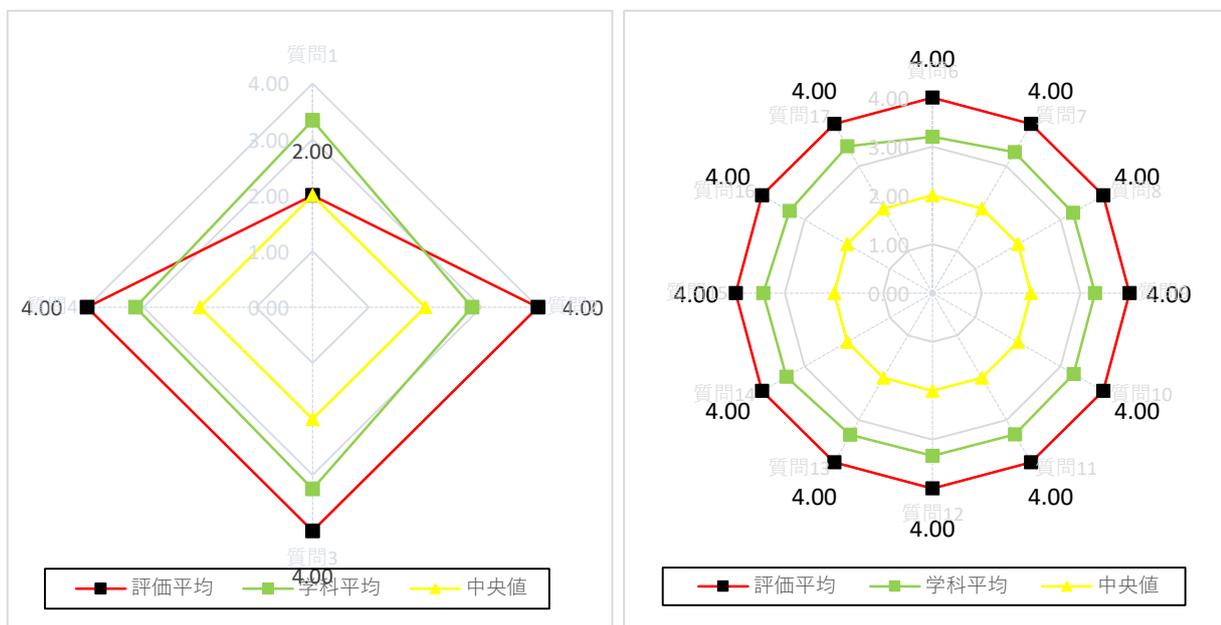
学科もしくは学部全体での合同授業が多いため、自身の授業という形では評価し難い。担当学生との個別対応の時間が少ないため、学生の意見や疑問等に十分答えられていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度同科目の担当ではないが、今回の評価を参考に他の授業に活かしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		総合英語Ⅱ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

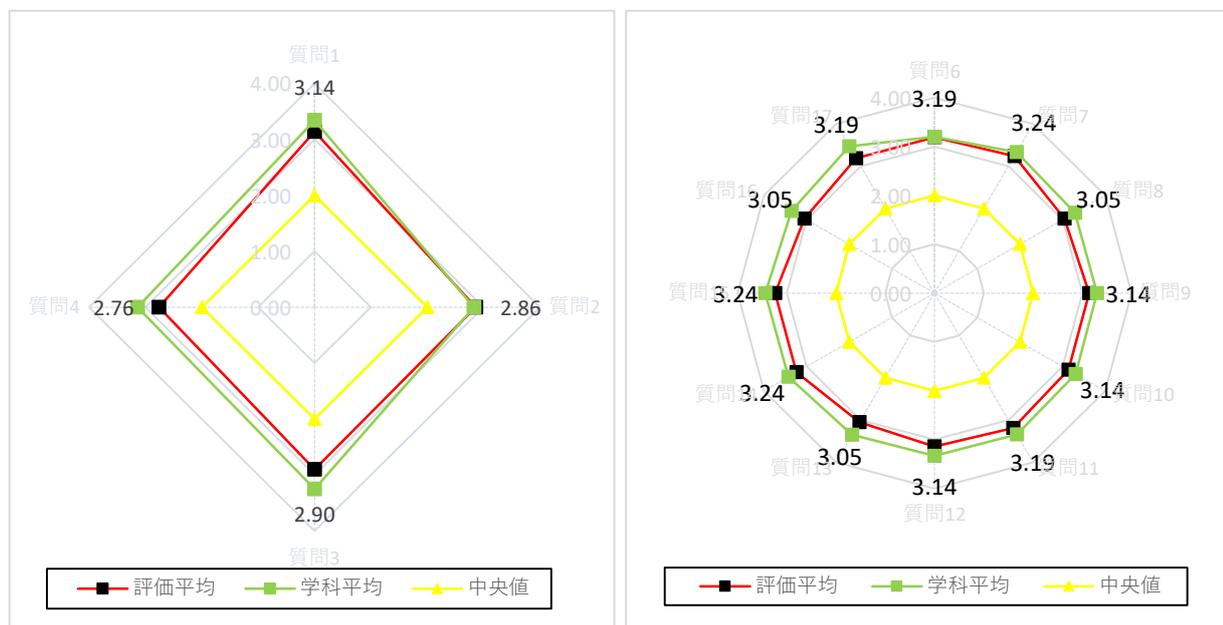
全体的に学生の評価は概ね良好であると思われる。特に質問6以降の項目については学生の満足度は非常に高いものになっている。健康栄養のクラスと同じ内容であったことを考えると、授業内容に対して前向きな学生が多かったことがその要因であると考えている。質問1に対する自己評価が非常に低くなっているが、学生たちの欠席したことについての反省の色が濃いということだろう。最も出席が足りずに試験までたどり着かなかったという学生はごく一部で、特に他のクラスと比べて突出して欠席する学生が多かったとの印象はない。学生自身がそう感じていたということにすぎないと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

同じ授業内容であるにもかかわらず、健康栄養のクラスと数字の散らばり方がかなり違う。結局のところそのクラスに入っている学生の姿勢に大きく左右されているということだと考えている。このクラスで特に良かったことは、教材に対する学生の取り組みが前向きな学生が多かったということである。それが授業に対する満足度につながっているのだと思う。学生を前向きな姿勢に導くための個別のコミュニケーションや、学生の達成度に対する声かけなど、うまくいったと思われることは本年度も実践しようと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		英語表現Ⅱ	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

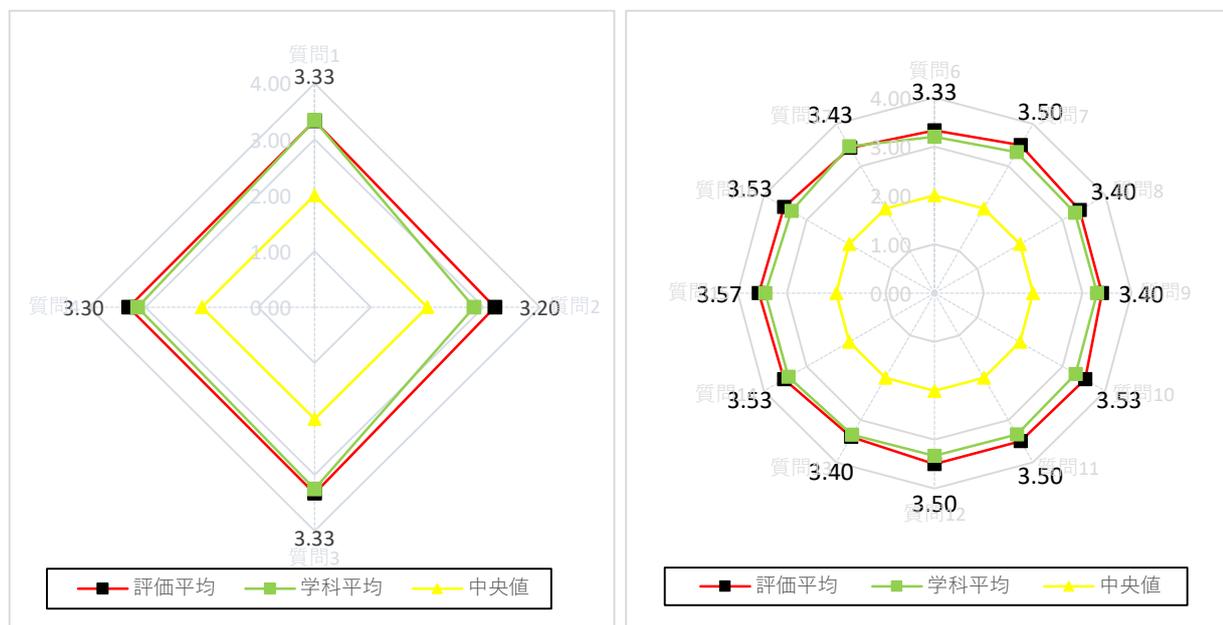
英語に苦手意識を持つ学生がかなり入っていたこともあって、全体的に学科平均を弱冠下回る評価になっているようである。シラバスに関しては学科平均程度にはあるものの、質問16、17に現れる学生との双方向的なコミュニケーションという点が学科平均とちょっと離れている。やはり学生の理解度が低く、苦手意識を払拭するまでに至っていなかったということだと考えている。健康栄養のクラスと同じ授業の展開であることを考えれば、やはり社会福祉、健康スポーツの学生に対しては多少難易度を変えて取り組みやすくする工夫が必要かと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

現在今年度の社会福祉、健康スポーツのクラスの英語表現Ⅱの授業が進行中であるが、今回の授業評価の結果を踏まえ、学生が取り組むべき課題のハードルを下げたり、個別に指導するパートでもっと細やかな観察に基づく指導や適切なアドバイスなどを行っていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		情報処理基礎	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この科目は、1年生の必修科目として通年で実施している。

結果からは、概ね学科平均と同程度の評価を頂いていることがわかる。そんな中、質問1、質問17が学科平均を下回る評価となっている。

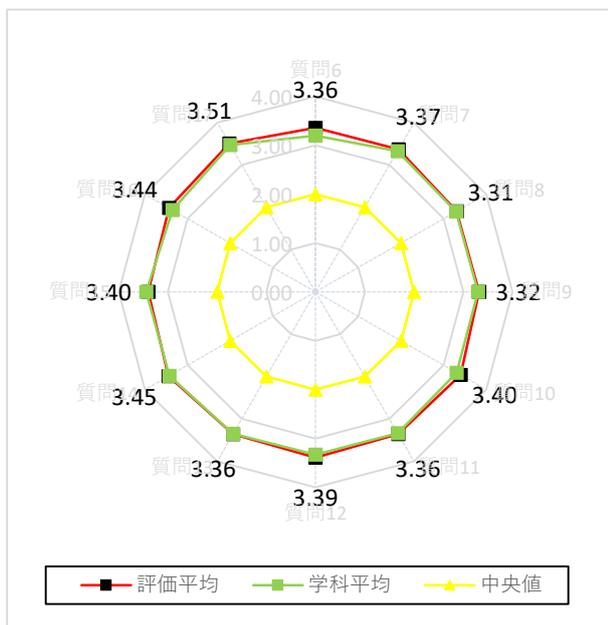
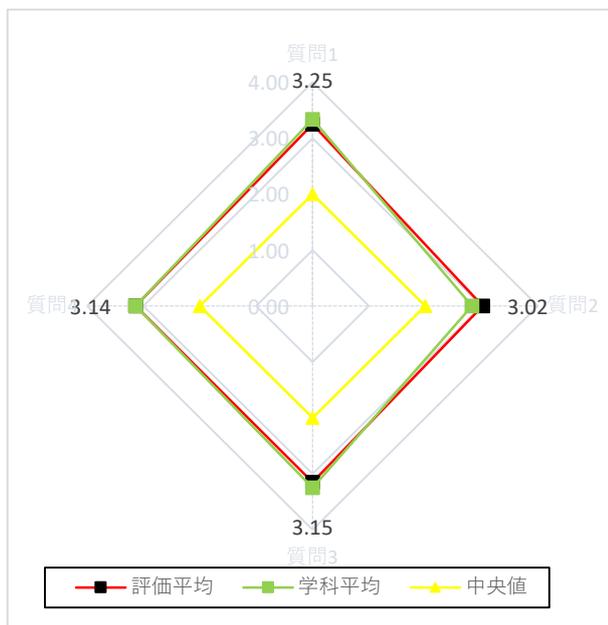
質問1については、欠席することでの不利益について、注意を行っていなかったためだと考える。欠席することで、講義内容が把握できないなどの具体的な不利益について話す必要があると考える。質問17については、教員自身が熱心さを失ったつもりはないが、学生にとってはそう捉えてしまう場面があったのだと考える。今後気を付けていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

基本的には、今年度と同様の取り組みを実施予定である。その中でも上記の評価より、欠席をしないための注意喚起等を繰り返し行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		健康福祉概論	133名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

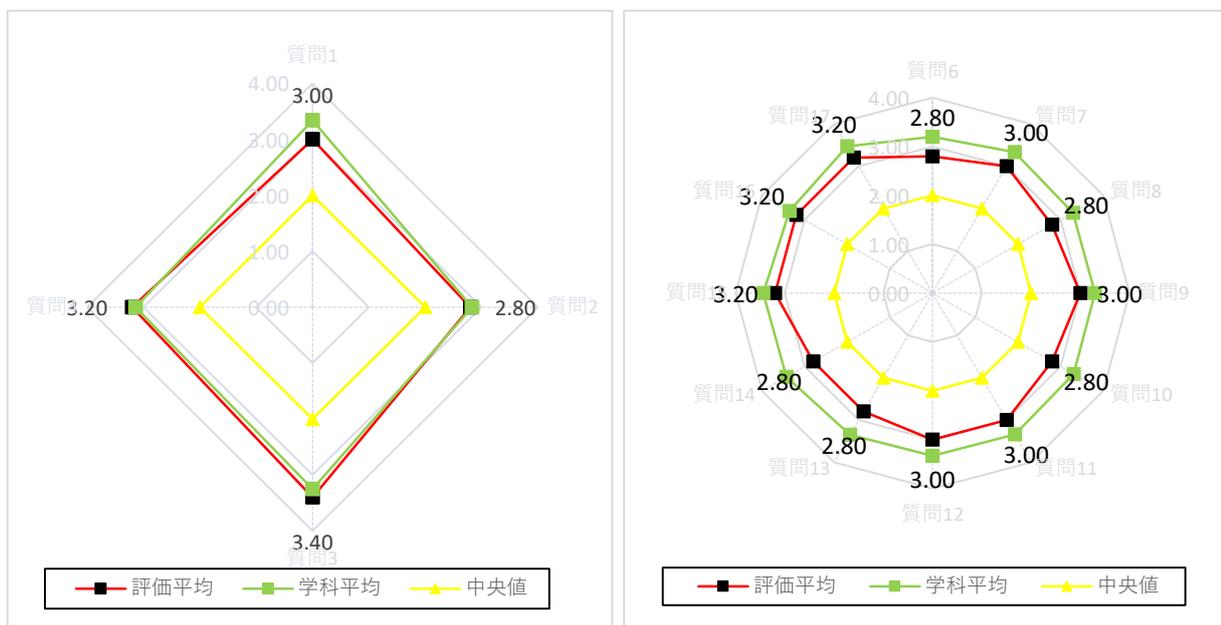
全ての質問項目において平均並みの評価を得ることができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度同様に取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅢ（含卒業研究）	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

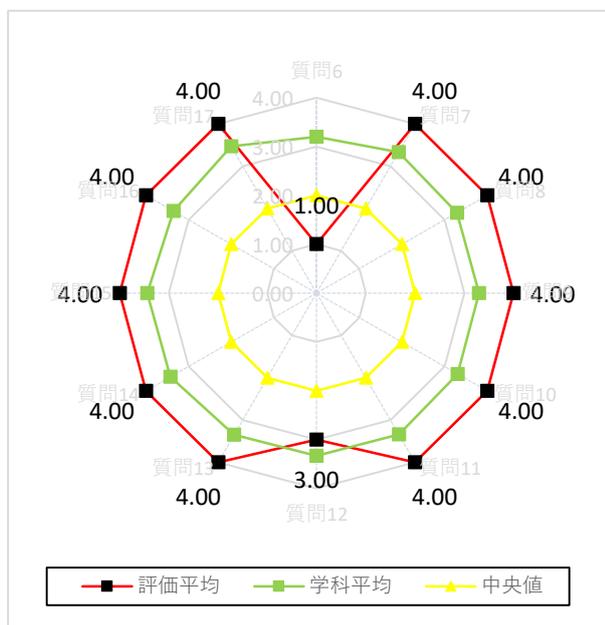
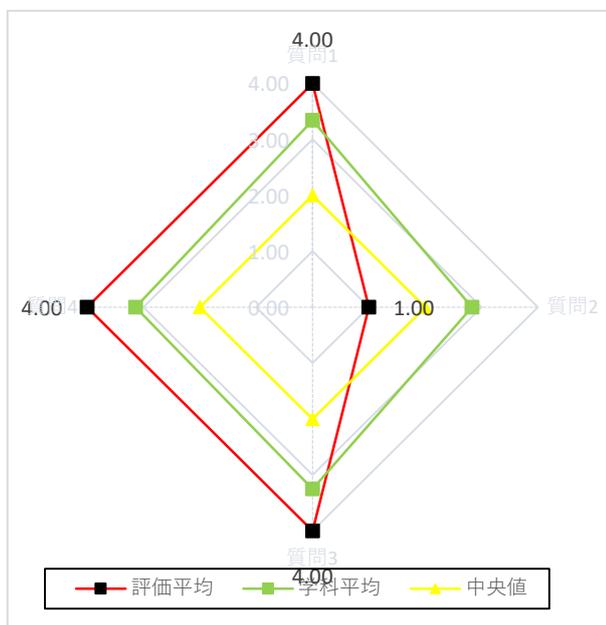
本科目は例年、3年次生と4年次生と共同しながら、卒業論文に取り組んでいる。評価者の4年生は昨年度3年次生の段階で上級生の4年次生から卒業論文のプレゼン等指導を受けており、当時の4年次生はその指導を通して、自らの論文デザインを構成するよう学習意欲を喚起してきた。しかしながら、本年度は科目担当者による3年次発展ゼミナールⅡの担当がないために、現履修者は下級生である3年次生への指導を通して自らに課せられた課題に直視する場面が例年に比して少なかったと考えられる。今後卒業論文ゼミナールの効率化と学習へのモチベーションの観点からは、3年次生と4年次生の合同ゼミナールや4年次生が後輩に助言を行う学年間の学びの機会が必要と考える。今年度は合同講義での学習機会があまり持てず、個別指導を中心に展開したことから、他の学生の進捗が理解できにくく、自らの卒論への取り組みにも多少なり影響が生じたと考えられる。グループ指導と個別指導とのバランスを考えながら学生のモチベーションを高めることが今後の課題として指摘できよう。一方、教員の双方向的なやり取りでは、概ねの評価が得られたので継続して臨みたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目においては、上記の「結果の分析と評価」でも示したとおり、本年度は科目担当者（滝口）による3年次発展ゼミナールⅡの担当がないために、現履修者は下級生である3年次生への指導を通して自らに課せられた課題に直視する場面が例年に比して少なかったと考えられる。よって、上記にも述べたとおり、今後卒業論文ゼミナールの効率化と学習へのモチベーションの観点からは、3年次生と4年次生の合同ゼミナールや4年次生が後輩に助言を行う学年間の学びの機会を意図的に用意する学習場面が必要と考える。又は、他の発展ゼミナールⅢとの合同学習や合宿等により、集中的に自らの問いに接近する学習場面をも検討する必要性が感じられる。また、今年度は卒業論文提出までの限られた時間的制約の中において個別指導を中心に学習を進めた。そのため、次年度においては、上述のとおり、グループ指導と個別指導とのバランスを考えながら、学生のモチベーションを高めることが課題の一つと考えられる。一方、公平に学生に対応した事項については、概ねの評価が得られたので継続して個々の学生の問題意識に寄り添いながら、指導を継続していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅢ（含卒業研究）	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

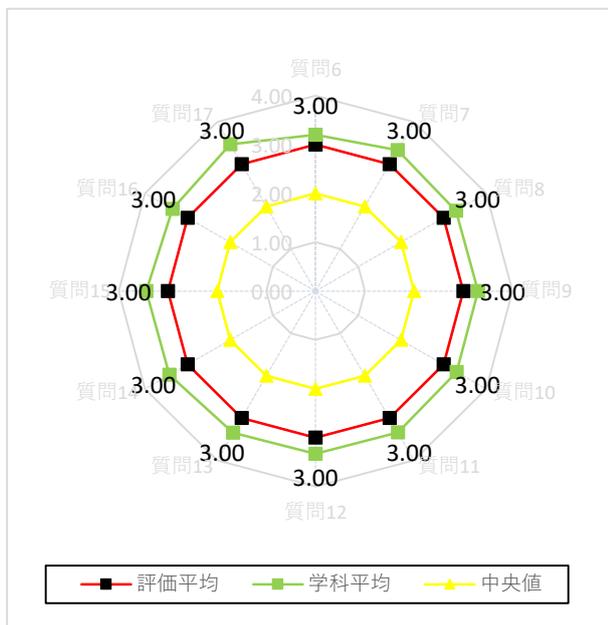
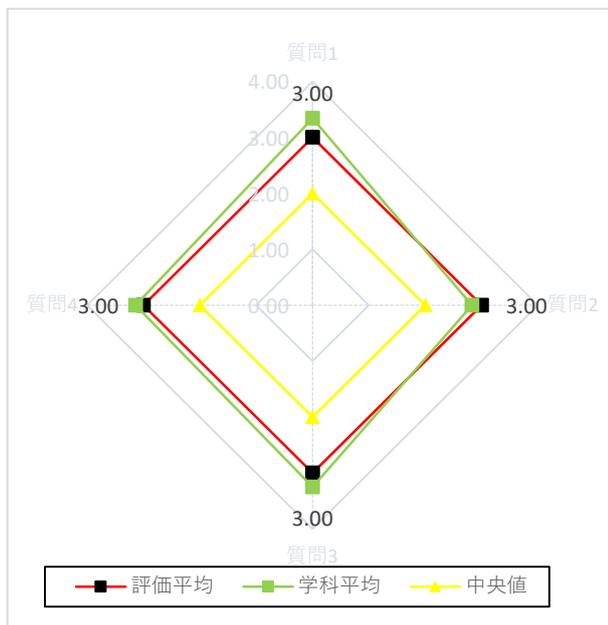
卒論指導であるためシラバスは適用しなかった

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様の取り組みになると思われる

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅢ（含卒業研究）	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

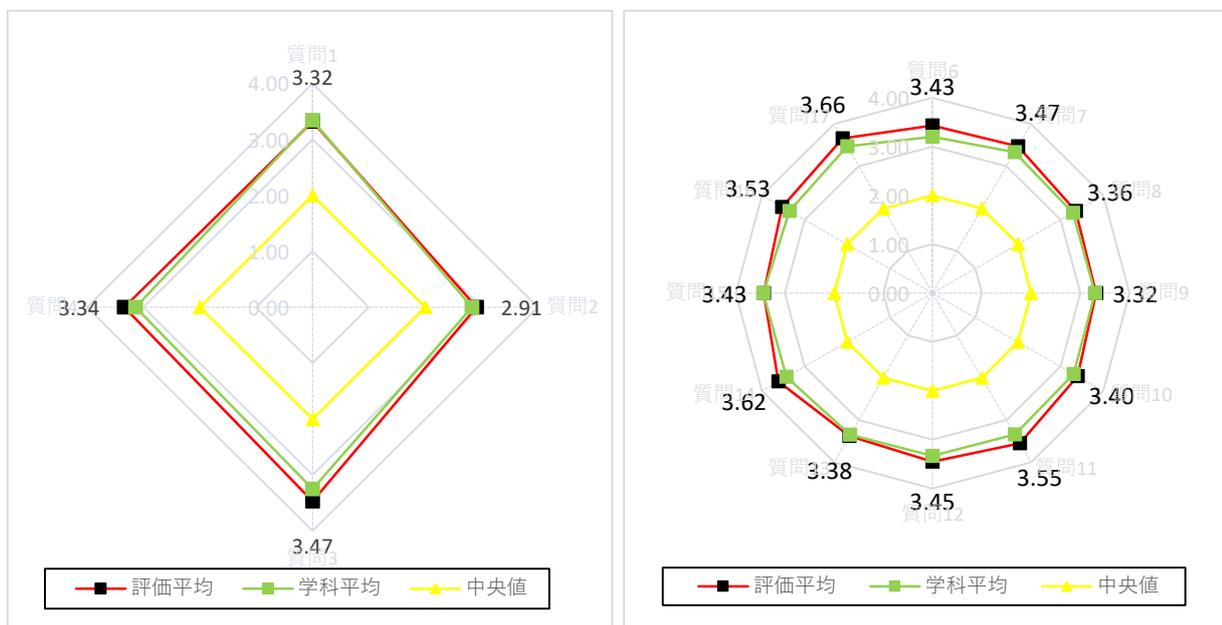
1名の回答。 1名の回答については、分析を控えたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答者を増やす。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉原論 I	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

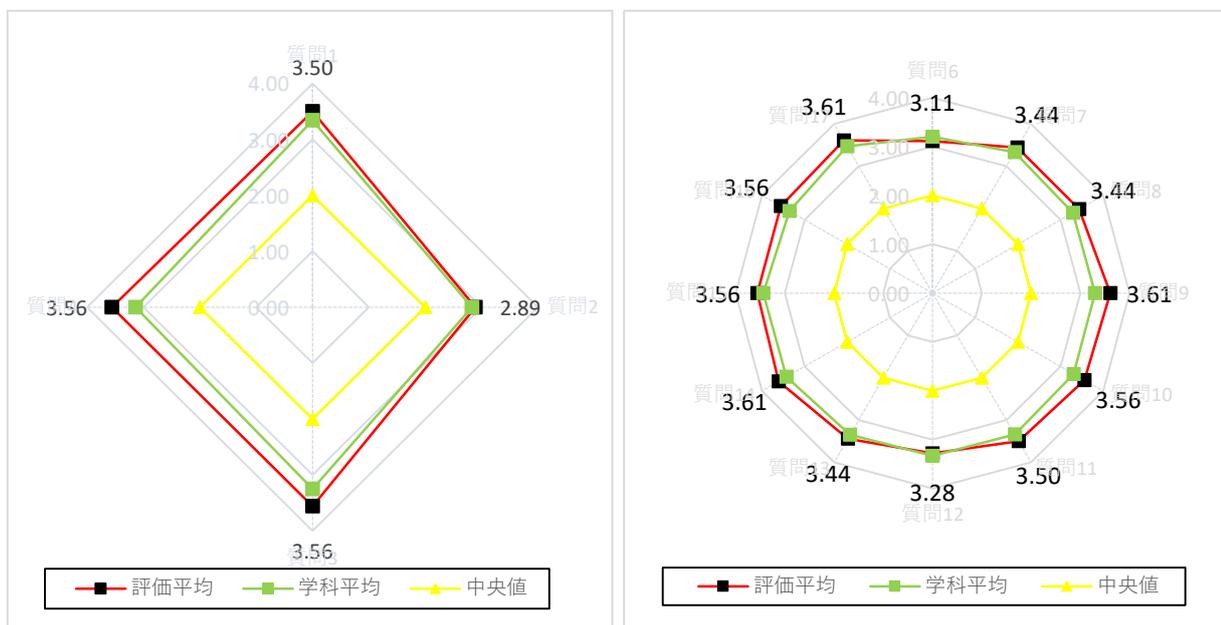
本科目では、概ね社会福祉学科の平均とほぼ同様な評価を得ていた。特に最も高い評価は質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいた」(3.66/学科平均3.44)であった。次いで質問14「学生の質問等に誠実に対応していた」(3.62/学科平均3.44)が高く、次は質問11「教科書・配布資料等は役に立った」(3.55/学科平均3.38)であった。本科目は社会福祉士国家試験の中でも、その基幹的科目として位置づけられていることから内容が難しく、理解が得られにくい点が指摘される。その課題を克服するために指定テキストに加えて、福祉用語専門辞典を使用し、基礎的な社会福祉専門知識への習得を目指している。さらに、これらの難解性を克服するために各社の新聞記事を始め、厚生労働省等からの公刊物を補足的に配布し、学習を補っている。これらの対応から、「教科書・配布資料等は役に立った」と回答した履修生の割合が多かったと考えられる。また、一方では、唯一学科の平均を下回ったものとして、質問2(学生自らによる)「シラバス(授業評価)を活用した」(2.91/学科平均3.0)が最も低い数値であった。次年度に改善を図りたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目では、上記グラフで示されるとおり、概ね社会福祉学科の平均とほぼ同様な評価を得ていた。上述と重複するが、最も高い評価は質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいた」(3.66/学科平均3.44)。次いで質問14「学生の質問等に誠実に対応していた」(3.62/学科平均3.44)が高く、続いて質問11「教科書・配布資料等は役に立った」(3.55/学科平均3.38)であった。特に本科目は社会福祉士国家試験の中でも、その基幹的科目として位置づけられ、且つ内容が難しく、理解が得られにくい点が指摘される。その課題を克服するために次年度以降も指定テキストに加えて、福祉用語専門辞典を使用し、基礎的な社会福祉専門的知識への習得を図りたい。加えて、社会福祉は政治・経済・文化・宗教の混成混合によるものであるため、最新の新聞記事を含め、厚生労働省等からの公刊物をも継続して準備し、学習内容の理解を担保するためにも引き続き補っていきたい。上記の質問2(学生自らによる)「シラバス(授業評価)を活用した」(2.91/学科平均3.0)が最も低い数値であったことから改善を図りつつ学習を進める予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉原論Ⅱ	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

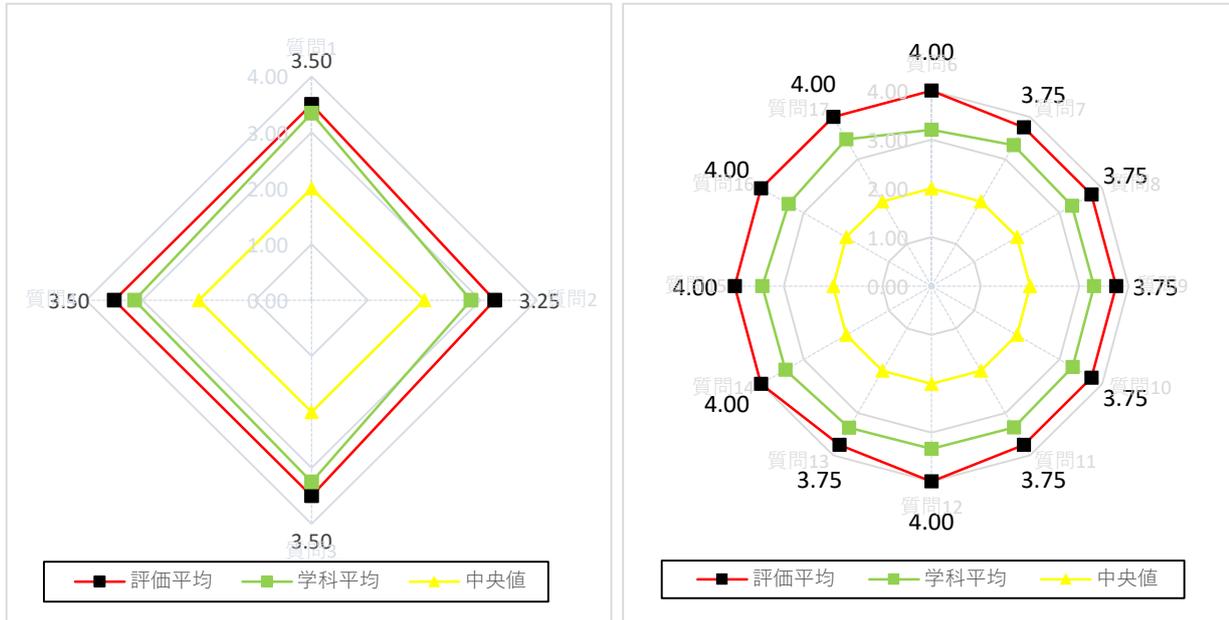
本科目では、概ね社会福祉学科の平均とほぼ同様な評価を得ていた。特に最も高い評価は、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていた」(3.61/学科平均3.33)。質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいた」(3.61/学科平均3.45)。さらに質問14「学生の質問等に誠実に対応していた」(3.61/学科平均3.44)がいずれも3.61と高かった。また、質問11「教科書・配布資料等は役に立った」(3.50/学科平均3.38)であった。本科目は同科目Ⅰと同様に社会福祉士国家試験の中でも、その基幹的科目として位置づけられていることから内容が難しく、理解が得られにくい点が指摘される。その課題を克服するために指定テキストに加えて、福祉用語専門辞典を使用し、基礎的な社会福祉専門知識への習得を目指している。さらに、これらの難解性を克服するために各社の新聞記事を始め、厚生労働省等からの公刊物を補足的に配布し、学習を補っている。これらの対応から、「教科書・配布資料等は役に立った」と回答した履修生の割合が多かったと考えられる。今後の課題としては、担当者と学生相互のシラバスの確認が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目では、概ね社会福祉学科の平均とほぼ同様な評価を得ていた。特に最も高い評価が3つ同数であった。まず、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていた」(3.61/学科平均3.33)。質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいた」(3.61/学科平均3.45)。さらに質問14「学生の質問等に誠実に対応していた」(3.61/学科平均3.44)がいずれも3.61と高かった。また、質問11「教科書・配布資料等は役に立った」(3.50/学科平均3.38)であった。本科目は上述のとおり、同科目Ⅰと同様に社会福祉士国家試験の中でも、その基幹的科目として位置づけられていることから内容が難しく、理解が得られにくい点が指摘される。その課題を克服するために指定テキストに加えて、福祉用語専門辞典を使用し、基礎的な社会福祉専門知識への習得を目指した。さらに、これらの難解性を克服するために各社の新聞記事を始め、厚生労働省等からの公刊物を補足的に配布し、学習を補っている。次年度においても引き続き教材研究を練り、学習へのモチベーションが向上されるよう創意工夫による授業展開を心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

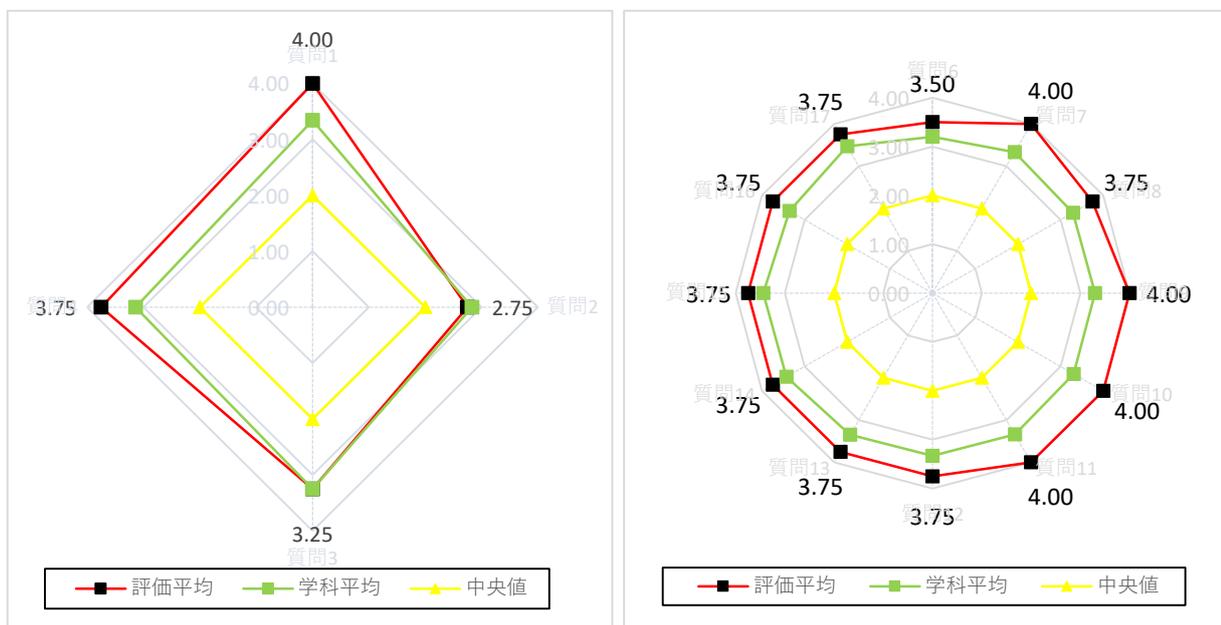
ゼミでは意見が述べられそうな雰囲気づくりに努めた。学生間の仲間意識が芽生え、卒業論文への題目設定やゼミでの取り組みに意欲的な様子がうかがえた。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業論文の完成をめざし、個別指導に力を注ぐ。論文作成～論文発表会までのプロセスを全員がスムーズに進むことができるよう、学生の疑問や質問に懇切丁寧に答える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

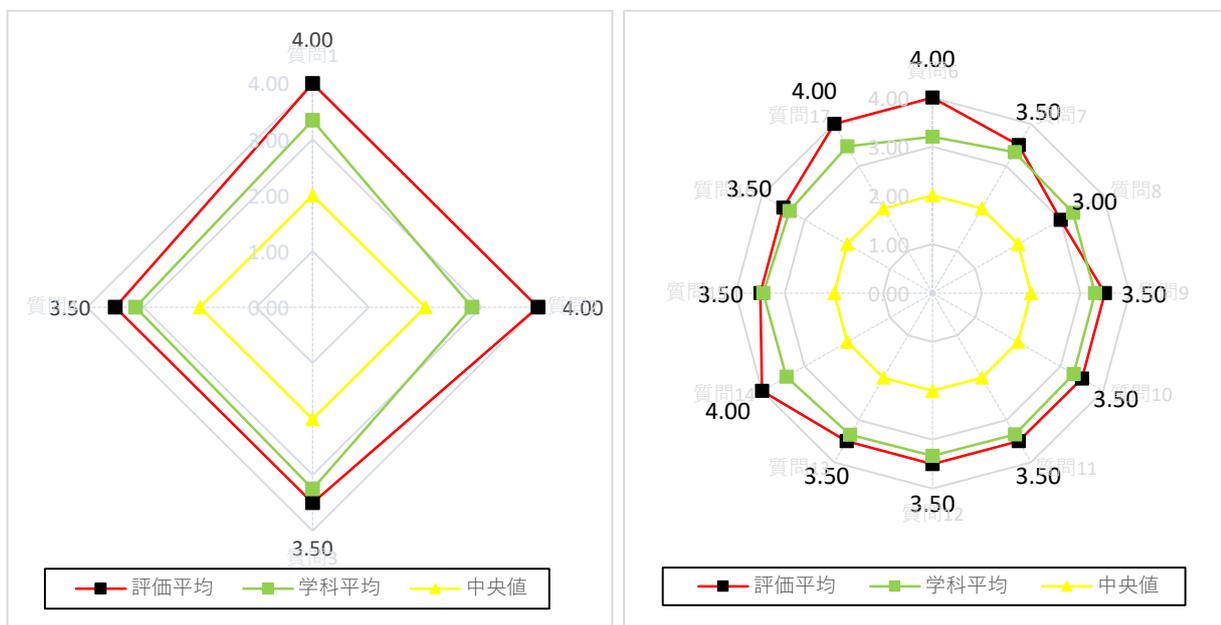
授業の進捗計画を作成して、それに従って個別指導日の設定を行ったことが、良かったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当予定なし

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～4については、学科平均よりすべて高い結果となっており、学生が積極的に取り組むことができたことがわかった。

質問6～17については、質問8のみ学科平均（3.3）より低い結果（3）となっていた。授業は卒業研究であり、自身の興味関心に沿って内容を深めていくはずが、そうではなかったということになるのだろうか。もしくは、教授した研究方法やプロセスに納得がいかなかったということであろうか。平成30年度も引き続き同じメンバーで取り組んでいるので、上記の件について確認していきたい。

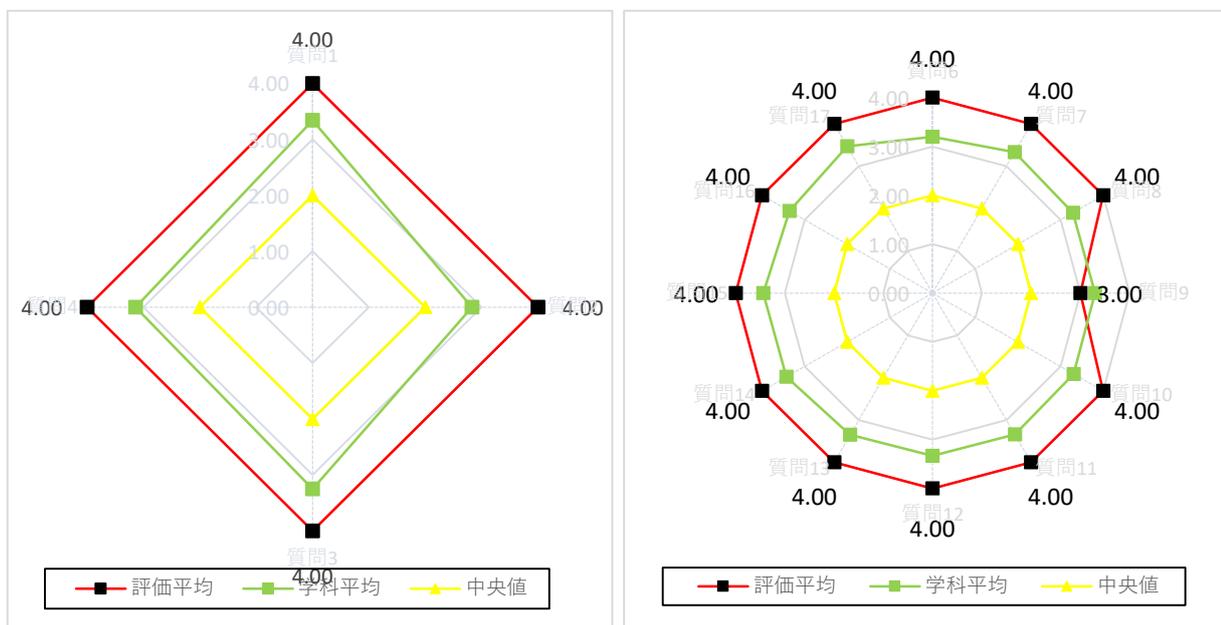
質問14（学生の質問等に対応しましたか）、質問17（教員は熱心に授業に取り組んでいましたか）については、後期大半が個別指導に割き、通常の授業時間以上の関わりを持ったからと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究の指導に際し、どのような研究方法やプロセスに関心があるのか、学生の学習状況や研究体験などを確認しながら、進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナール I	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

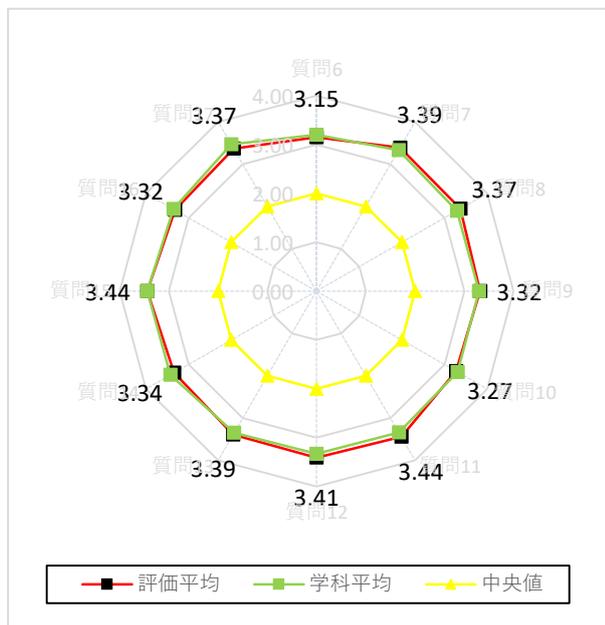
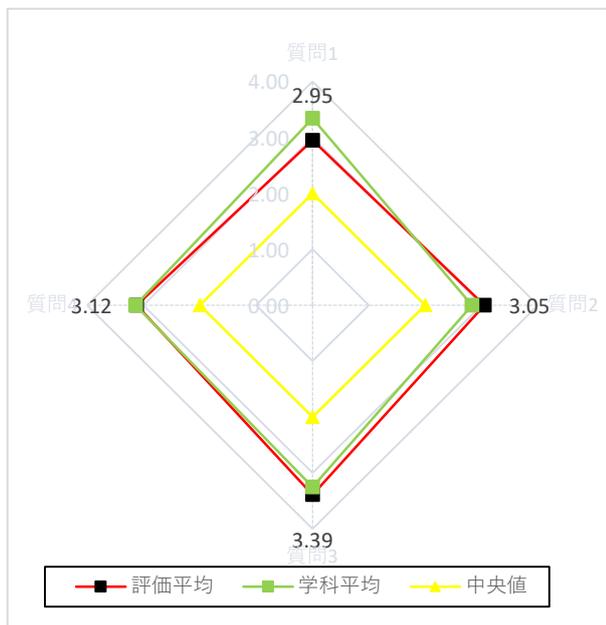
質問1～4に関しては学科平均よりも高い結果となっており、学生が熱心に取り組んだことが確認できる。レポート作成やミニ研究など主体性が求められる授業の効果があつたと考えられる。質問6～17については質問9（授業は分かりやすくする工夫がされていたか）が学科平均（3.31）より低い結果（3.0）であった。スタディスキルズの教授方法に課題が残った。これは後期の個別指導による指導ではなく、前期のリーディングや情報収集に関する内容と考えられる。複数あるゼミで共通の教材を使用しているので、レジュメや課題解説の工夫に取り組みたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

平成30年度は共通の教材に加え、レジュメの作成と、解説書の活用を行い、学生の理解を促進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 心理カウンセリング		倫理学概論	71名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

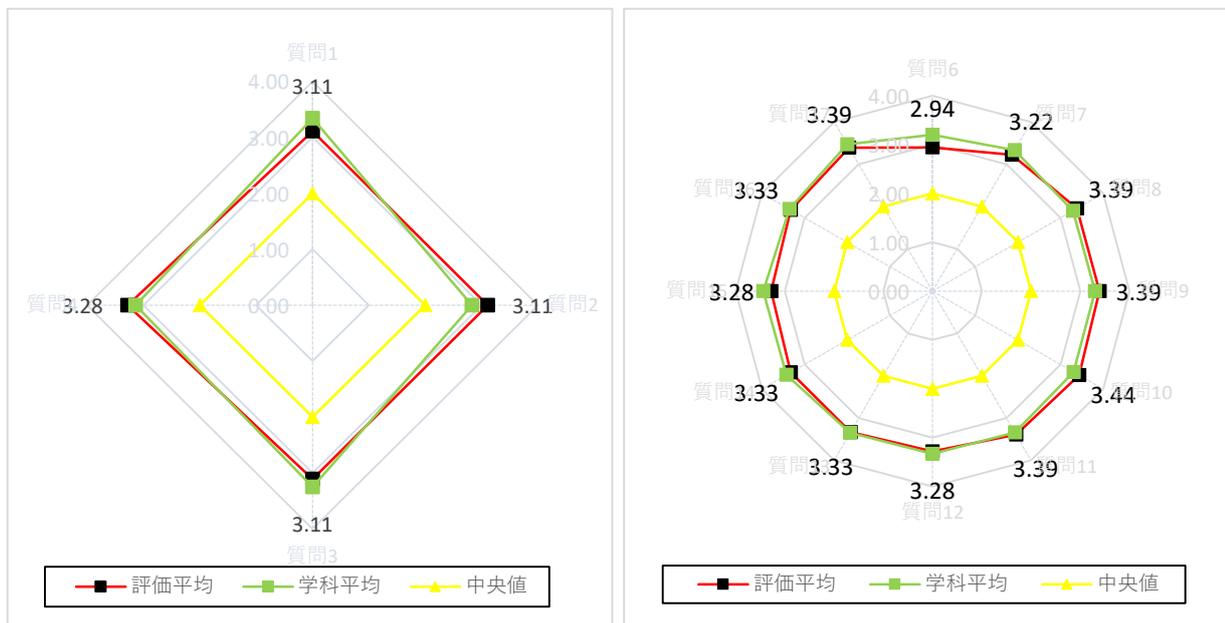
質問6、10、14が学科平均を若干下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生からの質問等に関してもっと丁寧な対応を心掛けたい。リアクションペーパー等の活用を試みる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 心理カウンセリング		経済学概論	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

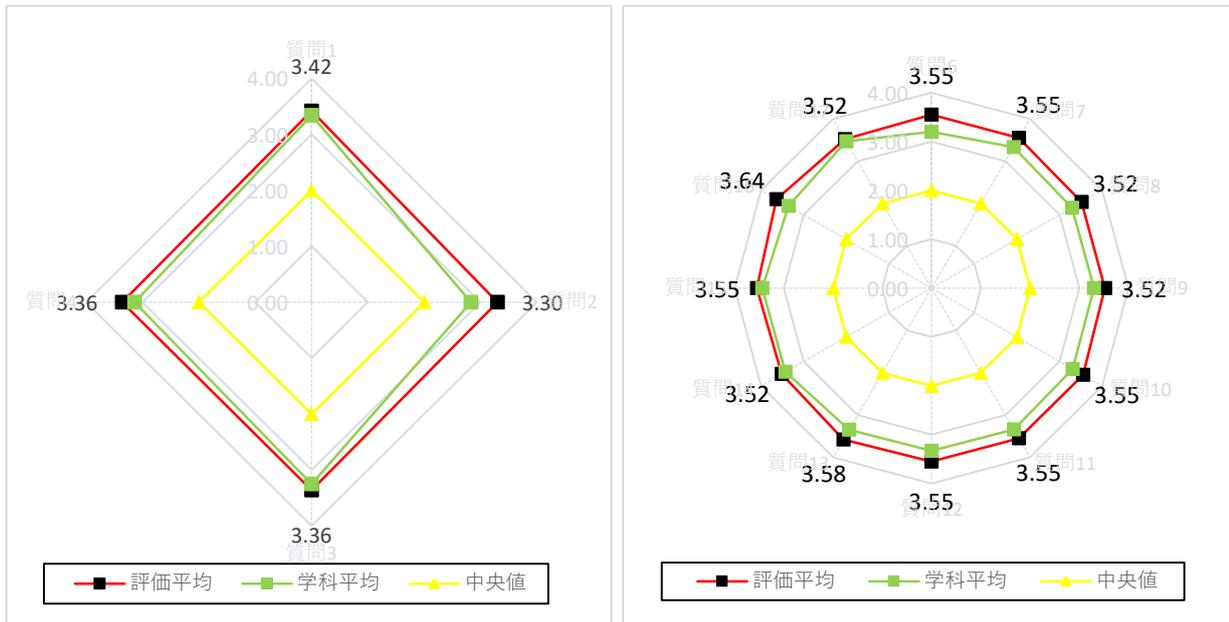
授業評価の結果は、概ね学科平均に収斂した。やや難解な経済学をできるだけ平易に説明してきたつもりだが、まだ改善の余地があるようだ。特にシラバスの説明や黒板の使い方は、評価が低く今後改善していきたいと思う。客観的なデータである授業評価があることによって、授業の改善に大いに役立つものとする。この授業では現代経済学を構成するミクロ経済学とマクロ経済学を取得することにあつたが、授業評価および試験結果からみて、これは十分に達成できているものと思う。理論的な分野の説明では、やや高度な数学などを使用してきたが、今後はできるだけ平易に説明し、よりわかりやすい授業を心がけていきたいと考える。□

(3) 次年度に向けての取り組み

やや評価の低かった項目であるシラバスの説明については、初回の授業で簡単に触れてきただけであったのを抜本的に改善し、時間を割いてより丁寧に説明していきたいと思う。また、シラバスの項目がミクロ経済・マクロ経済と多項目に及ぶために理解しにくいのかもしれない。したがって、もう少し論点をしぼって、シラバスそのものも使用しながら、わかりやすく説明することを心がければ評価も改善するのではないかと考える。今後はもっとわかりやすい資料の作成を心がけつつ、少人数でもあるため、一方通行的な授業ではなく、学生諸君と対話し、意見や質問を聞きながら、より興味深い授業に改善していきたいと思う。また、穴埋め形式のプリントなども作成・配布して学生諸君が飽きない授業を心がけたいと考えている。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		社会保障論 I	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

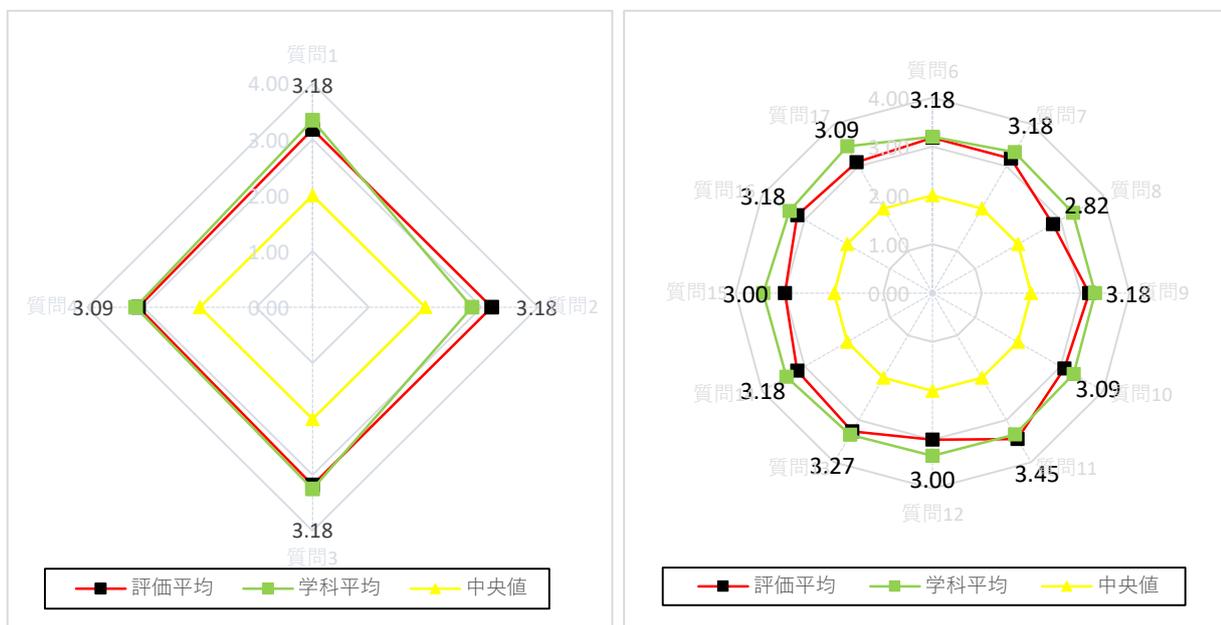
質問6から質問17に関して、学科平均を若干ではあるが上回る評価平均となった。一定の評価を得る結果になっていると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

各種国家試験や免許の指定科目となっているため、到達目標としてはそこを意識しつつ、2年次前期配当の専門科目として、まずは学生が興味・関心をもつ授業を、できるだけわかりやすく展開していきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		社会保障論Ⅱ	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

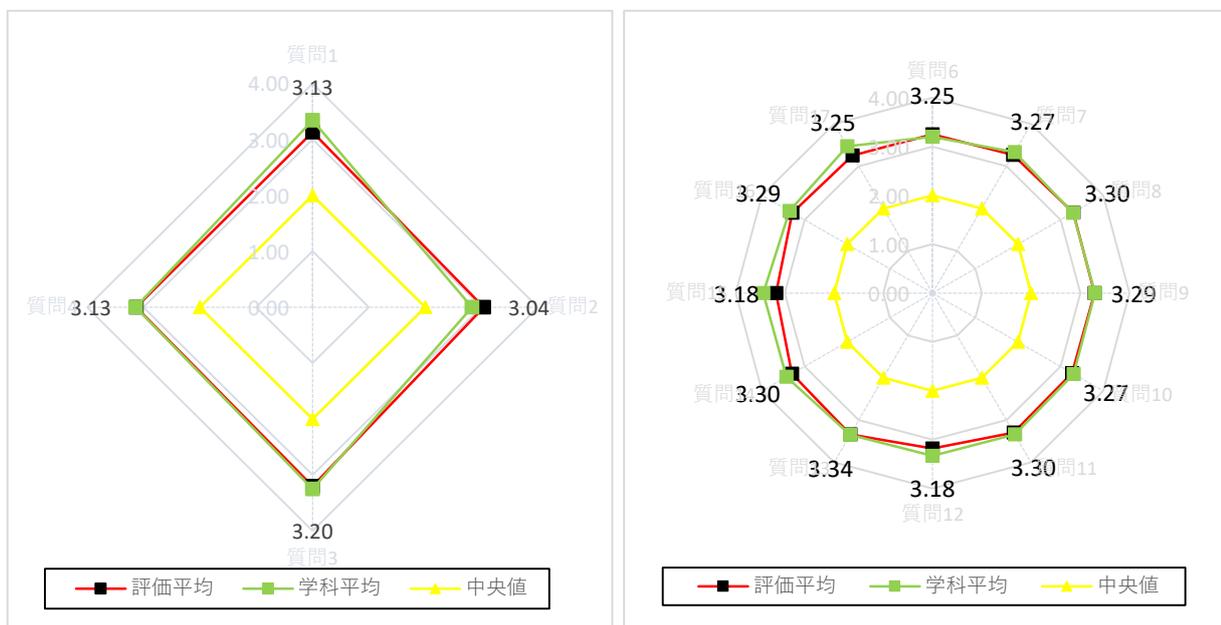
履修者56名に対して回答者が11名となっており、評価結果の平均値を履修者全体のアンケート結果とはとらえにくいですが、それをもとに考えたことを以下に挙げる。
 質問6から質問17に関して、全体的に学科平均より低い評価平均となったが、概ね3.0は上回っているので、一定の評価は得ていると考える。
 質問8（授業の工夫）に関しては、2.82となっており、他の項目よりやや低く出ている。
 後期の本科目は、前期に引き続き、社会保障制度を取り扱うことから、受講学生の興味関心を新たに引き出すということに至らなかったのかもしれない。
 今後の検討課題としたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業は、例年行っている新しいデータの提供を引き続き意識的に行いたい。
 また、学生が社会保障制度に関心を持ち、他の制度（他の授業科目）との関連性に気づくとともに、制度の体系的な理解につなげる授業を展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		高齢者福祉論	102名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

101名の受講中56名の回答があった。

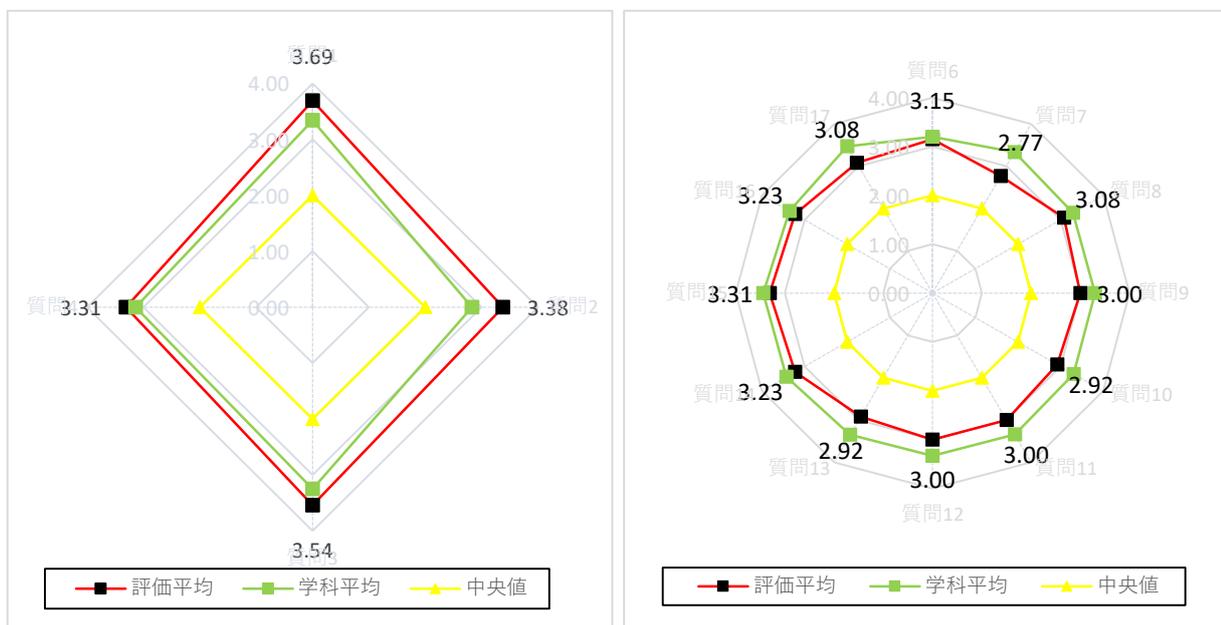
質問6から17までにおいて、1, 2の評価が、6名であった。学期途中で、授業評価を1回行い、授業スタイル等を改善していたにもかかわらず、全員の満足を得られない結果となった。学生の記述においては、「特になし」「来期もこのままスライドとプリントを使った授業がいいです。とても分かりやすい授業をありがとう」との記載があった。多くの学生は、現在のスタイルと指示してくれているが、全員が興味等をもって授業が展開できるようにしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身の受け取り方もあると考えるが、学ぶを深めるために、教材、映像教材等を随時活用し、興味を持てるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		介護論	85名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

85名中13名の回答。質問7・10・13において、2.9の評価となる。大いに反省をし、今後の授業展開に改善を加えていきたい。

また、「講義室が人数に対して狭かった。また、部屋が狭いのもあって出入りが目立った。」という点については、教室変更が行えず、学生に迷惑をかけたことについて今後の検討としていきたい。

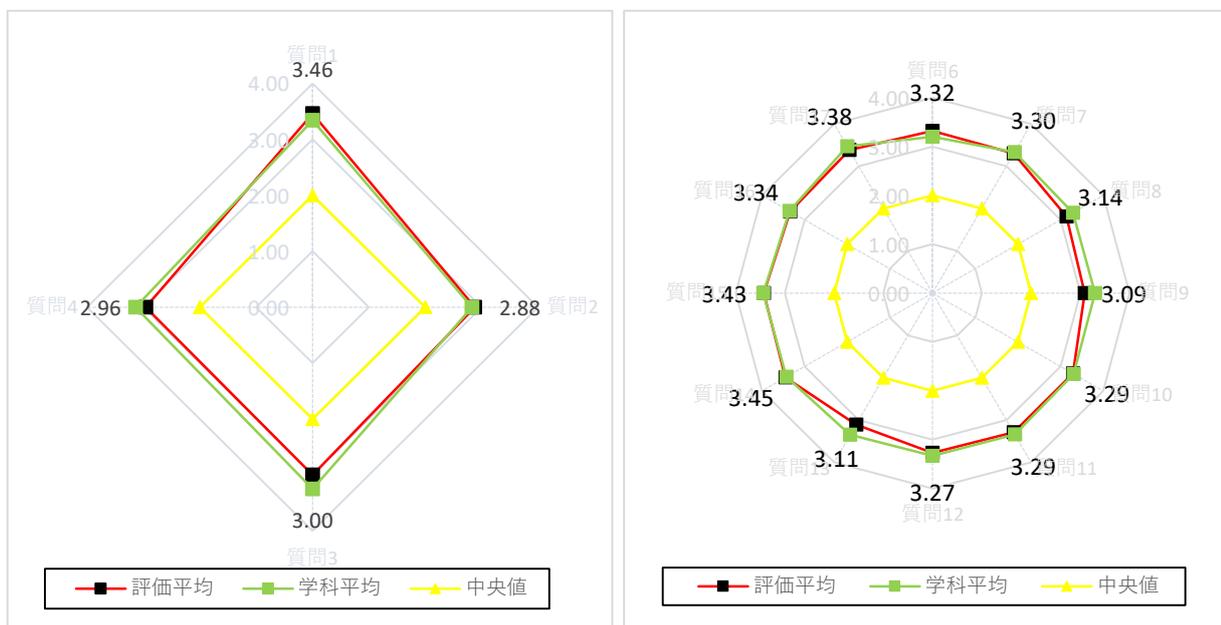
「プリントが見えにくいので、見直しが困難です。しかし、先生の授業は面白いし、メモできることが沢山あります」と自由記述を記載して呉れた学生もいるので、その点は今後につなげていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答者をまず増やす取り組みが必要と考える。今回の課題質問7. 10. 13については、来年度は改善をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		公的扶助論	89名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

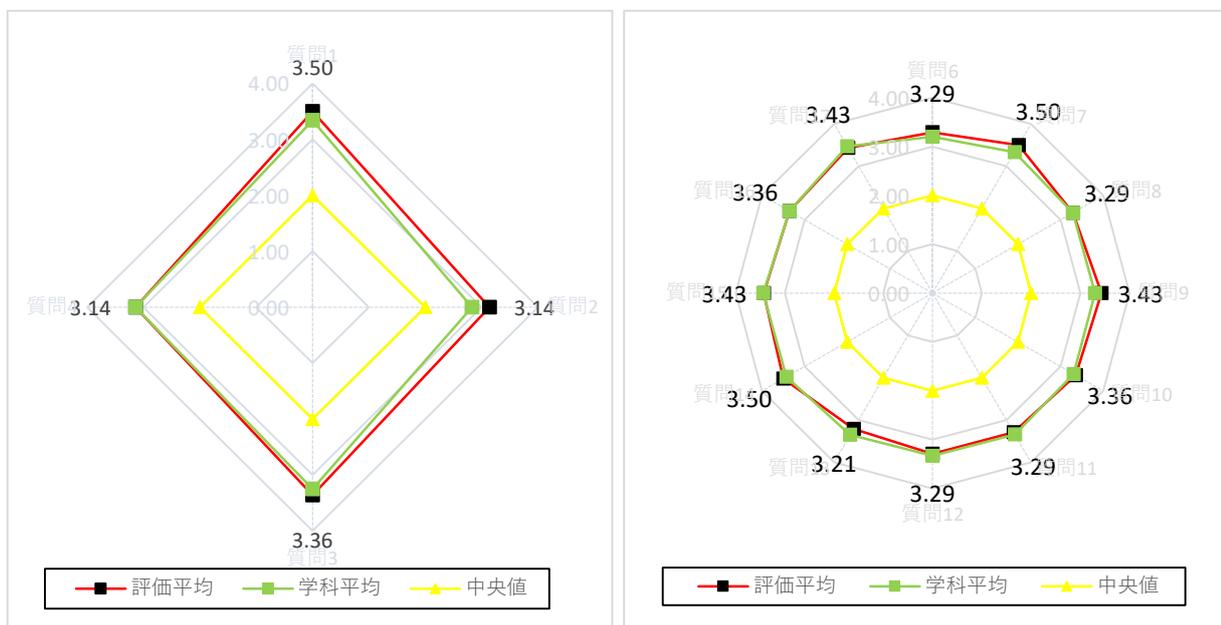
質問6から質問17に関して、学科平均とほぼ同値か若干低い評価平均となったが、3.0を下回っている項目はないので、一定の評価は得ていると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は、これまで各回の講義で単元ごとに配布してきた社会福祉士国家試験の過去問題を、講義の補助教材として、初回講義で冊子体にして配布し活用した。次年度も引き続き実施し、講義の中で国家試験を意識させることに取り組みたい。また今後、より一層「わかりやすい」授業を意識して、授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		更生保護制度	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

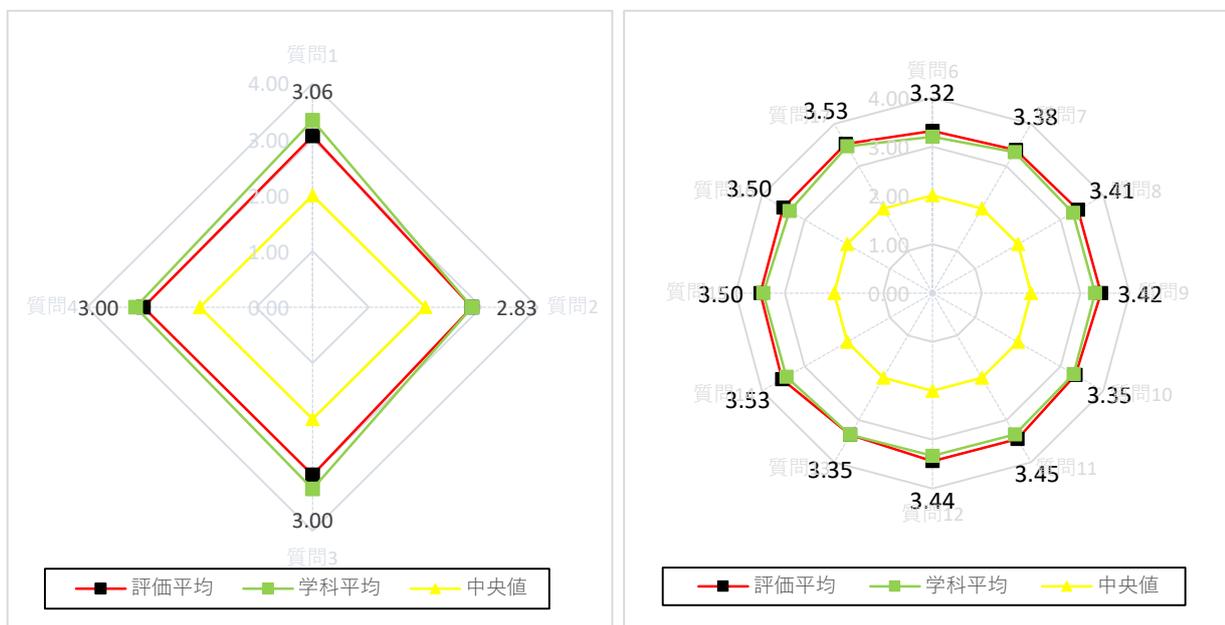
44名中14名の回答。問10. 11. 12. 13においては、授業回数が8回で、内容について、今後の工夫が必要かと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず、回答者数を増やしていきたい。 8回の内容にあった、授業展開を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅲ	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

66名の回答があった。問6から17まで1・2の評価を4～6名が行った。学科平均においては、同様であり、3.3～3.5の評価であった。自由記述については特になし、があり、おおむね学生は、現在の授業スタイルを受け止めてくれているようである。

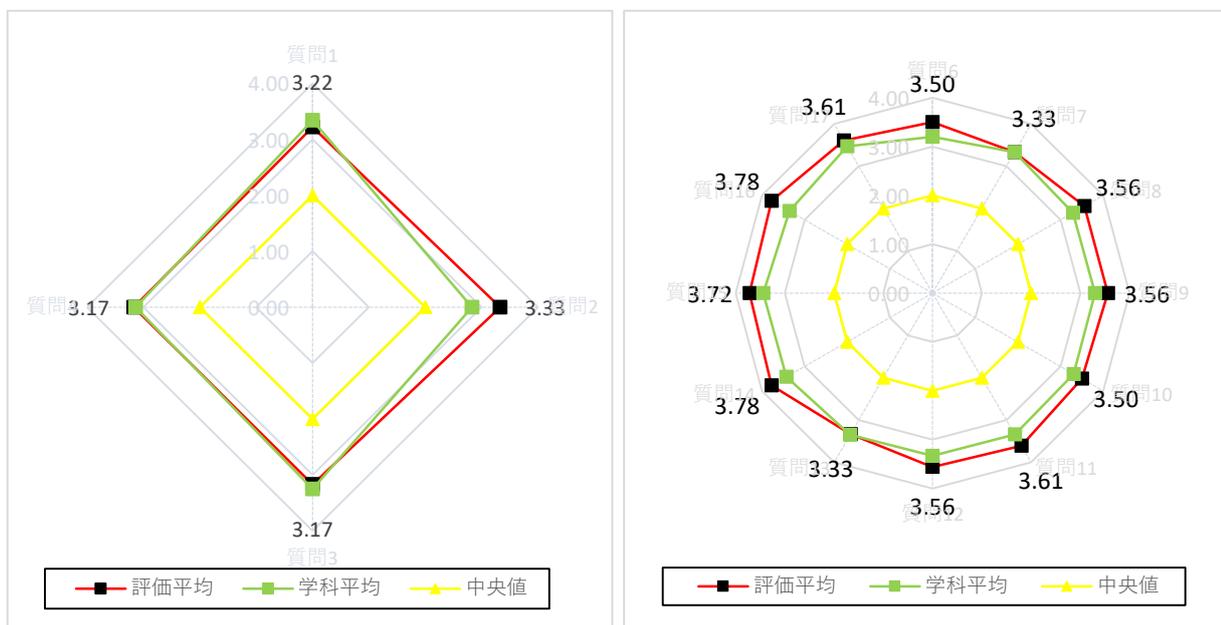
(3) 次年度に向けての取り組み

評価について、不満を持っている学生が6名ほどいるので、全員に合わせた授業展開をもう少し、心がけていきたい。

具体的には、資料の改正・学生への対応・双方向のやり取りについてである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅳ	76名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

76名中18名の回答。

問13の授業の進み方については、教科内容をすべて教えるとなると、わかりやすく説明しスピードを落とすのか、要約しながらスピード出していくのか、どちらかをとるのが悩ましいところであった。結果学生は、「早い」ということになったのだと考えるが、内容を進めるうえで課題としたい点である。

今後の展開として、以下の学生からの自由記述を参考にしていきたい。

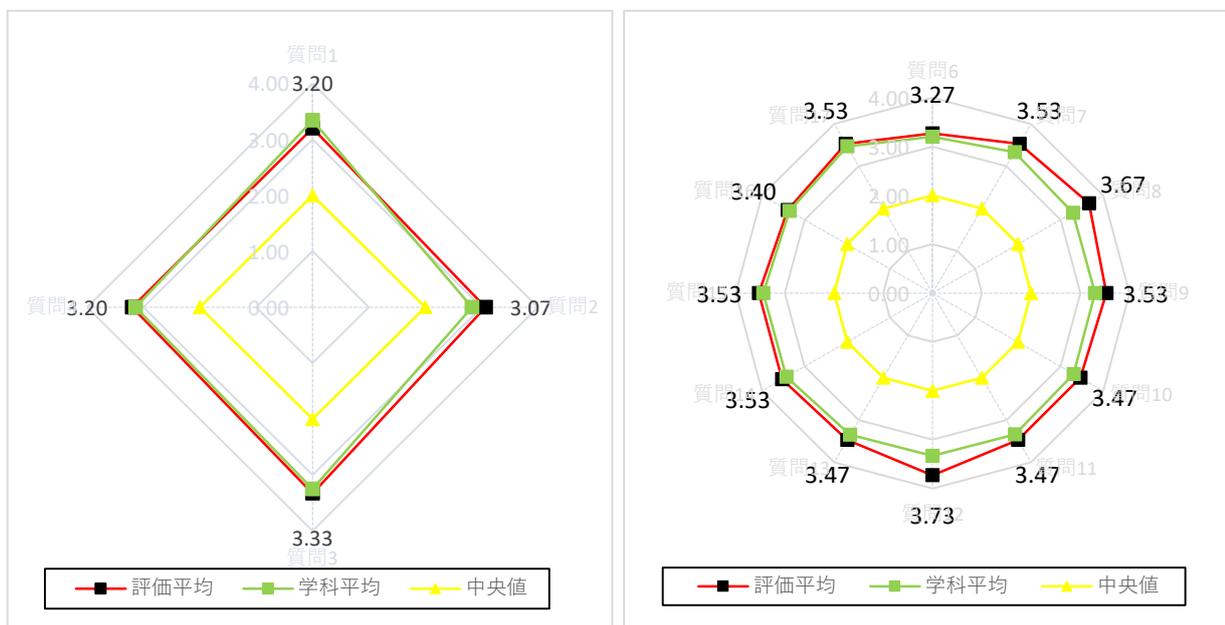
「この授業においては、やや板書や参考資料にてわかりにくい点があったものの内容をとても丁寧に教えていただき、生徒の質問にも誠実に対応していただきました。ありがとうございました。」

(3) 次年度に向けての取り組み

回答者を増やす。学生にわかりやすい説明解説ができるようにして言うk。映像やパワーポイントを適切に利用し、学びを深めてもらえる展開をさらに実施していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習 I	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

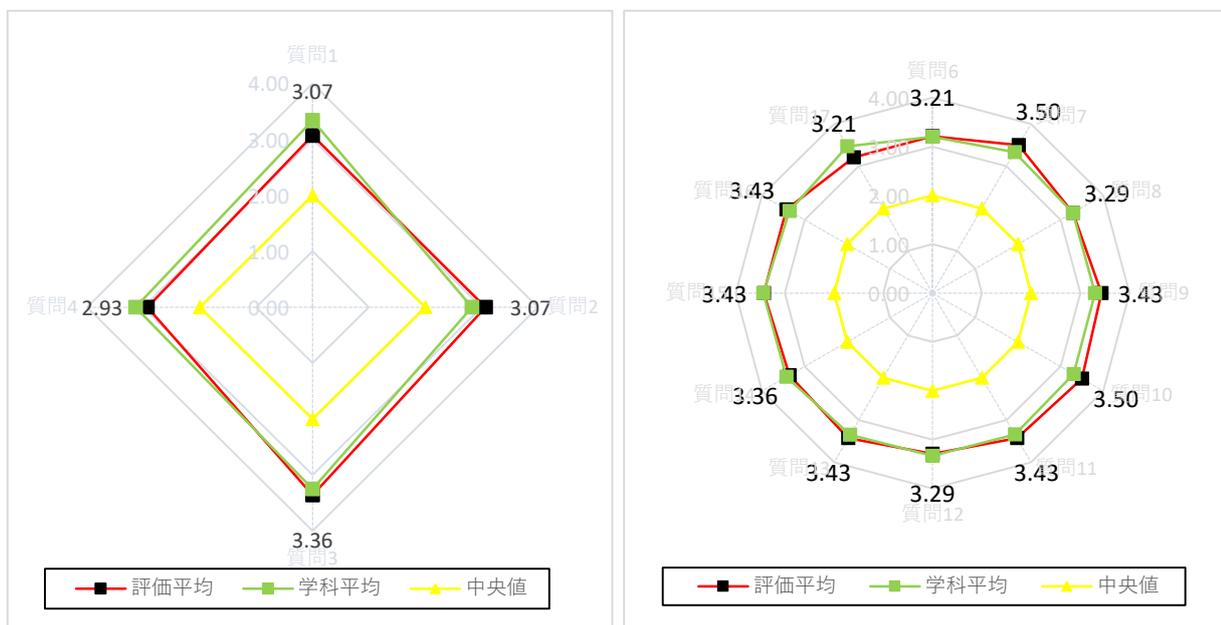
18名受講中15名の学生より回答があった。相談演習1については、授業内容を統一し、オムニバス方式でおこなった。コミュニケーションについてを担当したが、演習が中心であり、学生の満足度も学科平均であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容については、教員の協議のうえでの内容設定であるが、授業スタイル・進行等については、現状もしくはより理解しやすいように改善をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習Ⅱ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業では、相談援助に必要な専門的価値・倫理（自己決定・守秘義務など）について事例やロールプレイを活用し演習を通じた学習を行った。

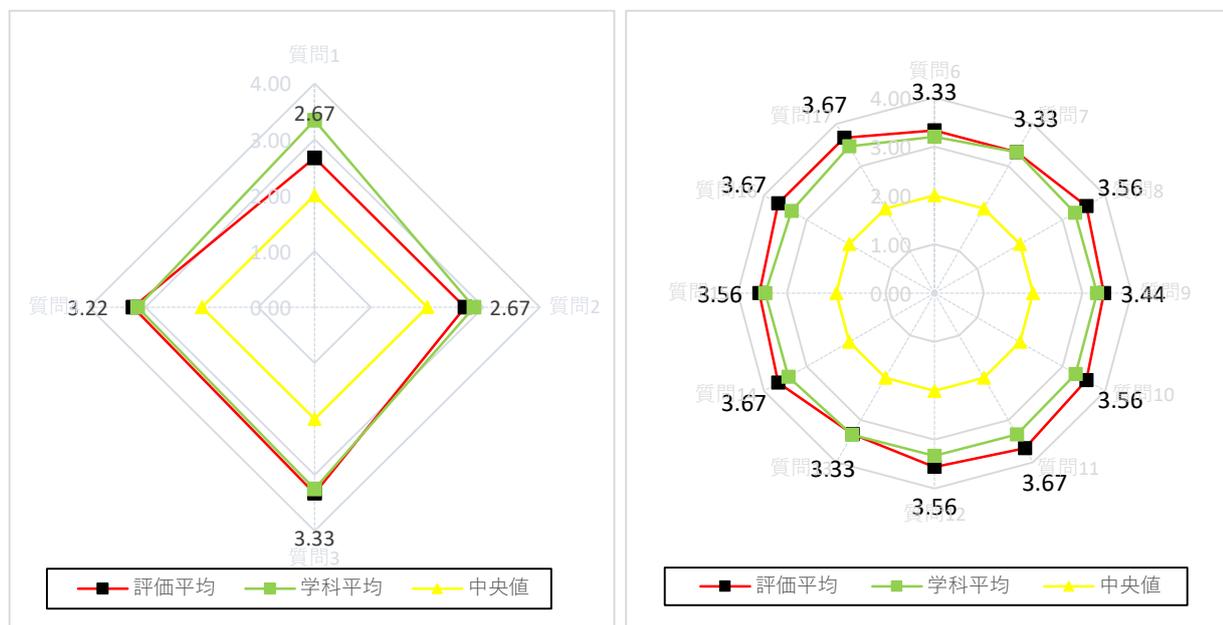
学生自身が自ら収集した、資料等を用いながら身近な地域にある福祉ニーズについて理解し、人々の生活と地域社会、社会資源等との関連性意識することができた。相談援助演習に必要な専門的価値・倫理、事例や地域での実践活動報告等を通して、相談援助の実際を感じ取ることができたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生に社会福祉分野における相談援助に対する興味を持たせるために、新聞やニュースなどから話題を提供したり、視聴覚教材を適宜使用したりしながら授業を実施したい。また、双方向的なやり取りをしながら学生に発言を促し、学生が主体的に参加できる授業を実施したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習Ⅲ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

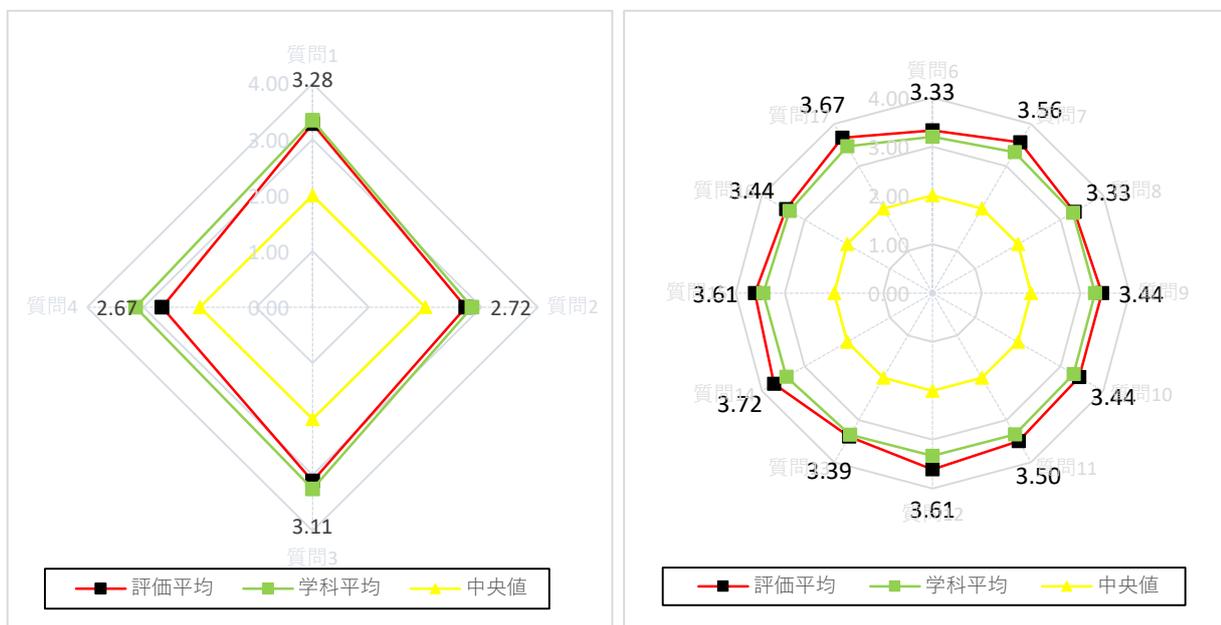
本授業では、相談援助の中核技術となる面接技術の活用を説明した上で、演習を通してその基本技術を解説し事例検討や演習を活用し、多様なニーズをもつ人々の特性や適切な関わり方を教授した。評価平均は、学科平均とほぼ同様の内容であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容・方法については、評価平均とほぼ同様となっていたが、視聴覚教材や板書の用い方を工夫しながら、生徒がより理解しやすいような工夫を行っていきたい。また、適宜、参考文献等を紹介するなどしながら、生徒が主体的に学習することができるような工夫を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習Ⅳ	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業では、事例検討を通して相談援助実践に必要な知識や技術を確認したうえで、それらを体験的に習得できるようにロールプレイなどの演習を行った。実習の準備教育の一環として、具体的な場面を想定した実技指導を行った。

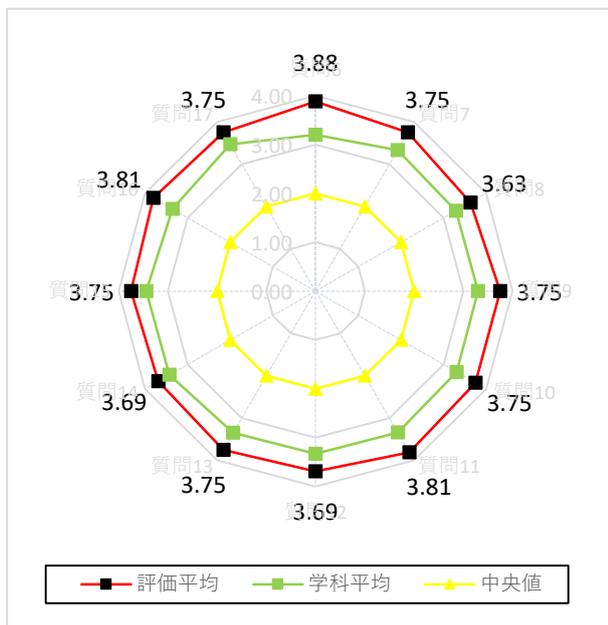
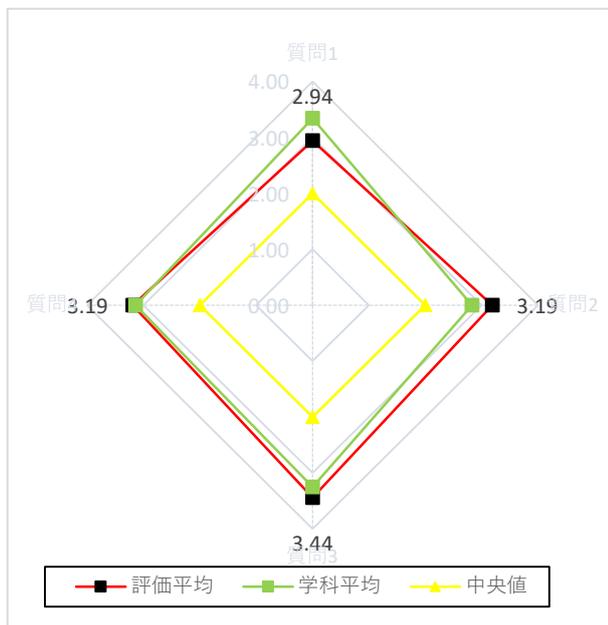
具体的な場面を想定しながら、学生自身が社会資源等の情報収集を行いながら、相談援助におけるプランニングの方法を学ぶとともに、チームアプローチの実際を理解することができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習の準備教育の一環として、より具体的な場面を想定した演習を行い、学生が主体的に参加できる授業を実施したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習Ⅴ	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業では、実習体験の振り返りを通して、対人援助の方法や専門職に求められる知識・態度について確認しながら、相談援助の理論と実践知の統合を行った。また、社会福祉における効果測定や地域福祉計画などへの理解を深めるための授業を演習方式で展開した。

評価平均は、学科平均とほぼ同様の内容であった。

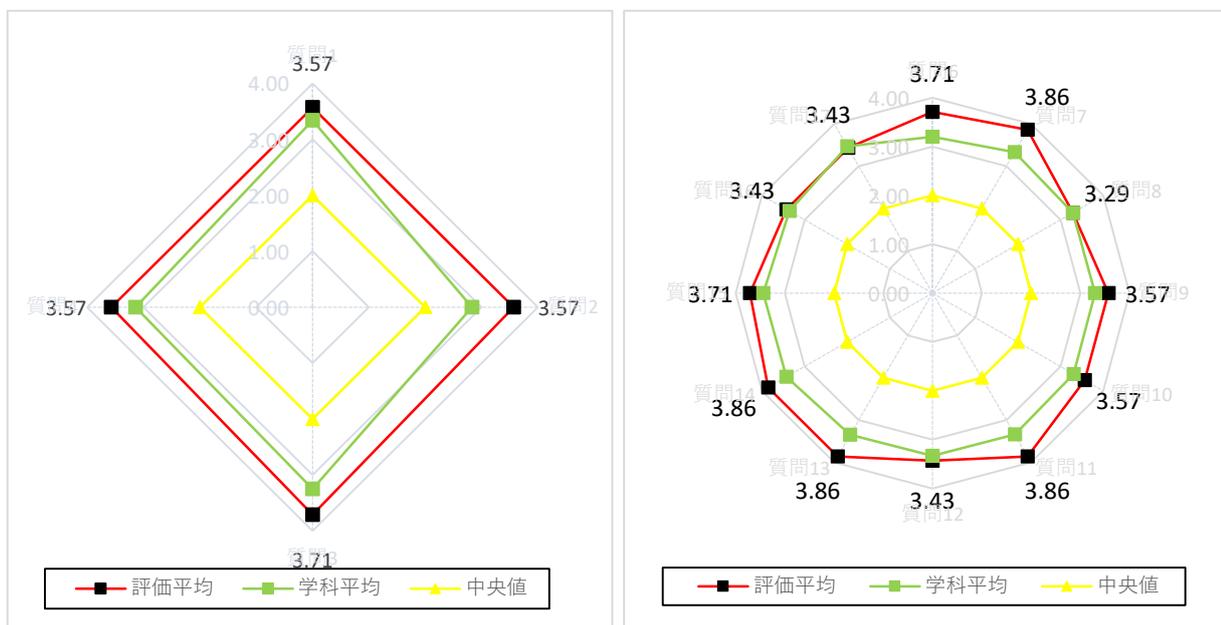
自由記述のアンケートでは、実習体験の振り返りでは他者の意見を聞く機会を得ることで学生が追体験することができたものと考えられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容・方法については、適宜、参考文献等を紹介するなどしながら、生徒が主体的に学習することができるような工夫を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習指導 I	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

33名中7名の回答。実習指導 I は内容を各担当者が協議し統一した教育を実施。

回答者の人数が少ないため、あくまでも参考としてであるが、

「1人ひとりの学生に対して、指導して下さるので、安心して実習に取り組むことができるし、社会人として大切なことを多く学ぶことが出来ました。」

との意見をいただき、学生自身の授業への取り組みは安定しているものであると考えられる。

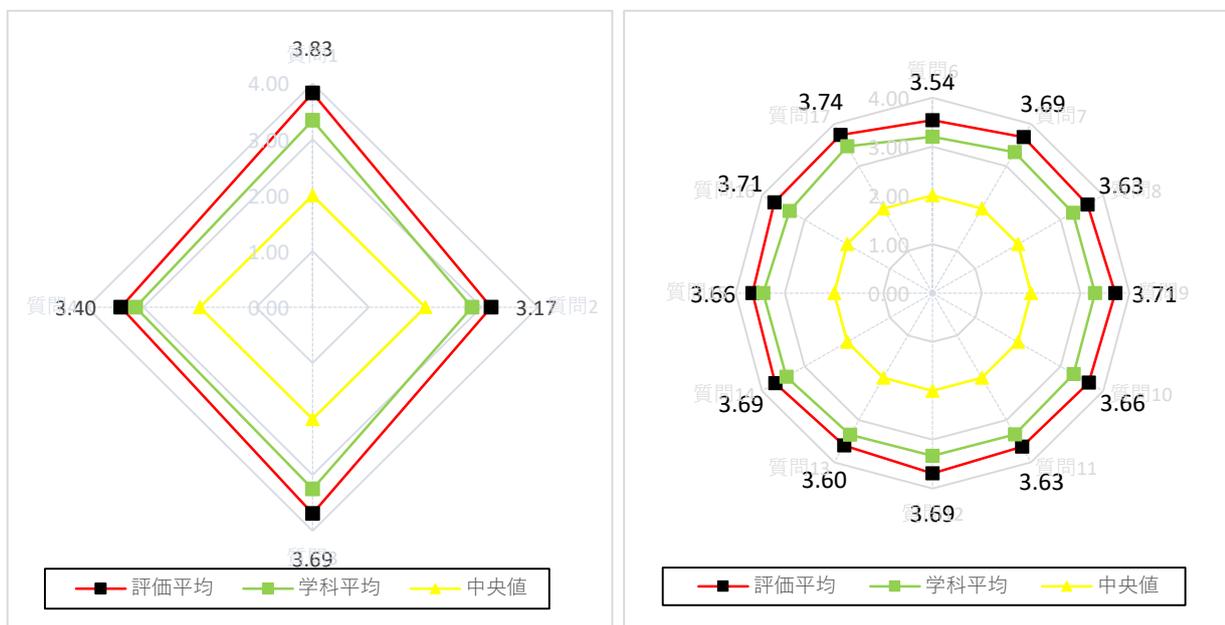
(3) 次年度に向けての取り組み

回答者数をまず確実に増やしていきたい。

レポートについての返却について、学生より意見を賜った。今後の返却方法等につて改善をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

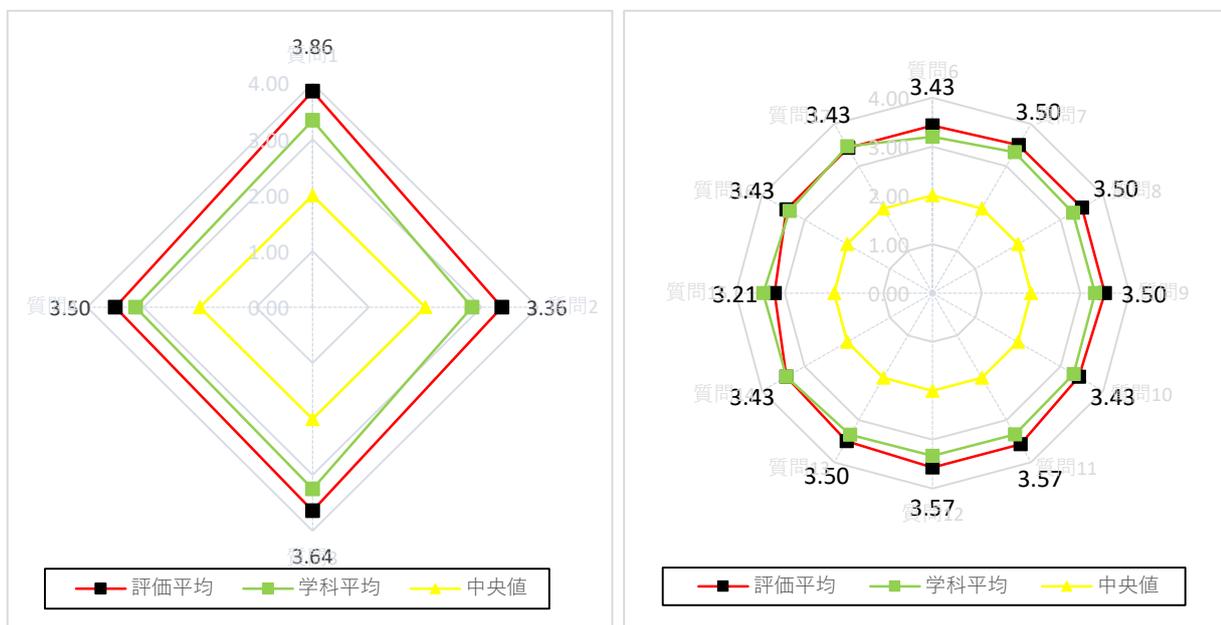
教員4名での、合議で指導を実施。教員間も情報の共有を行いながら、学生が様々な問いを持った時には、担当者外に相談してよい事。細かな内容であっても相談等を受け、必ず回答しながら展開を行ってきた。その結果、3・5以上の評価が各項目挙がってきたと考える。1～3名の学生が十分でないと考えている項目があるので今後の課題としていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身が、学びが深くなれる指導を展開することを目指していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習指導Ⅲ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

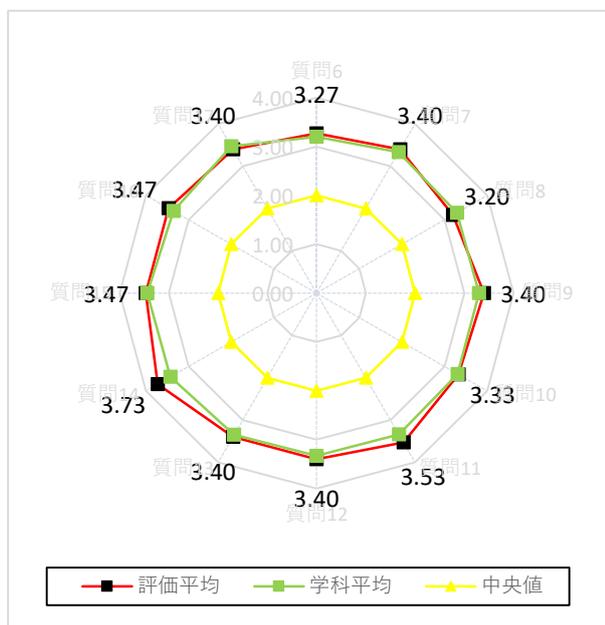
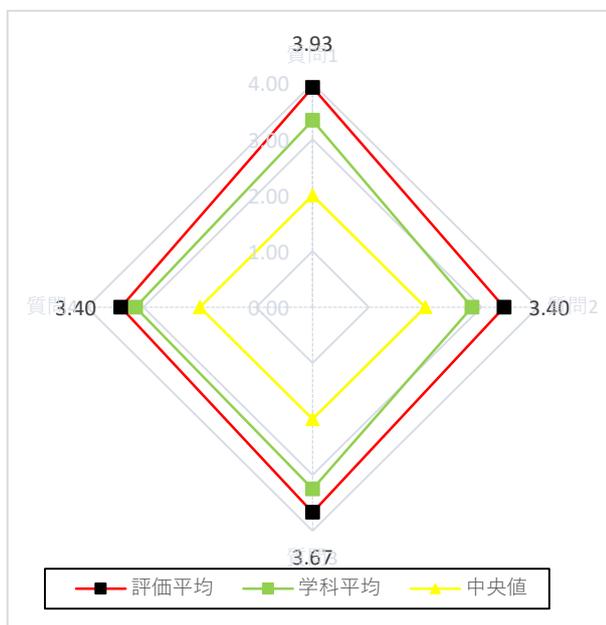
44名中14名の回答 実習終了後の指導に当たる。 問15について、3名の学生が十分でなかったと捉えている。学生に対して、重要事項についての決定や講義・進行方法等は、各教員個人で行うのではなく、協議を重ね、実施しているが、今後の課題としていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答者数を増やす。
 学生の実習終了後の指導であるため、どうしても実習前と比較し厳しい指導をせざる得ない時もある。それに対して、複数の相談場所を用意し、全員が同じ指導を受け、公平に対応していることを学生が理解でき、納得できるようにする。
 公平でないと感じる場合は、それに対して意義等を申し立てられる環境を準備する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

14名の回答

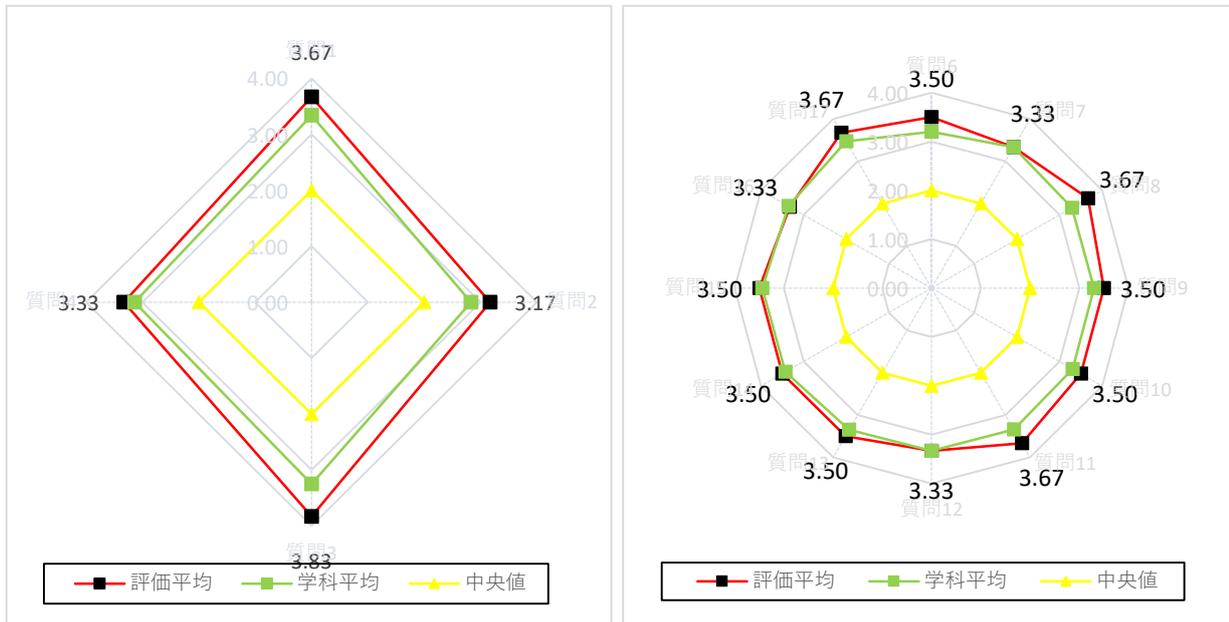
実習については、現場での指導に関する捉えるのか、実習中の大学の指導に対するのか
 学生に説明を行わずアンケートをとっているのが課題であると思うので、来年は気をつけたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

何を指して、実習の評価とするかを 検討していきたい。
 実習指導Ⅱ・Ⅲとの違いを明確にしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク特講	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

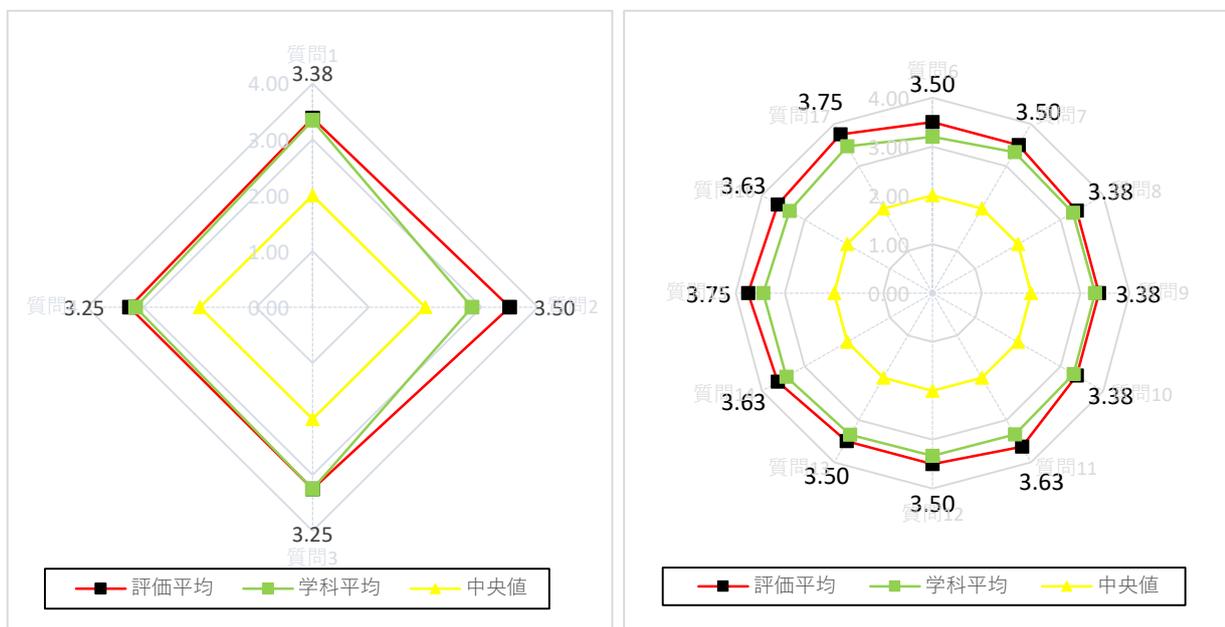
12名中6名の回答。メゾマクロミクロの3領域で1年をかけ実施。スケジュール等が外部との連絡調整の為、開講日の変更等があり、学生にはその点迷惑をかけた点が評価2を1名感じた点であるかとする。授業の進行については、2名の学生より指摘が挙げられ今後の課題としていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答者をまず増やすことを行いたい。
内容については、おおむね満足をしている結果となり、その点については、今後も進めていきたい。
授業展開については、今後の反省課題としていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療ソーシャルワーク	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

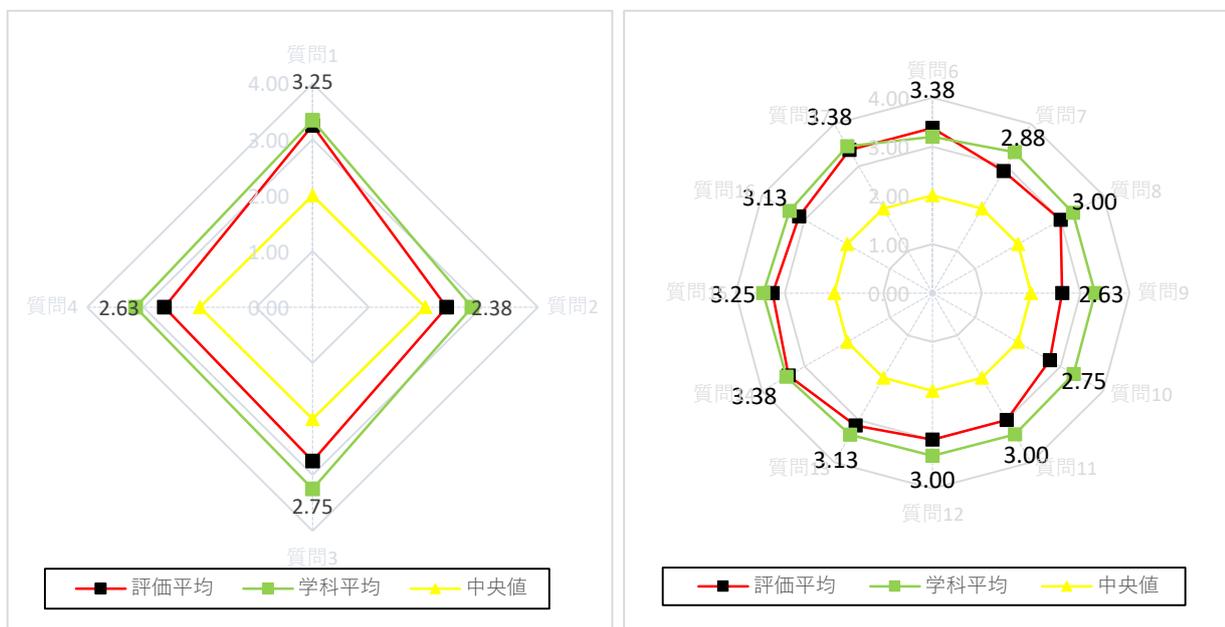
22名中8名の回答。医療SWは、見学実習が中心であり、計画立案実施を自分たちで考えることができるのが目的であった。が、担当者が新規に担当を持ったため、なかなか連絡調整がうまくいかず学生に迷惑をかけた部分があった。その点が1名の不満となって挙げられたかと思われる。学生自身が学びを深めていった部分で、3.5以上の評価となったかとする。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答率を上げることもまず挙げられる。少し早目の計画を実施していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		多文化ソーシャルワーク	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

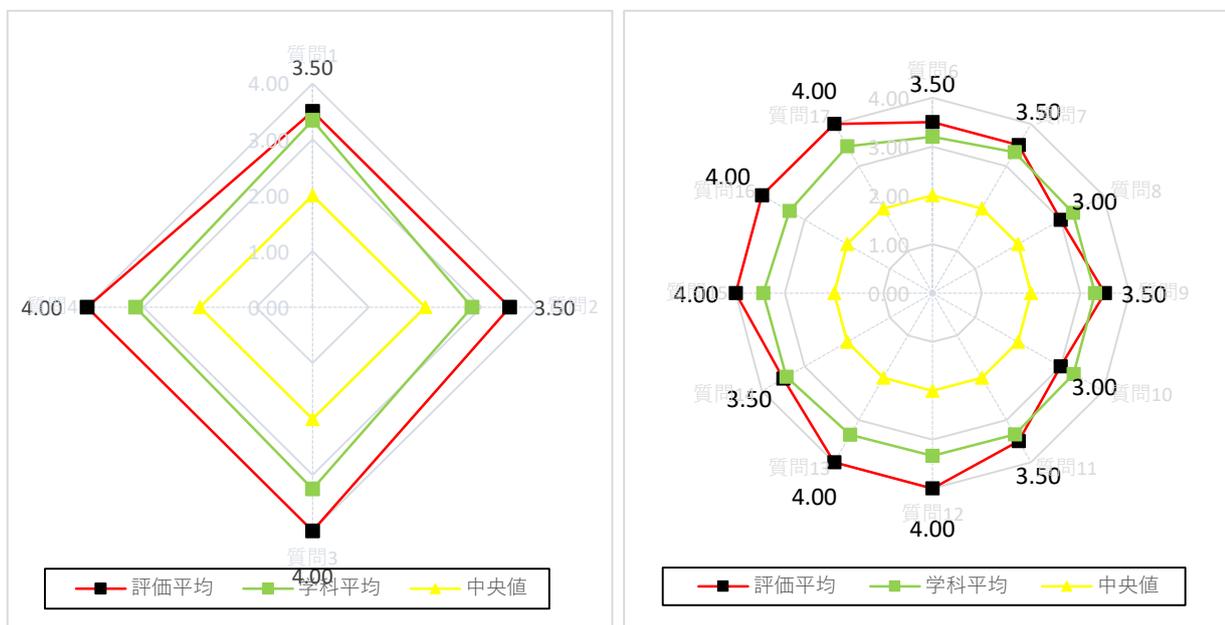
シラバスに関する説明をのぞいて、全ての項目で学科平均を下回っている。強化運営に関する抜本的な改革が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

科目担当者間での連携を密にすることによって、全般的に学生による評価が向上するよう改善をはかる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

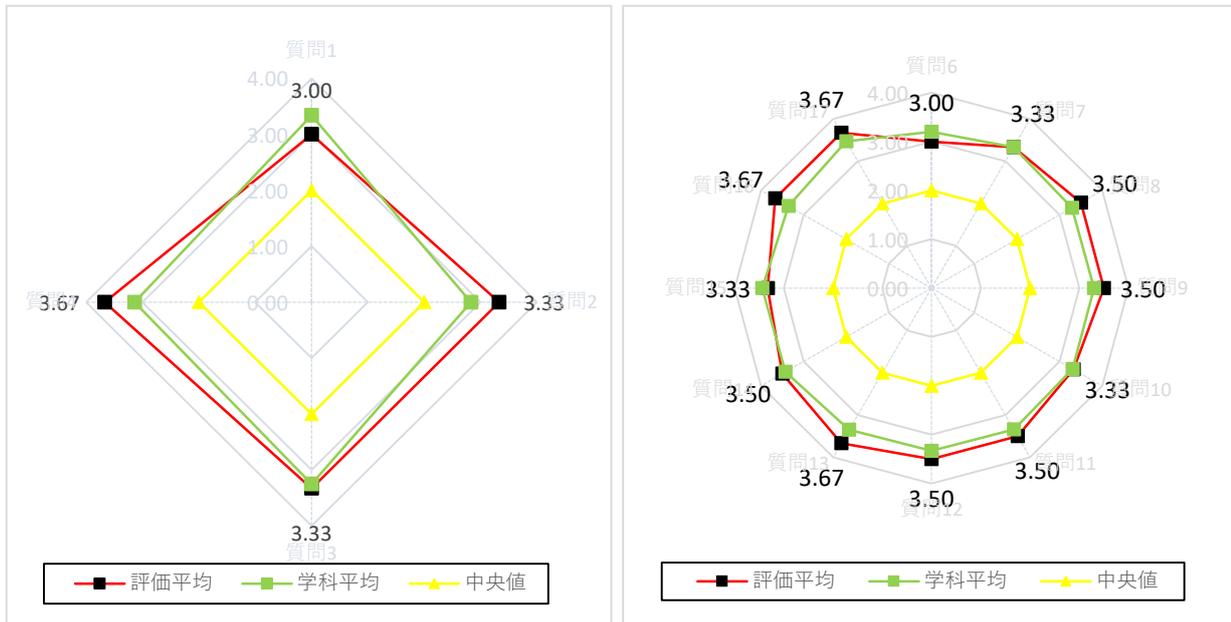
2年生にはやや難しさを感じる科目であるが、1年次で受けたの講義の理解確認を繰り返すような講義内容となる。そのため板書することは少なく、課題に従って班ごとに調べて発表を行うことの繰り返しである。教員による一方的な講義ではないことは講義初めに説明している。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様の取り組み、講義内容となる予定

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

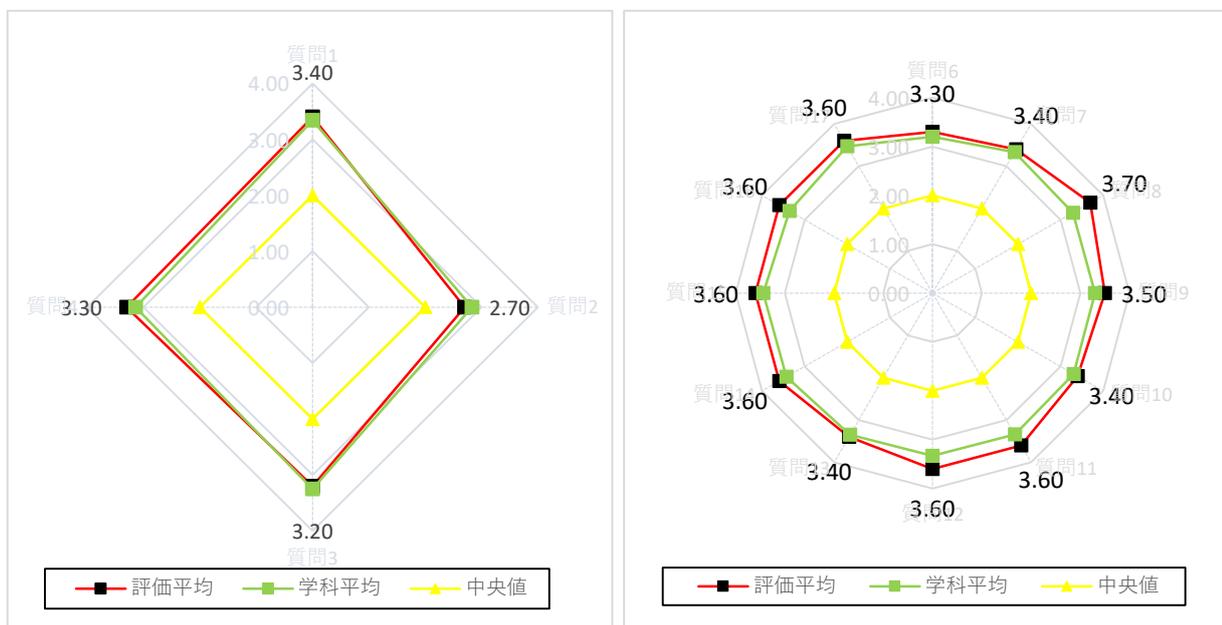
精神保健福祉の入門科目であり、精神保健福祉の歴史をたどる内容である。昭和時代くらいまでの流れには学生の興味が続くが、近年は法改正が多く内容も多岐になるため、学生にとって暗記科目のような講義になりかねない。毎回質問紙を配布し、翌週それに答えるという方法で、コミュニケーションを図っているが、試行錯誤の状態である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様に、質問紙を用いたコミュニケーションを図りながら、講義に工夫を重ねていく予定

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

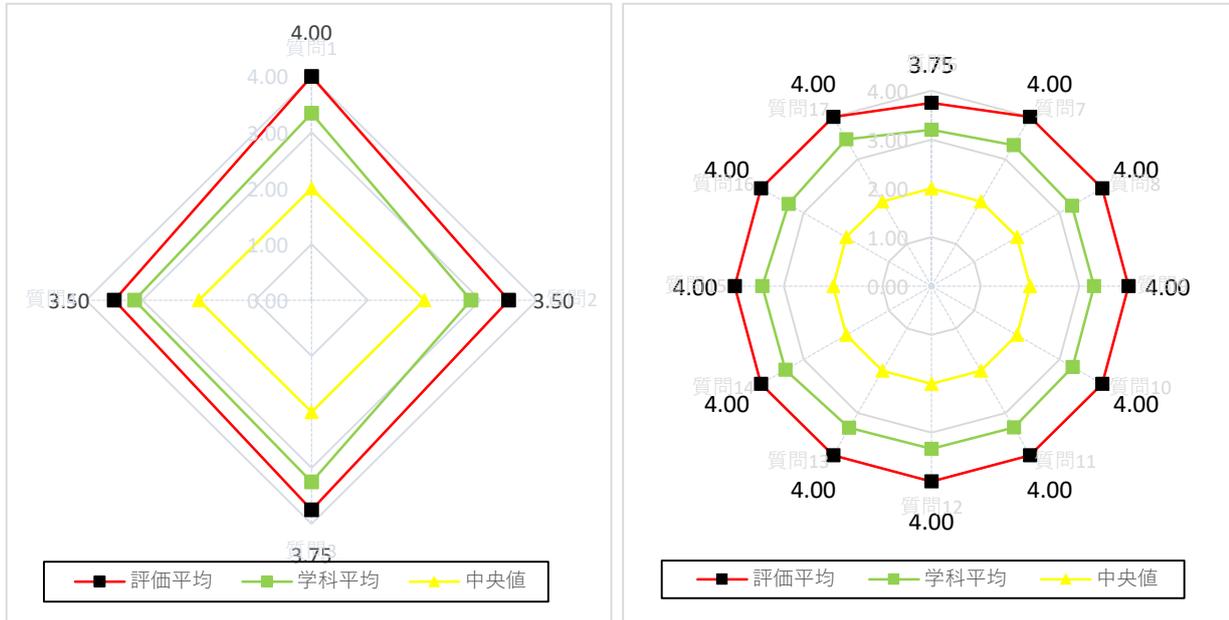
2年次で受けたの講義の理解確認を繰り返すような講義内容となる。そのため板書することは少なく、課題に従って班ごとに調べて発表を行うことの繰り返しである。教員による一方的な講義ではないことは講義初めに説明している。また、時節に応じた講義（政治・社会の動きに呼応するような）となるkが多いため、シラバス通りに進むことが必ずしもできていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様の取り組みとなる予定

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助演習 (専門) I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

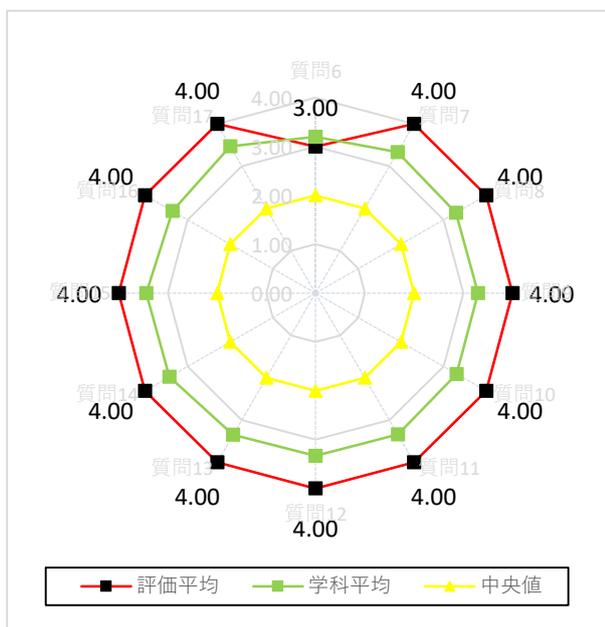
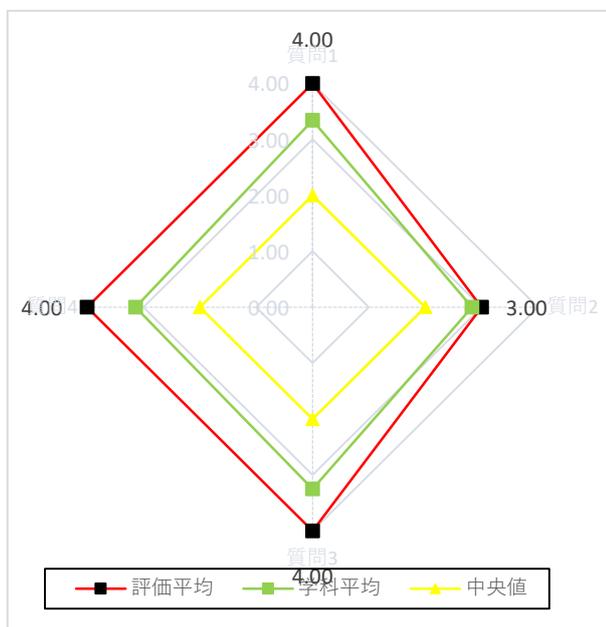
精神保健福祉援助実習指導と時間をつなげて、事例検討や課題解決に有効に時間を使っている。実習前の科目でもあり学生もモチベーションも高いため、それにこたえられるよう、講義内容も毎回工夫を凝らしている

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助演習 (専門) II	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

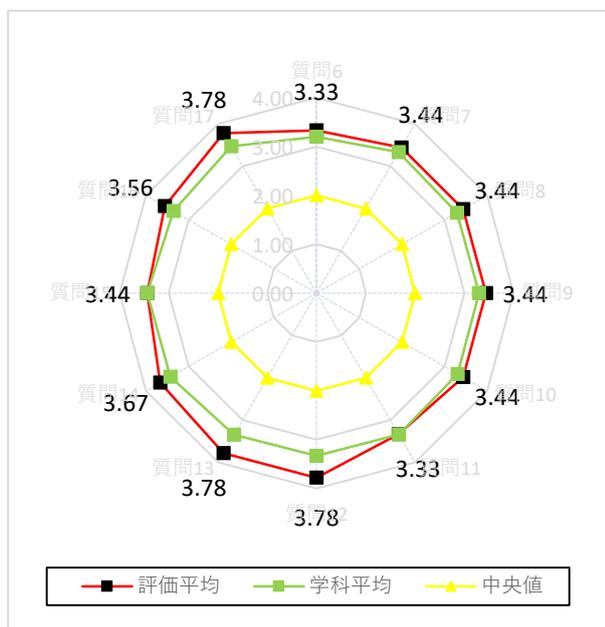
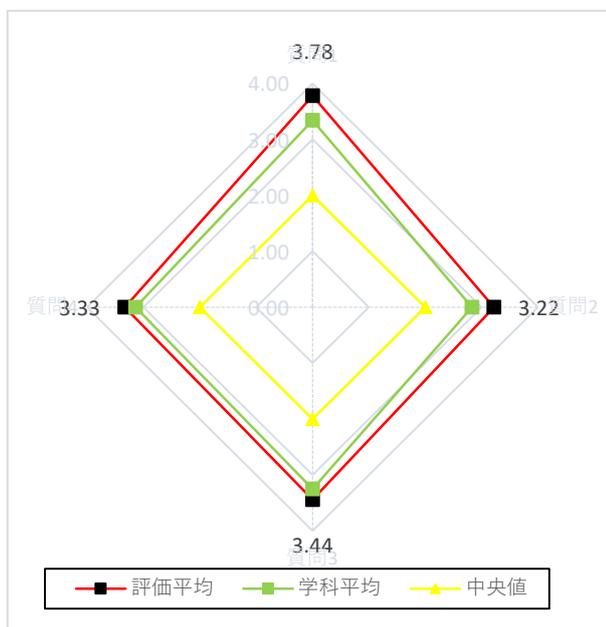
実習後の報告書作成と報告会開催が主目的の科目である。そのため個人指導、班指導が週となり、シラバスは用いていない

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神障害者の生活支援システム	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

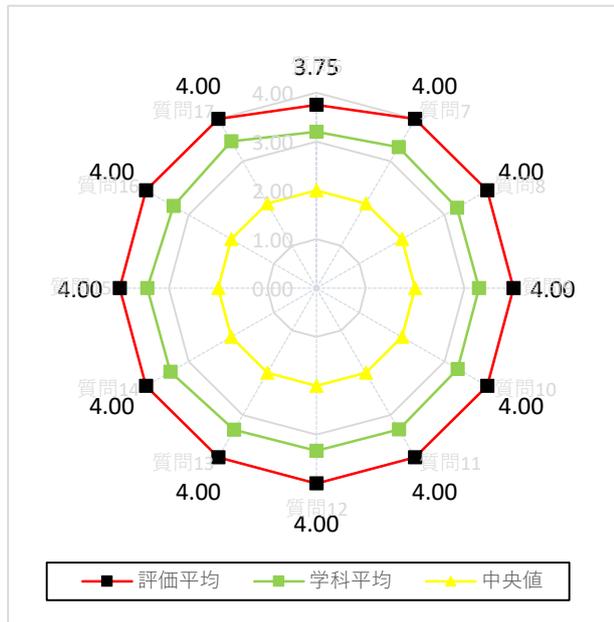
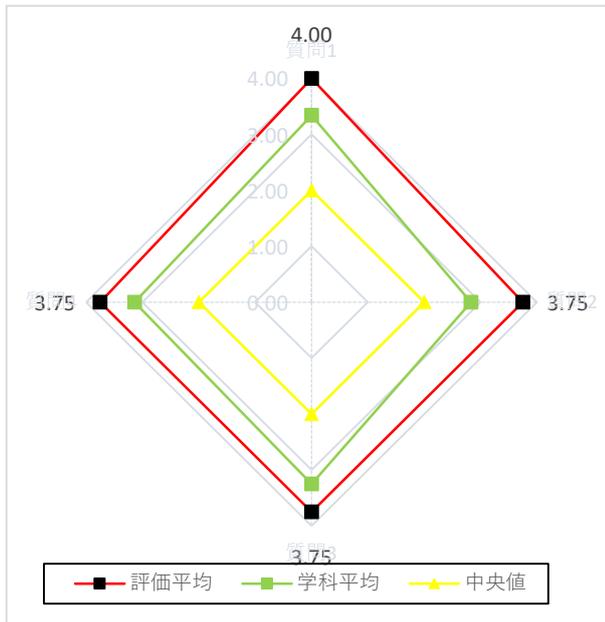
1年次で受けたの講義の理解確認を繰り返すような講義内容であり、毎年教科書のグラフ等の読み取って、精神障害者の生活を理解するような講義方法である。そのため板書することは少なく、課題に従って班ごとに調べて発表を行うことの繰り返しである。教員による一方的な講義ではないことは講義初めに説明している。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

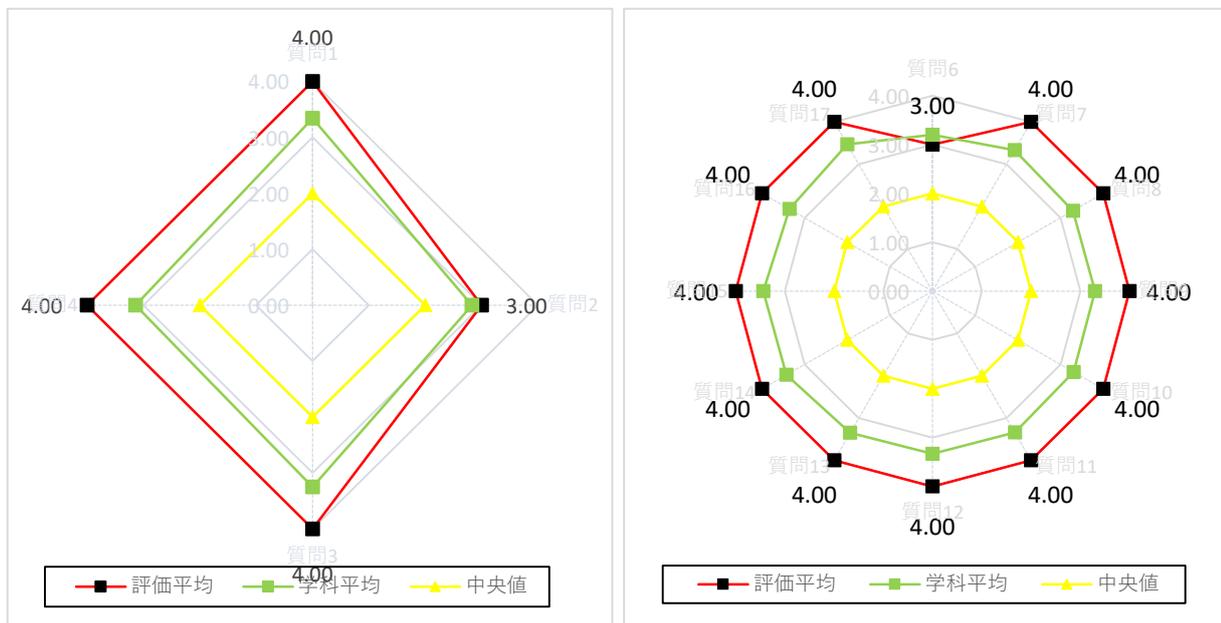
精神保健福祉援助演習と時間をつなげて、事例検討や課題解決に有効に時間を使っている。実習前の科目でもあり学生もモチベーションも高いため、それにこたえられるよう、講義内容も毎回工夫を凝らしている

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

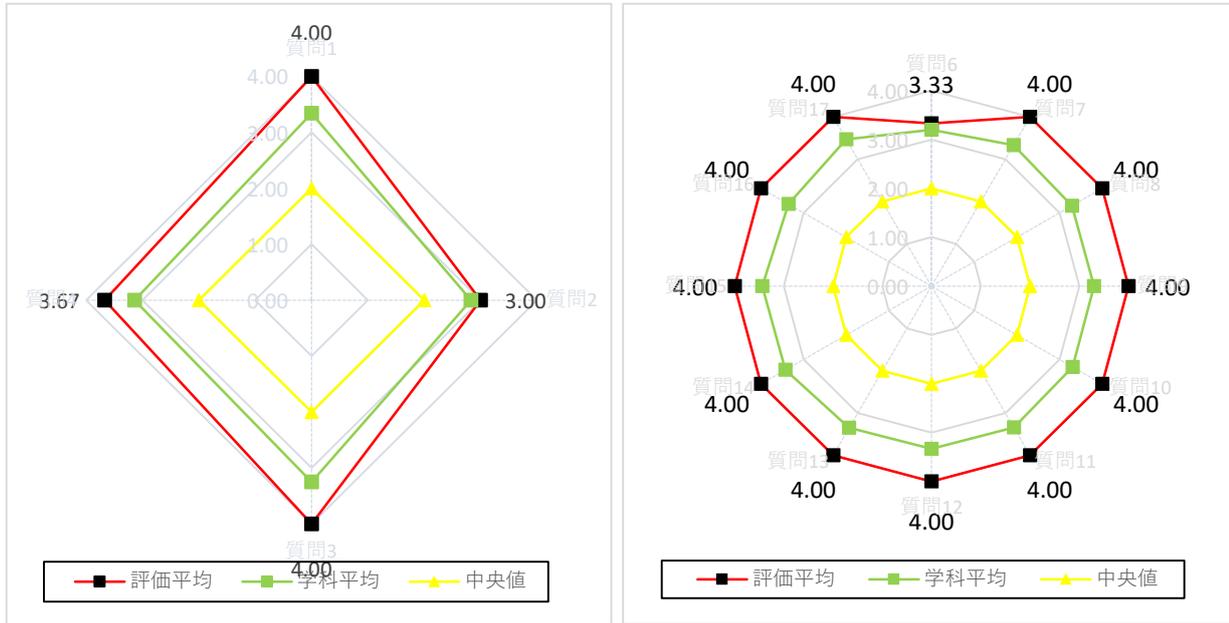
実習後の振り返りと報告会開催は主目的の科目であるため、シラバスはほぼ適用しない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習指導 I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

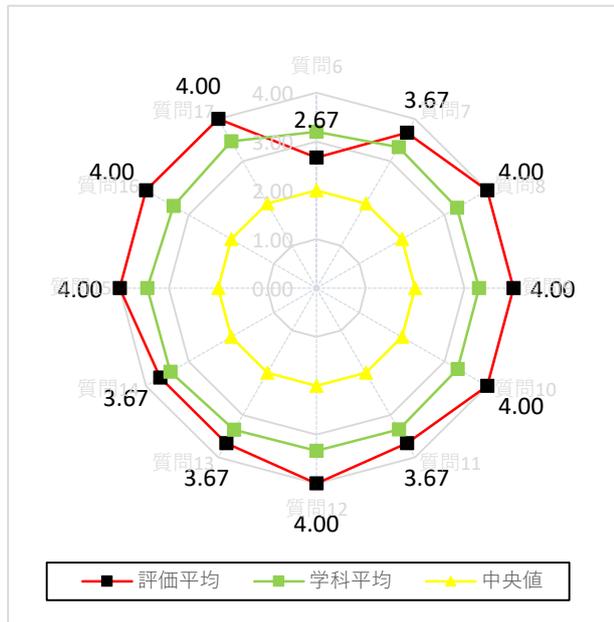
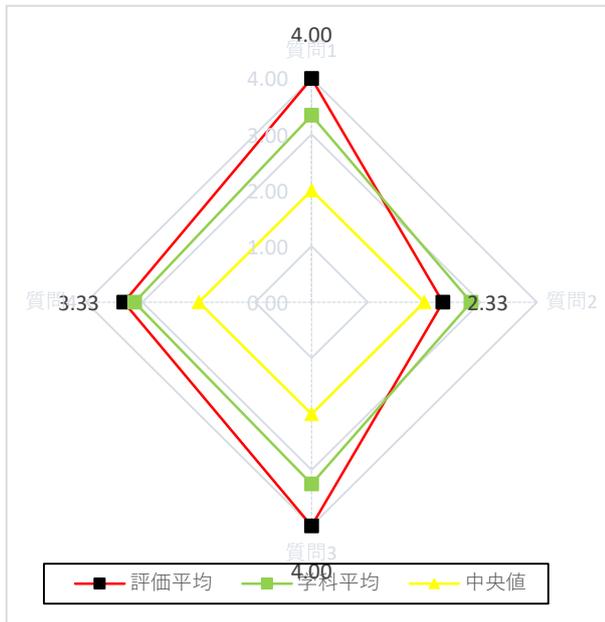
3年次後期科目である、社会福祉実習の振りかえりの中から、精神保健福祉実習に関連が深い内容をその場で取り上げて検討するため、毎回教員にとっても準備がしにくい科目であり、シラバスは用いていない。また実習日誌の書き方の練習のため週に3枚の日誌提出を義務付けているが、教員の労の割には学生には不評である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

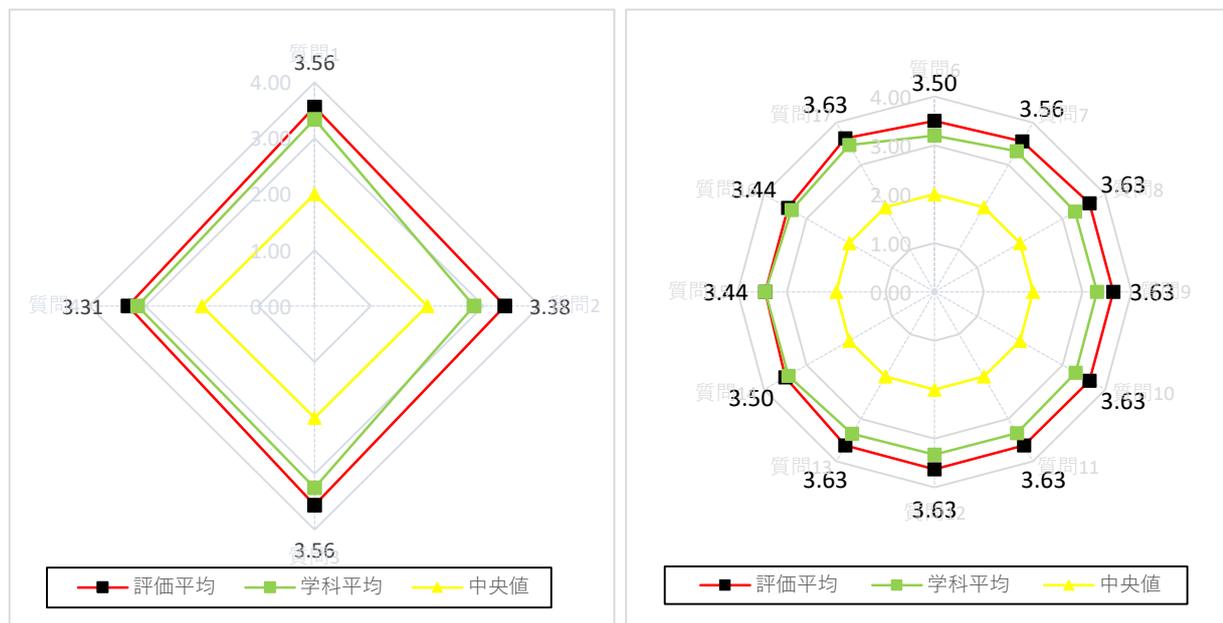
実習巡回学生表に個別に記載

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も同様

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教職実践演習（中・高）	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

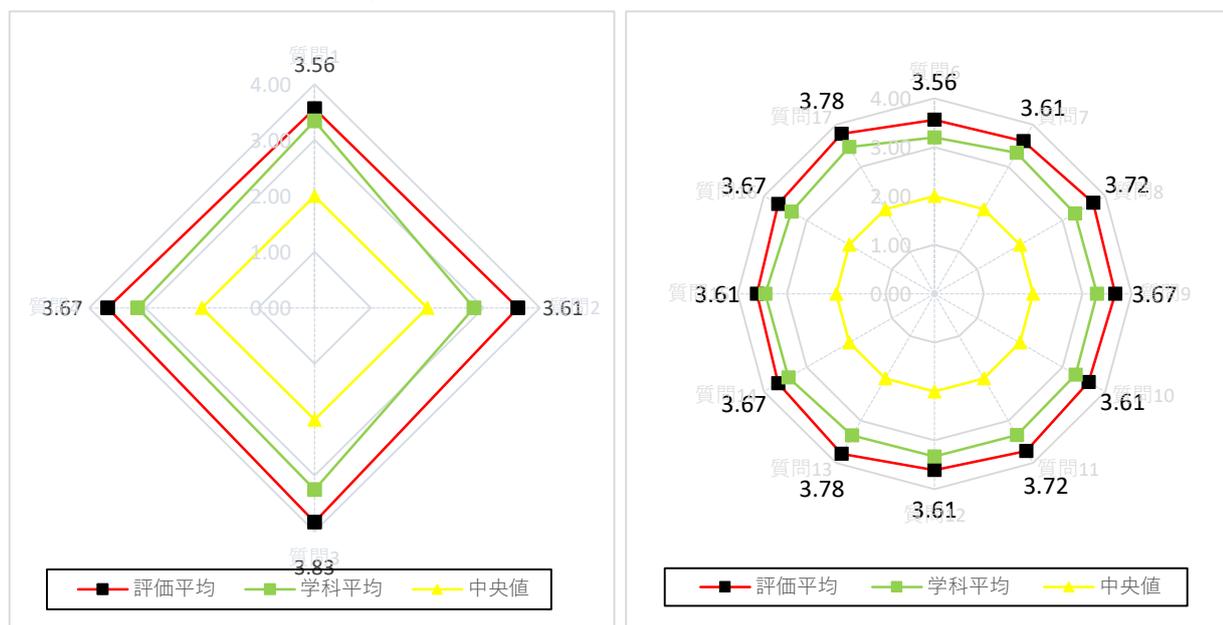
全体的に良くないところが少ないという評価内容です。平均的あるいは良い評価が多い傾向が見られました。教育実習を終え、教職課程の締めくくりとして行われる授業ですので、受講生の能力やモチベーションが高いことが、この評価の一因であると考えられます。教員免許状取得に向けての総まとめの授業という目的を理解している学生が多い印象です。（記入者：植田）

(3) 次年度に向けての取り組み

「実践演習」ということで、演習形式でこれまでの総まとめを進めてきました。しかしながら、教職教養が十分身につけていないと自己評価している学生たちが多くいますし、レポートや発表をみてもそのように感じられることが多かったです。これまで学んできたことを活かして、ディスカッションを進めていくという形式をとっていますが、授業の中であるいは課題として、再度教職教養の基本的な内容を復習しておくことも大切ではないかと感じているところです。（記入者：植田）

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育実習事前事後指導	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は教員免許状の取得を目指した4年生を対象にしており、欠席等のルールも厳格に実施しているので、全体的に評価が高くなっています。教員の姿勢や授業上の工夫というよりも、授業の特性や学生たちのパーソナリティに起因するものです。ただし、教育実習先から実習態度や受講生の特性についているいろなご指摘を受けております。教育実習に万全の態勢で臨めるように、次年度以降授業改善の余地があります。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回、事前指導と事後指導をそれぞれ4回ずつやったのですが、次年度以降それぞれ次のように改善する余地があるかと思えます。

【事前指導】

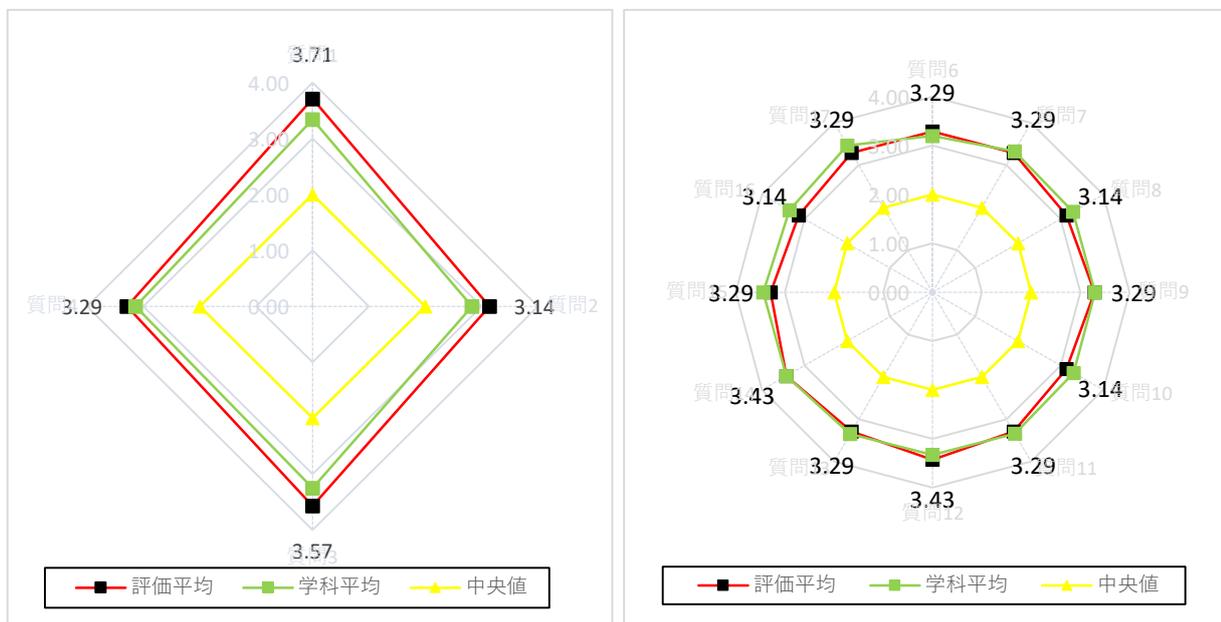
- ・実際に実習に行ってみると、教科の専門性が不十分であるという課題を持っている学生が多かったです。みんなで共有できるような指導案や教材を事前指導の中で作成できると役に立つと思えます。
- ・問題行動を起こすような学生はいませんでした。人の前に立つことが苦手な学生が多くいました。事前指導では人前での発表の回数を増やして、発表に慣れてもらおうと思えます。

【事後指導】

- ・教育実習報告会を実施しましたが、クラス内だけでの実施でしたのでもったいない気がしました。教育実習参加にあたり不安を持っている下級生がたくさんいますので、次年度以降は公開して実施することを検討したいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		進路指導論	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

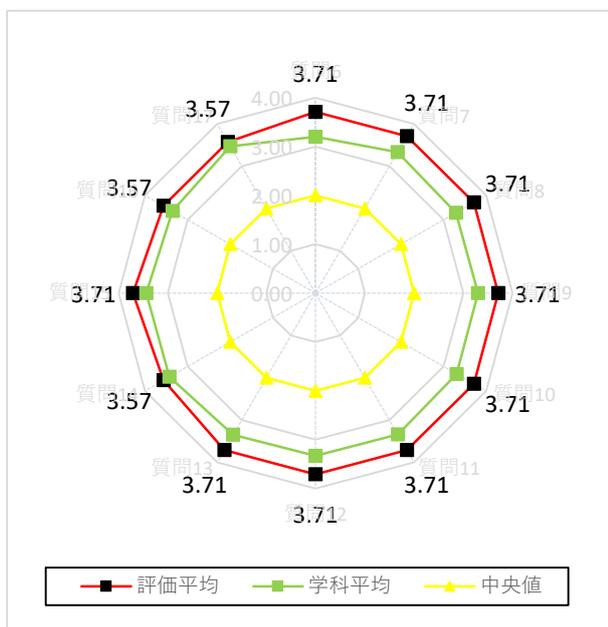
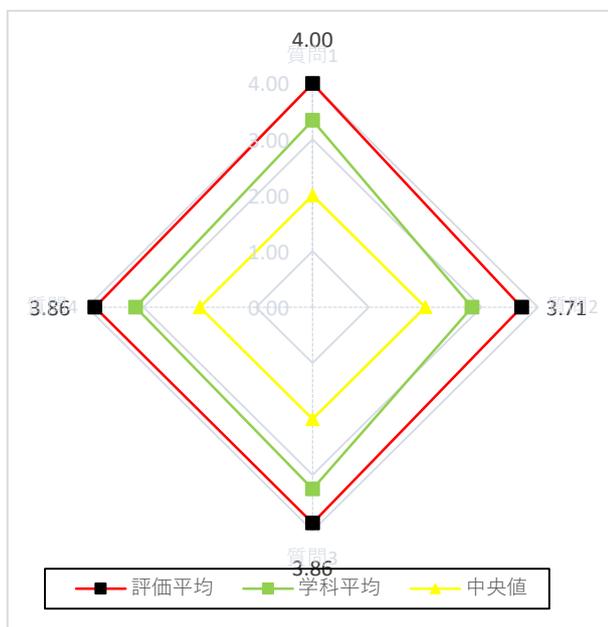
類似した内容の授業ではあったものの、佐賀キャンパスでの授業にくらべ、質問16など評価平均が学科平均を下回っているものが散見している。

(3) 次年度に向けての取り組み

履修者に重複がなければ、佐賀キャンパスで使用している資料を利用するようにし、重複する履修者がいれば、部分的に資料を改訂しながら授業を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 心理カウンセリング		教育実習（高）	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

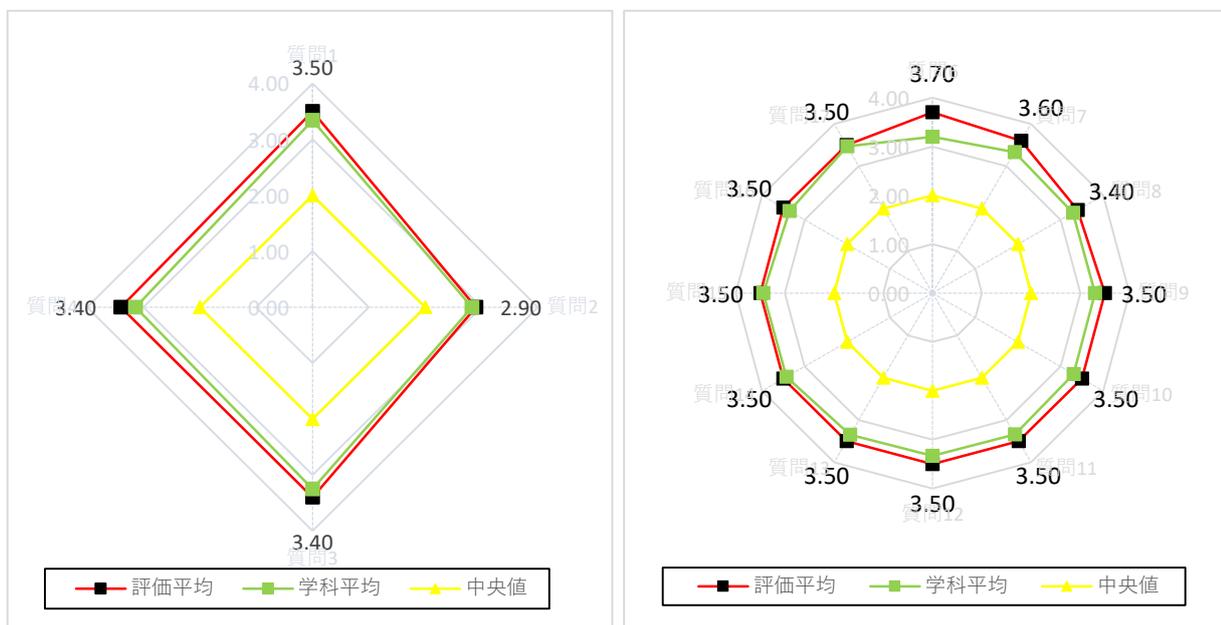
本授業は学外の実習であり、指導を実習先に委ねているものですので、「結果の分析と評価」をするには適さないものだと考えております。

(3) 次年度に向けての取り組み

教育実習先で指摘された項目については、「事前指導」で改善できるようにいたします。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		認知症の理解Ⅱ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

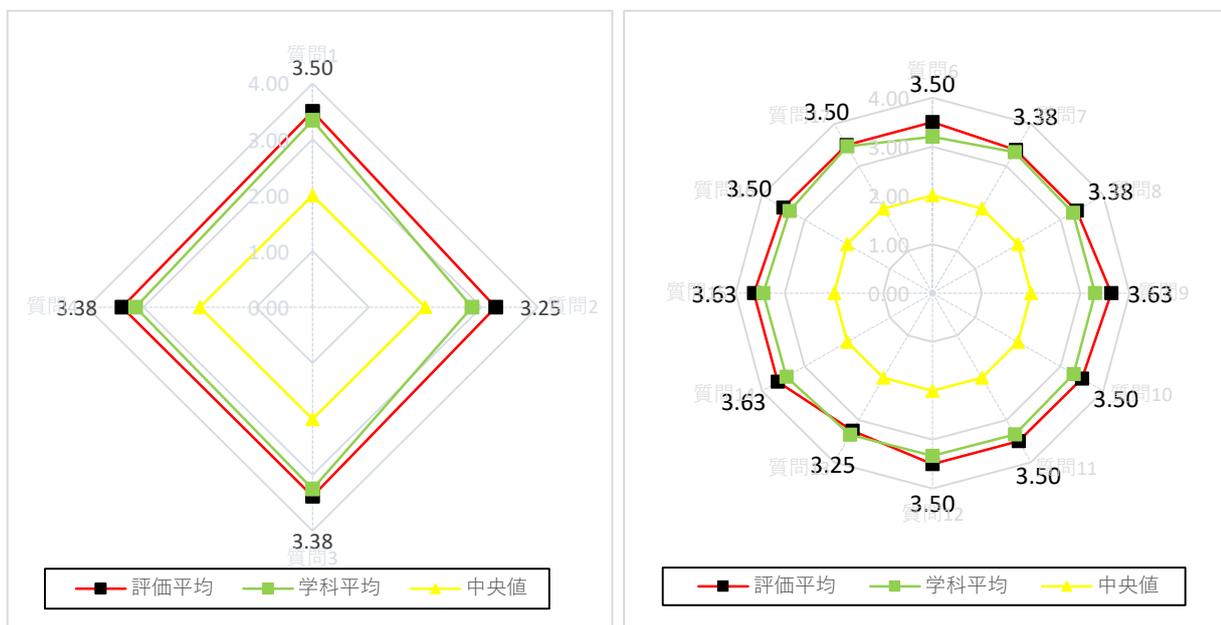
質問1～4については、質問2「シラバスの活用」が学科平均（3.0）より低い結果となった。質問6～17については、いずれも学科平均よりやや高い結果となった、特に質問6「シラバスの説明」については学科平均（3.26）を大きく上回った（3.7）。いずれも「シラバス」に関するものであり、公開されているシラバスの内容をさらに詳しく記載したシラバス（キーワード、該当テキストページ、配点）を授業履修者には配布しており、この影響であると思われる。しかし、説明は受けたが活用に至っていないという結果となったので、この点に留意した授業運営を工夫していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

平成30年度はシラバス詳細版を、どのように学生の主体的学習につなげるかについて工夫を検討していく。例えば、キーワードや該当テキストを掲載しているので、予習としてキーワードを調べる、テキストを読むなどについてあらかじめ課題を設定し、授業ごとに予習状況を確認するなどが挙げられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス利用者論	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

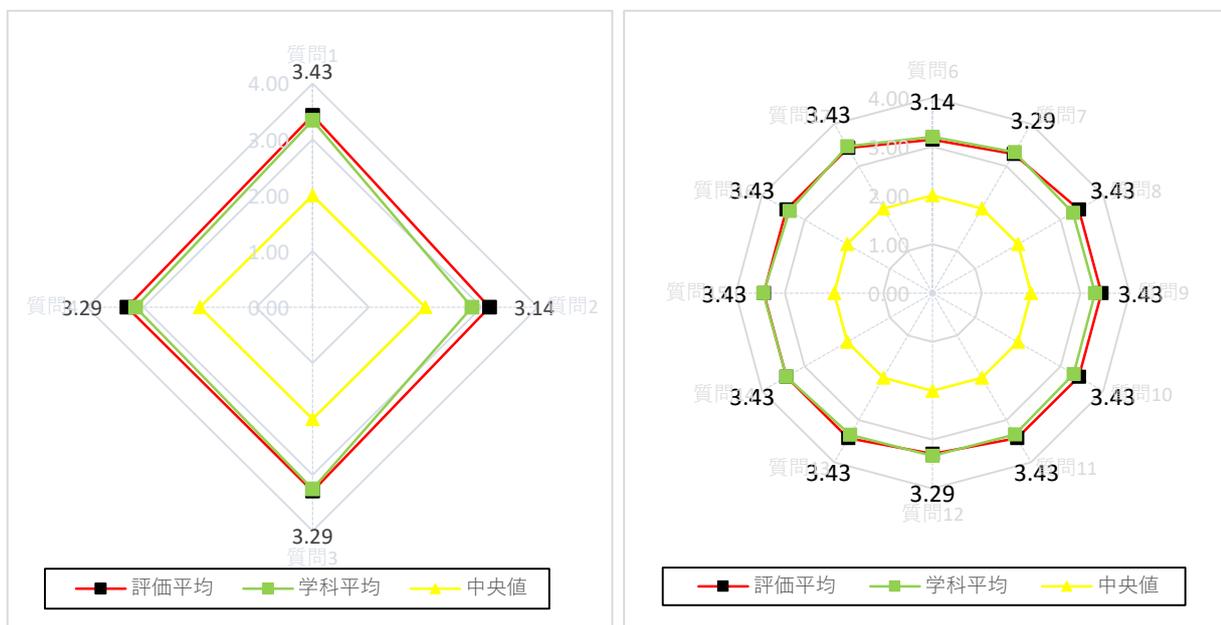
14名中8名の回答。 課題が中心の授業であった。 内容については、教員が他の授業より学生の自主性を重んじた展開を行ったつもりであったが、熱心に見えなかった点があるかもしれない。今後の反省としていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答者を増やす。 学生自身が課題を中心に進めるという方法について、見直していきたい。 授業内容について、やはり教員が中心となり展開をしていくことも必要となる。アクティブラーニングを利用し展開を進めていける方法に変更していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護概論 I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

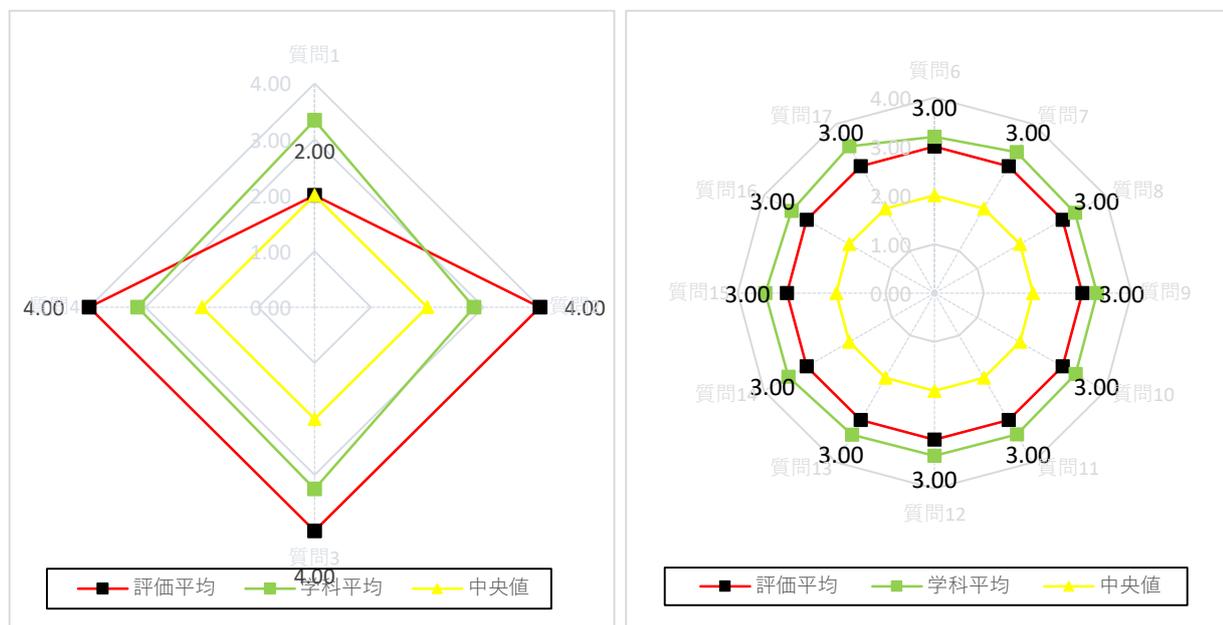
他の科目と連動させ、重要な個所や理解が難しい項目は配布資料により授業を展開した。学生が自ら考えることを意識したが、2年次前期の科目であり、理解の深まりには課題が残った。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度科目の担当はしないが、今回の評価は介護概論Ⅱに活かしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護概論Ⅱ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

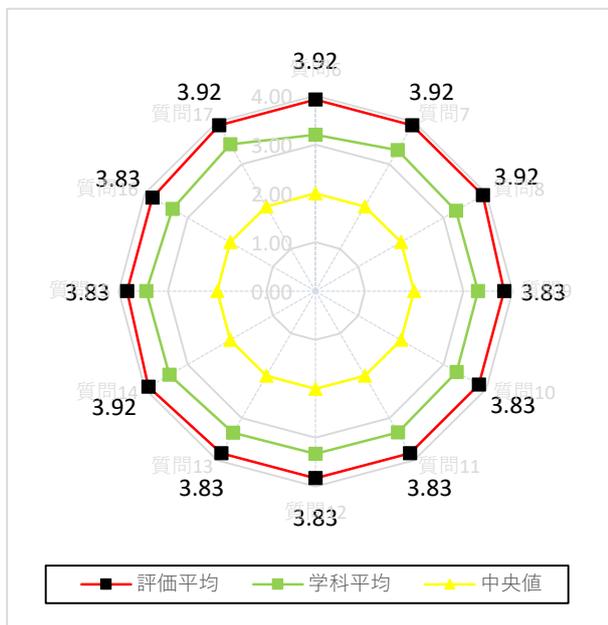
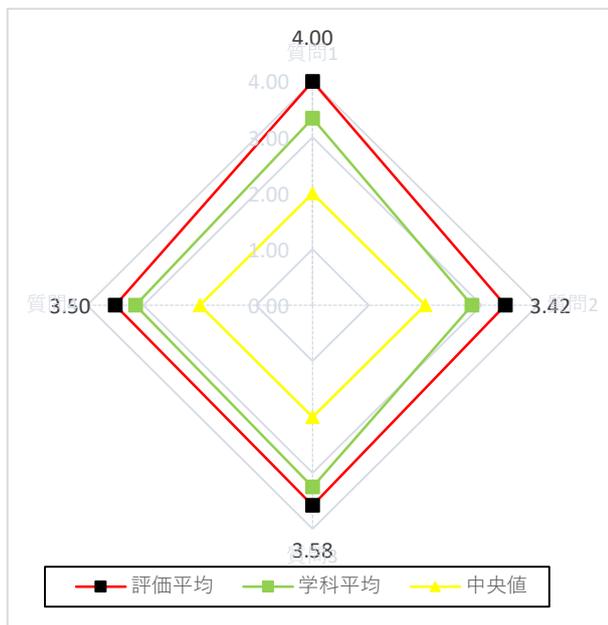
質問9、10の評価に関しては、国家試験対応を意識し教科書ベースで進めたため、授業の工夫が足りなかったことが考えられる。
 介護の歴史や概念等々、興味・関心が高まるような工夫が必要だった。

(3) 次年度に向けての取り組み

配布資料を工夫し、興味・関心を持たせることで学習意欲につなげたい。
 国家試験対策も視野に入れ、單元ごとの確認テストを組み入れ、学生の授業の到達・達成感を背景とした評価向上に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス論 I	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

介護サービス論 I の中心は、利用者理解・施設運営等についてであり、計画・立案・実践を行った。そのため、学生の授業回数は15回であったが、自主学習がその倍の時間を使用し、学生自身の熱心さが今回の結果となったと考える。

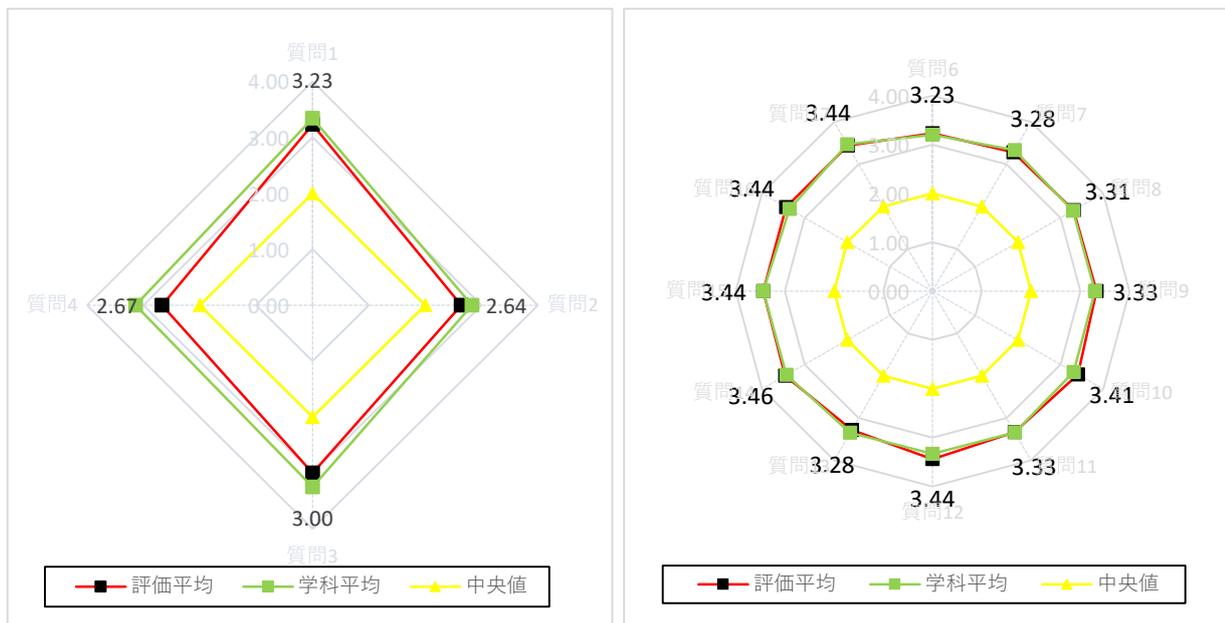
質問6から17までの 3.93の評価は、教員がサポートに回り、自主的な学習を展開した結果と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、学生自身の自主的な取り組みを延ばしていくことに力を入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		リハビリテーション論	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率75% (39名/52名)

1. 総合満足度 (Q1) に「やや悪い」と回答した者が4名認められた。
2. その他の項目でも「悪い」「やや悪い」と回答した者が散見される。
3. 特に、シラバスの説明 (Q6) で「悪い」が1名、「やや悪い」が5名。
4. 授業の進む速さ (Q13) で「やや悪い」と回答した者が5名。
5. 自由記述で「教科書を買ったのに全然使っていないので使わないのは買わせないでもらってもよろしいでしょうか。」との書き込みが認められた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降、科目担当者が変更となりリハ学部教員2名で担当することになる。

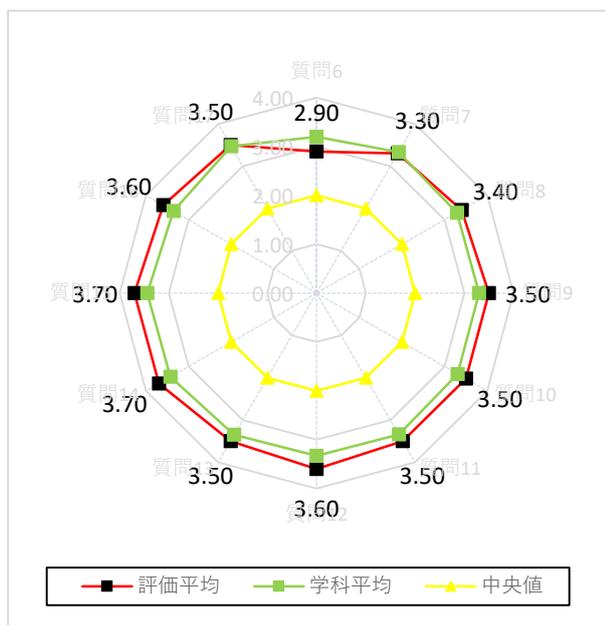
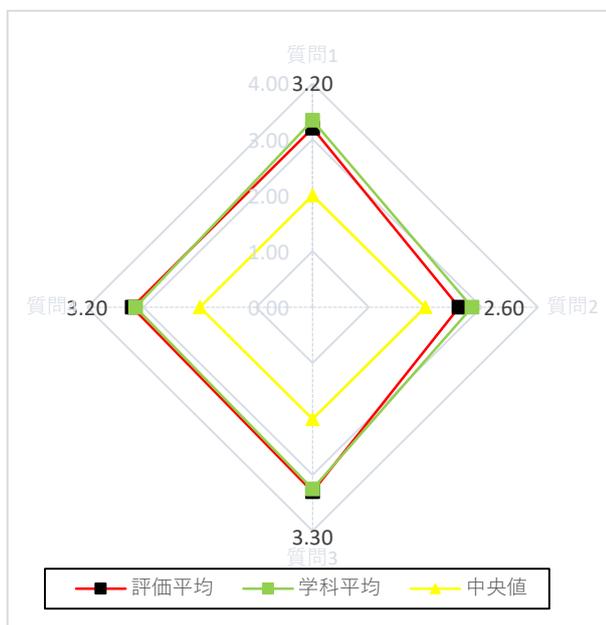
総合満足度に「悪い」と答えたものはいなかったがより満足が提供できるよう心掛ける。

講義の冒頭に配布する講義資料の出典は教科書であること、配付資料の空欄は教科書の確認によって埋められること、講義前に教科書に目を通しておくことをシラバスに明記し、伝えているが「教科書を買ったのに全然使っていないので使わないのは買わせないでもらってもよろしいでしょうか」との書き込みが認められた。

次年度以降、重点的に説明を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		健康福祉情報処理	20名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この科目は、3年生前期で実施される選択科目である。

概ね、学科平均と同等の評価を得られると考える。その中でも、質問1、質問2、質問6、質問7で学科平均を下回る評価となっている。

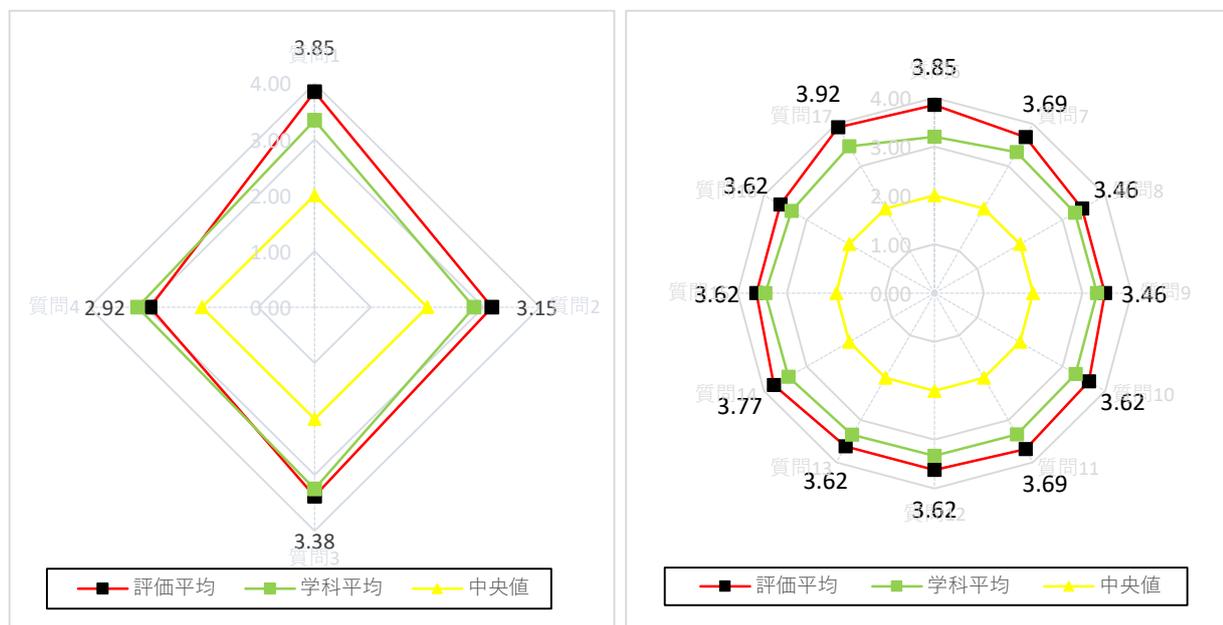
これらの項目は、シラバスや到達目標など、主に講義の初回に説明すべき項目が多い。担当教員としては、初回にシラバスを配布するなど、学生が理解しやすいように工夫を行っているつもりであったが、学生が理解するには至っていなかったと考える。今後は、講義の初回だけでなく、講義内容の節目等でシラバス・到達目標等を話題として取り上げ、学生の理解が深まるように工夫を行っていきたいと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度においては、内容の節目に、シラバス等を用いて講義内容の確認、到達目標を確認することを心掛けたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術 I (高齢者)	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

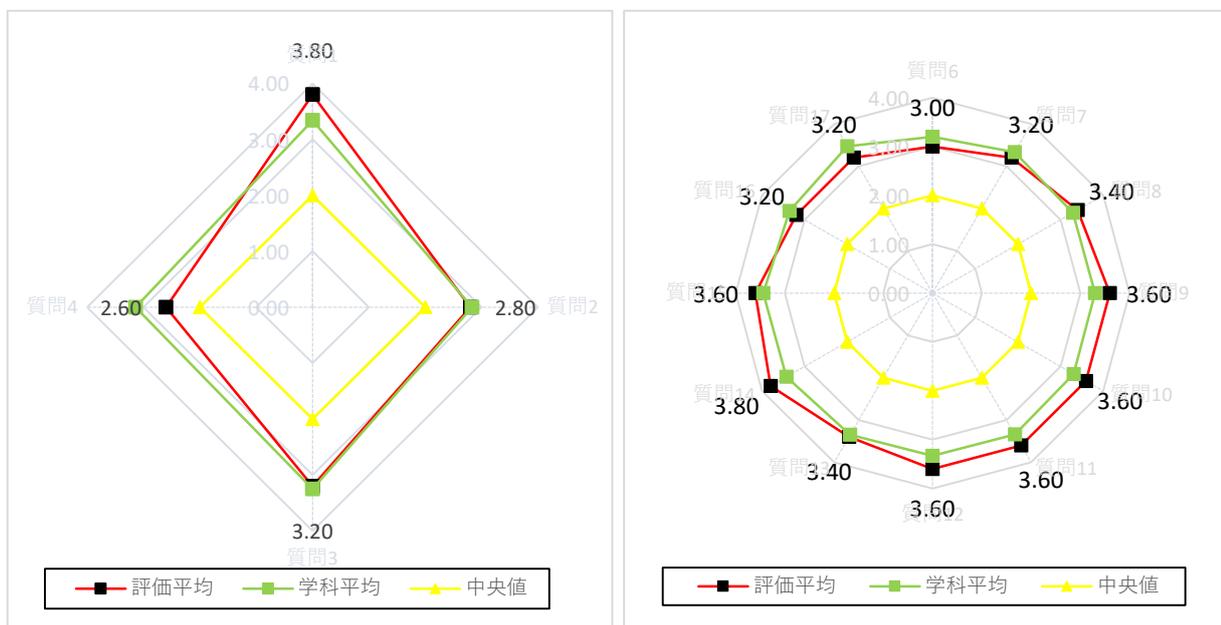
質問1~4については質問4「自分で工夫」について学科平均 (3.18) より低い結果 (2.92) となった。質問6~17についてはいずれも学科平均よりやや高い結果となった。つまり学生の主体的な学びへの試みに課題が残ったといえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

実技系科目であり、自らの体験を言語化、テキスト等での知識との融合が求められる科目である。そのため、平成30年度は実技演習に加えて、実技演習の根拠となりえる知識について問う時間を設け、主体性につなげるよう、レジュメおよび授業展開等で工夫に取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術Ⅲ(医療ニーズ)	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

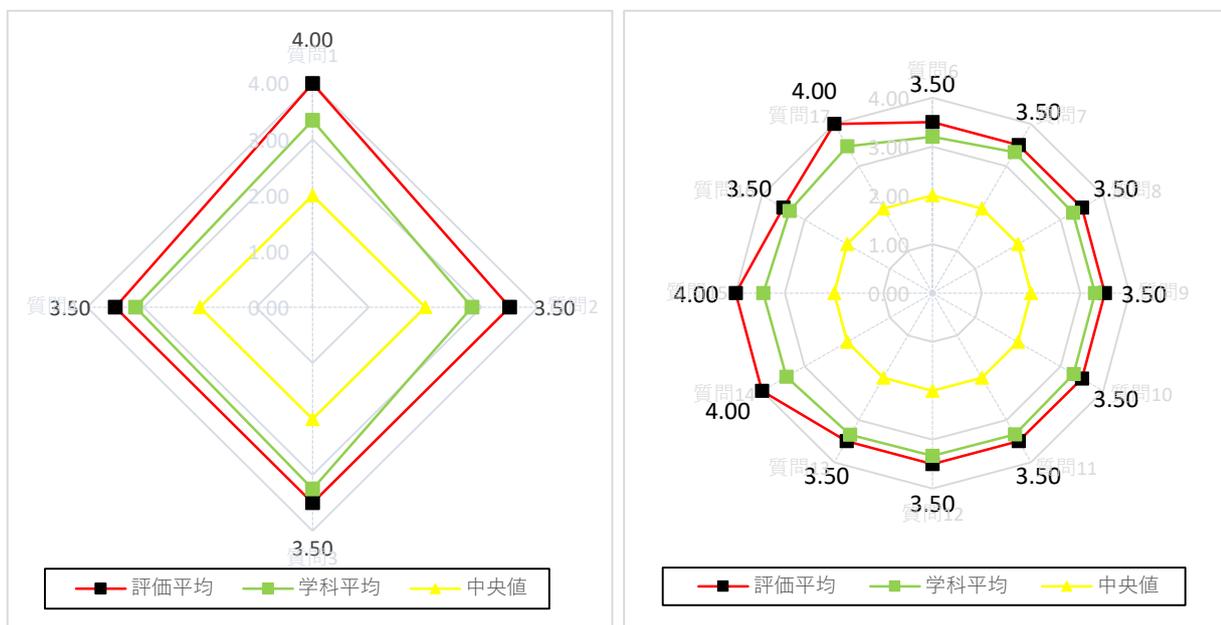
質問6は、シラバスの活用や十分な説明を行っていないことが得点に反映されている。疾患の特異性や症状などを理解することが科目では求められるが、基礎となる身体の解剖生理への理解が浅く、学びが深まらなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

医療面について学習することが苦手とする学生がいるため、今年度は視聴覚教材や配布資料を準備し基礎的知識（解剖生理）を補うことを前半に行い、疾患の理解へと計画的に進めていく。また、調べ学習や確認小テストを増やし、授業外学習で理解を深めさせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術Ⅴ (ターミナル期)	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

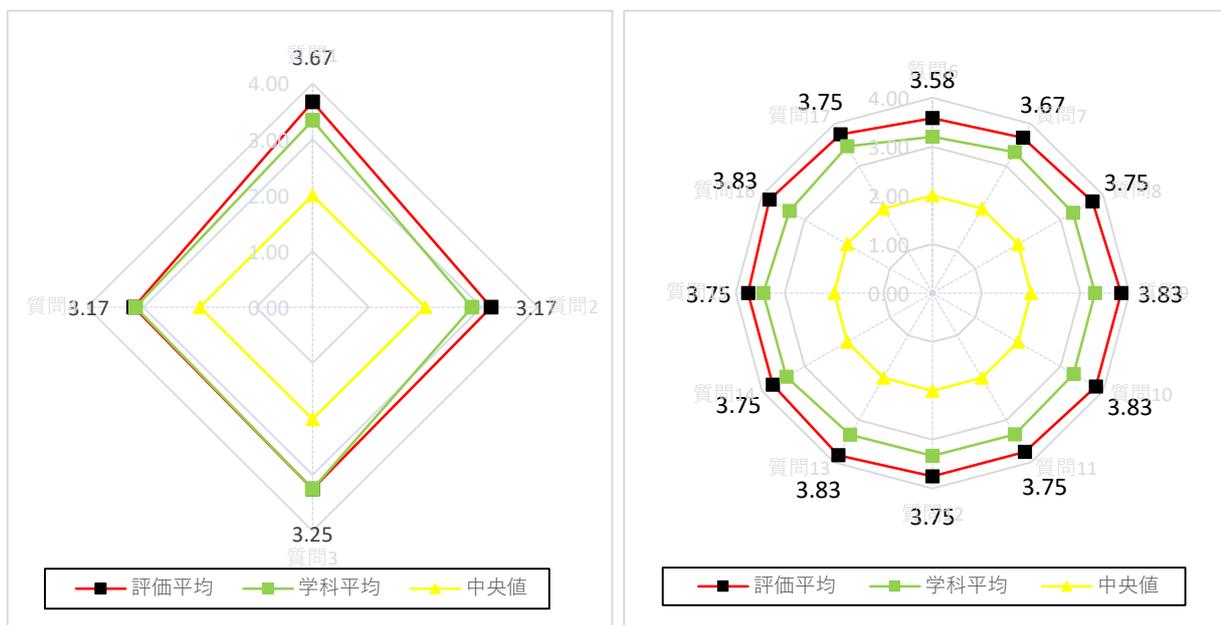
様々な終末期のあり方があるが、学生が死を身近に体験したことがないため（初回に看取りの経験調査を実施）、視聴覚教材を多数使用し視覚的な理解が行えるよう計画した。そのため、視聴覚?説明というパターンでの授業展開となり、質問16の双方向なやり取りは不足していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

16の課題に対し、視聴覚教材の活用方法の見直しを行う。学生とのやり取りのなかで、意見や質問を受けていき、学びを深めるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護過程入門	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

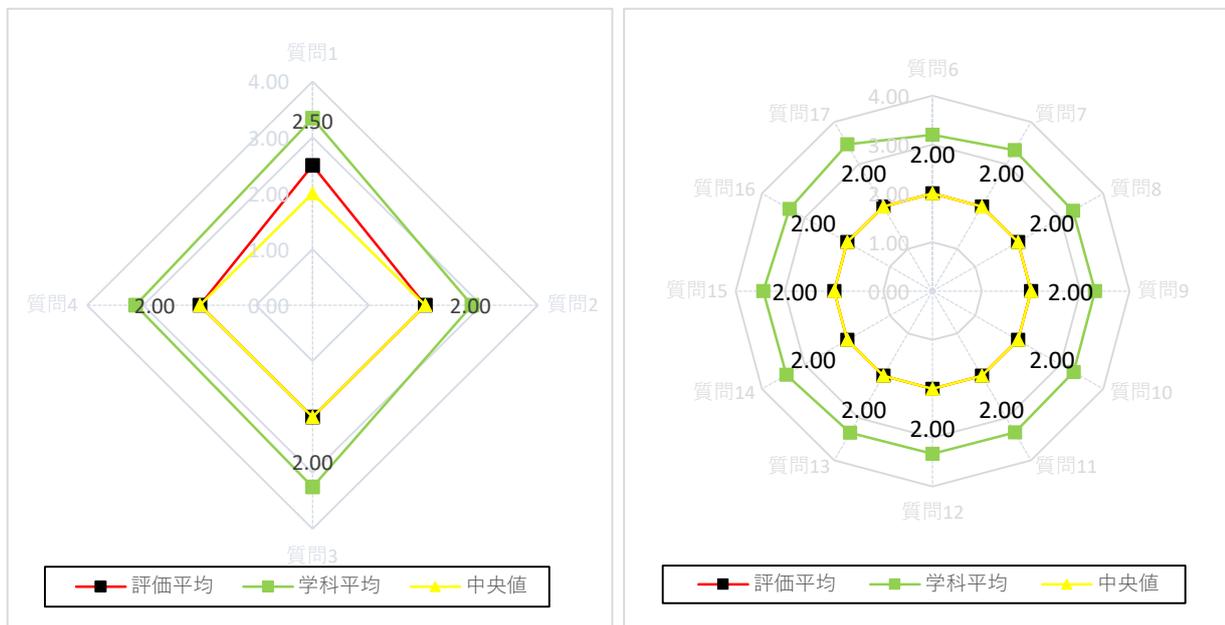
他科目の中でもICFやケアプランについてはすでに学習済みであり、介護過程の入門ではあるもののスムーズな授業展開であった。
 演習でのシート作成では、個別指導が時間的に十分獲得できなかったことが反省点である。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は同科目を担当していないが、個別指導における反省点については他教科に活かしたい。授業内では個別指導の時間が十分獲得できなかったため、学生の空き時間等を活用し指導を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習Ⅳ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

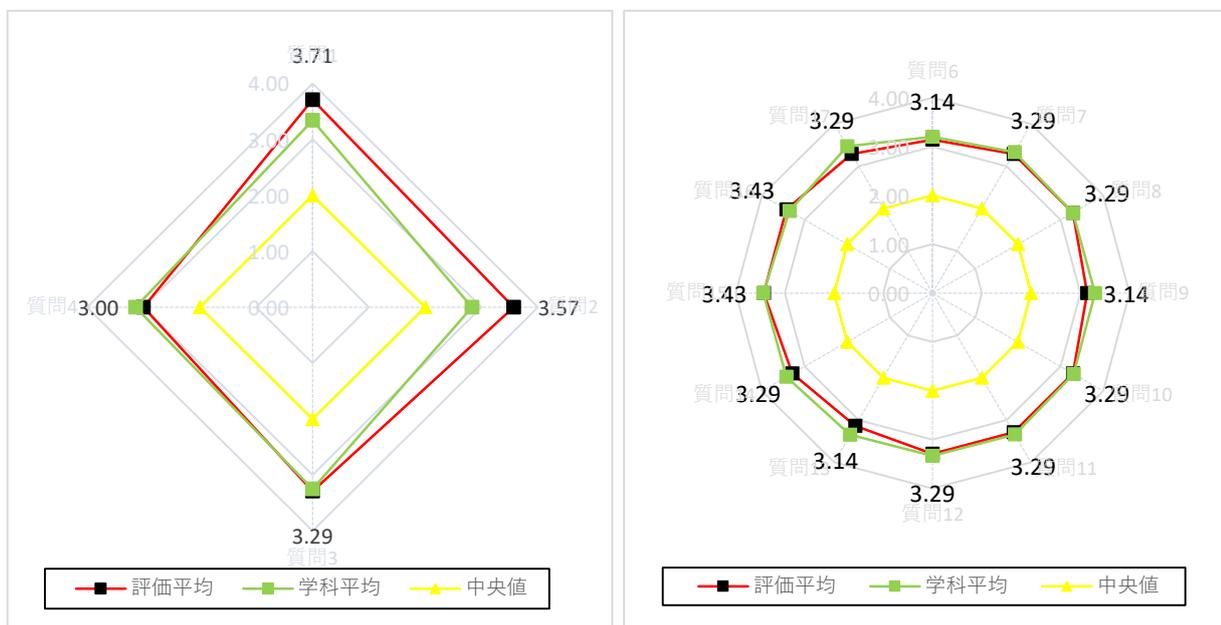
実習Ⅴに向けて「介護実習の仕上げ」が確実にできるよう、教員間の連携を図り計画的に行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

介護総合演習Ⅰより積み上げてきた学びが施設実習で発揮できるよう、今年度も計画的にまた学生の個性にも対応しながら教授する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習Ⅲ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

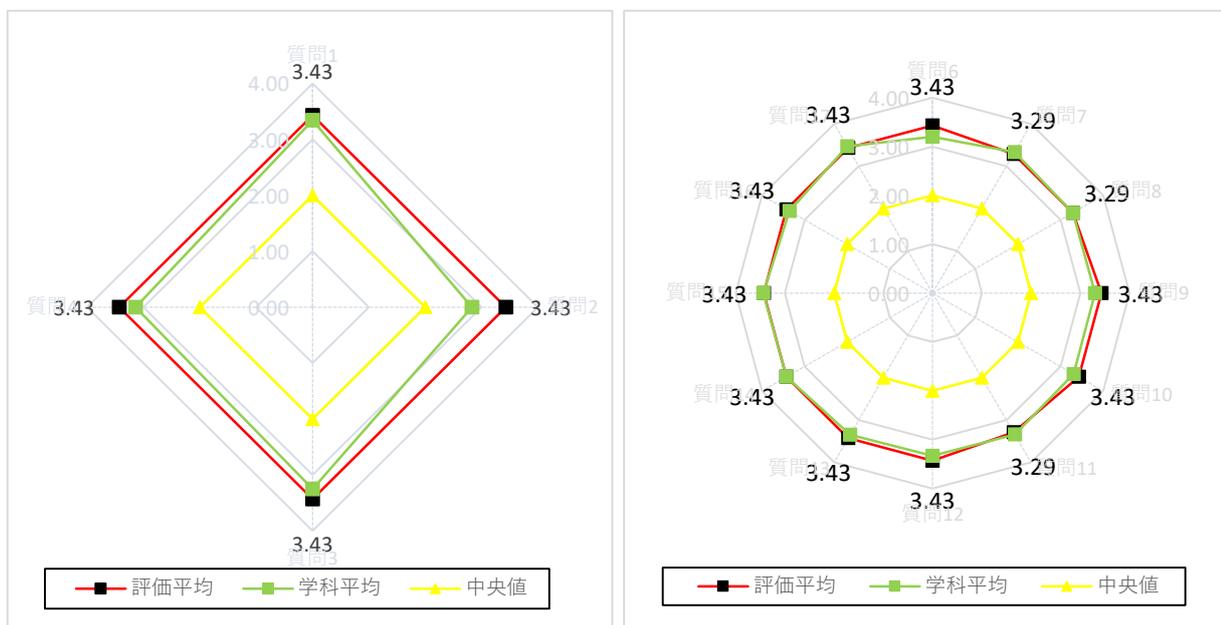
施設実習に向けて、目標の理解を中心に計画的な授業を行った。
 個別指導やグループ学習、調べ学習など、学ぶべき内容によって工夫を行いながら展開している。
 また、3人の教員のオムニバスであるため、情報の共有と進捗状況を細目に確認しながら進めている。

(3) 次年度に向けての取り組み

施設実習がスムーズに行えるよう、学生の個別性に配慮しながら授業を進めていく。
 考える、調べる、学びを共有する等、確実に習熟度が上がるための工夫を行う。
 教員間の連携に努めることで、学生の不公平感や疑問につながらないように配慮する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護総合演習 I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

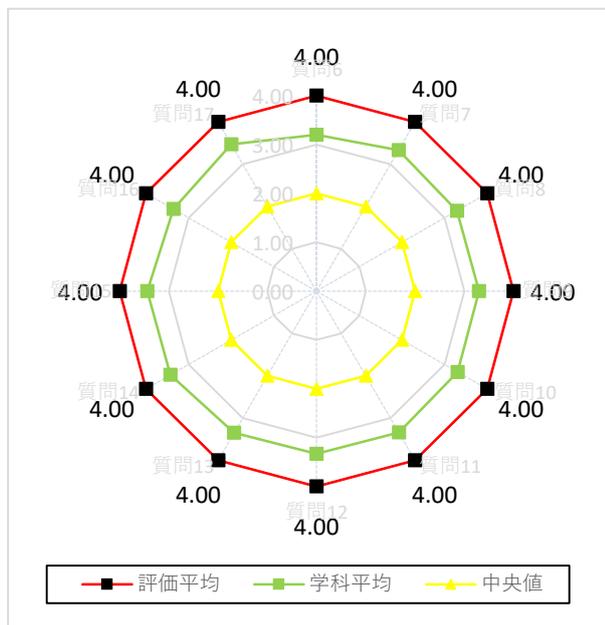
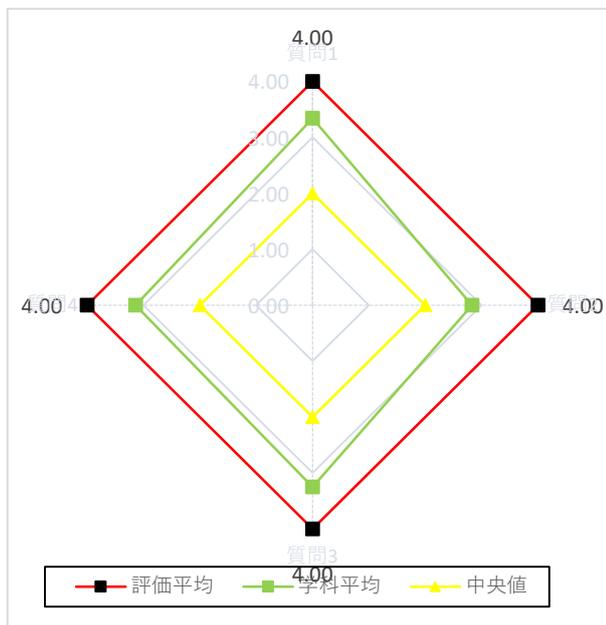
施設実習に向けて、目標の理解を中心に計画的な授業を行った。
 個別指導やグループ学習、調べ学習など、学ぶべき内容によって工夫を行いながら展開している。
 また、3人の教員のオムニバスでもあるため、情報の共有と進捗状況を細目に確認しながら進めている。

(3) 次年度に向けての取り組み

施設実習がスムーズに行えるよう、学生の個別性に配慮しながら授業を進めていく。
 考える、調べる、学びを共有する等、確実に習熟度が上がるための工夫を行う。
 教員間の連携に努めることで、学生の不公平感や疑問につながらないように配慮する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護実習V	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

配属施設の指導者に対し、介護実習連絡協議会や事前挨拶等で「指導内容や目標に関する共有」を行うことに努めた。

また、教員の実習施設巡回では、学生との個別もしくはグループ単位での指導を行い、不安解消や疑問に答え、目標到達への具体的指導を行った。

さらに実習期間中には1回、学内出校日を設定し、実習の進捗状況を確認。円滑に実習が進むように個別及びグループ指導を行った。

この実習Vは総仕上げの実習でもあるため、より綿密に施設指導者との連携を図った。

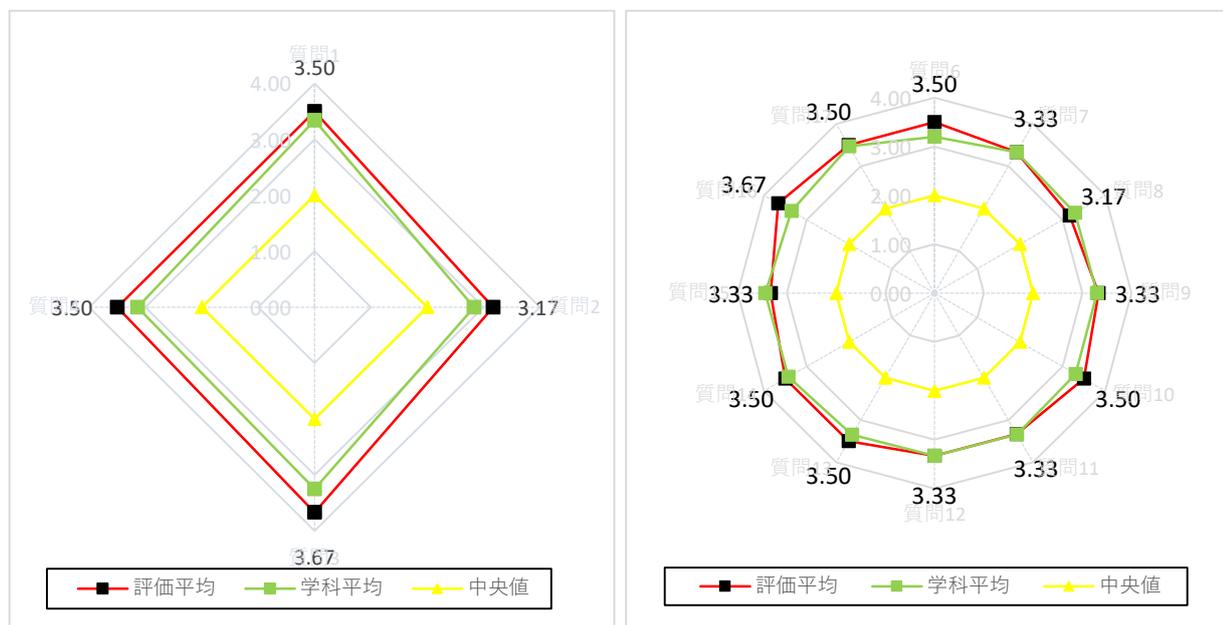
(3) 次年度に向けての取り組み

実習は3人の教員で担当しているため、情報を共有し教員間の連携を行うことに今年度も努める。

常に学生の習熟度を確認し進めていく。特に介護過程の計画立案?実施?評価が実習期間中に経験できるよう、施設指導者との連携を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護実習Ⅳ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

配属施設の指導者に対し、介護実習連絡協議会や事前挨拶等で「指導内容や目標に関する共有」を行うことに努めた。

また、教員の実習施設巡回では、学生との個別もしくはグループ単位での指導を行い、不安解消や疑問に答え、目標到達への具体的指導を行った。

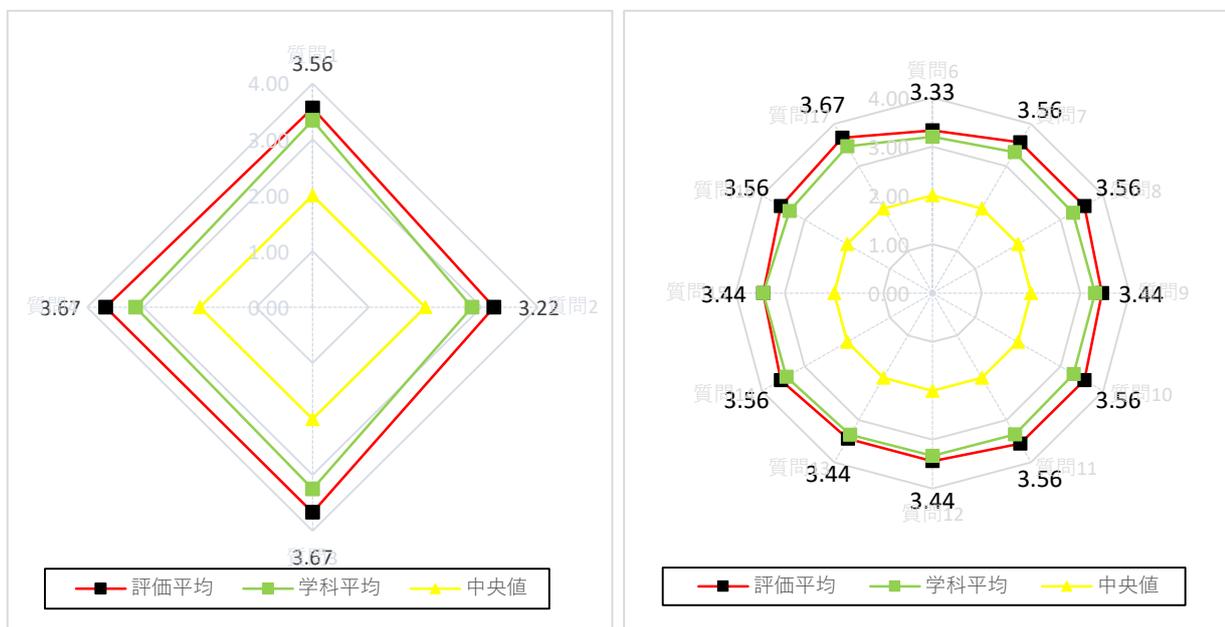
さらに実習期間中には1回、学内出校日を設定し、実習の進捗状況を確認。円滑に実習が進むように個別及びグループ指導を行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習は3人の教員で担当しているため、情報を共有し教員間の連携を行うことに今年度も努める。現場での経験を題材に次の実習に段階的に学びが深まるよう、学生の習熟度を常に確認し進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		教育実習	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

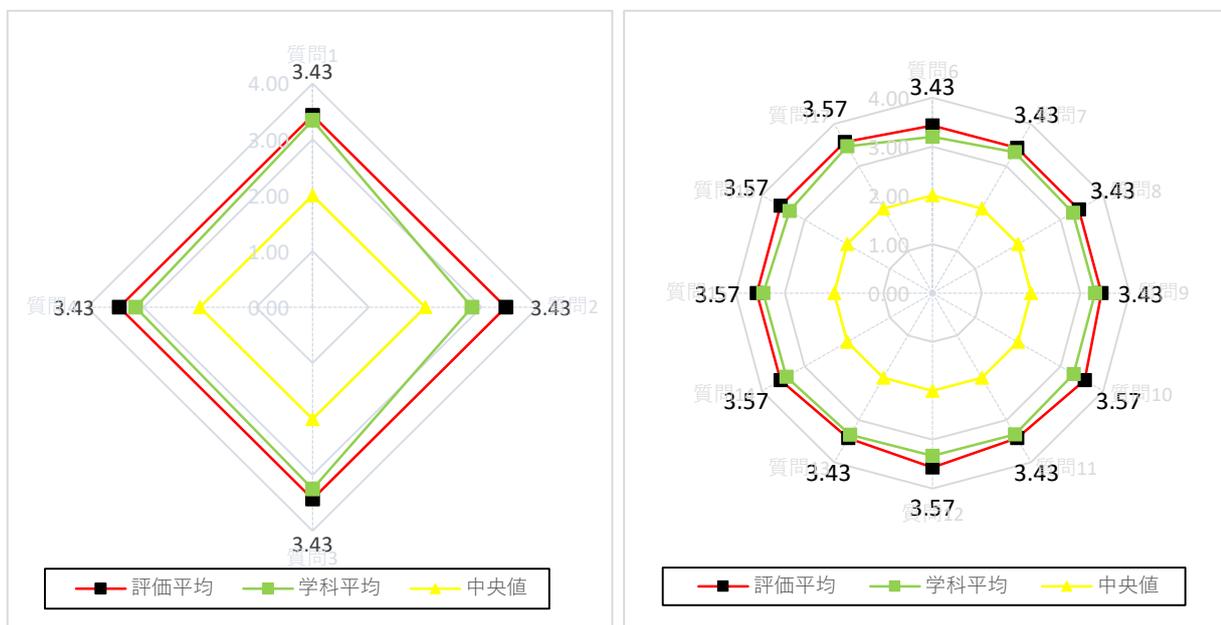
本授業は学外の実習であり、指導を実習先に委ねているものですので、「結果の分析と評価」をするには適さないものだと考えております。

(3) 次年度に向けての取り組み

教育実習先で指摘された項目については、「事前指導」で改善できるようにいたします。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護実習 I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

配属施設の指導者に対し、介護実習連絡協議会や事前挨拶等で「指導内容や目標に関する共有」を行うことに努めた。

また、教員の実習施設巡回では、学生との個別もしくはグループ単位での指導を行い、不安解消や疑問に答え、目標到達への具体的指導を行った。

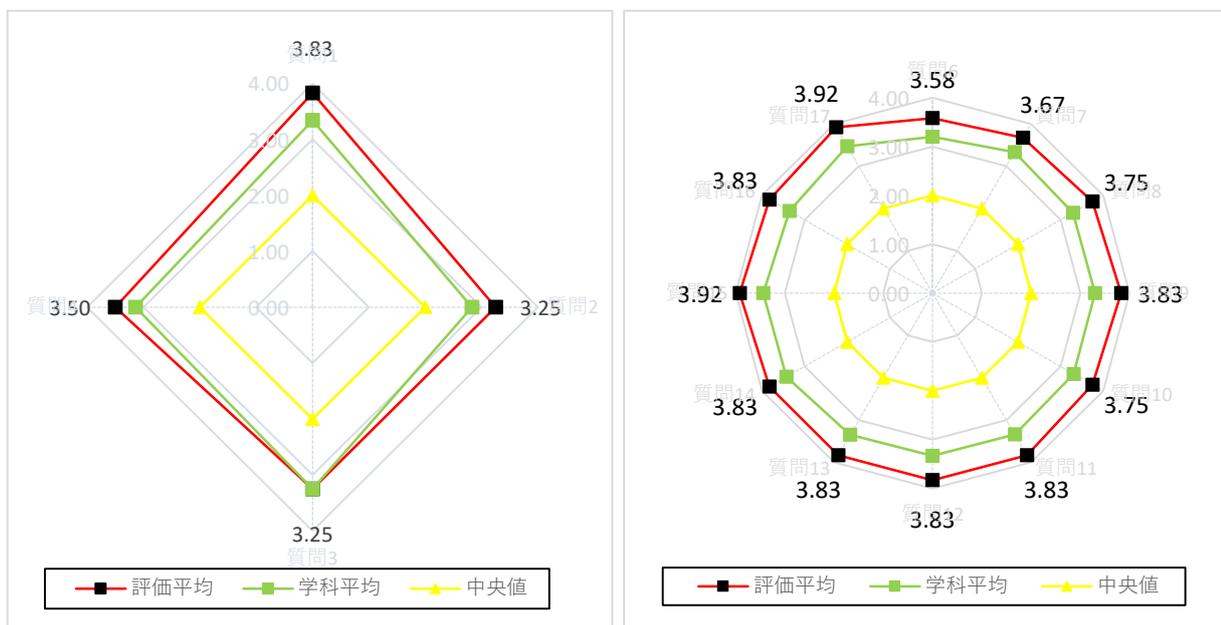
さらに実習期間中には1回、学内出校日を設定し、実習の進捗状況を確認。円滑に実習が進むように個別及びグループ指導を行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習に関しては3人の教員で担当しているため、情報を共有し教員間の連携を行うことに今年度も努める。現場での経験を題材に次の実習に段階的に学びが深まるよう、学生の習熟度を常に確認し進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療的ケアⅡ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

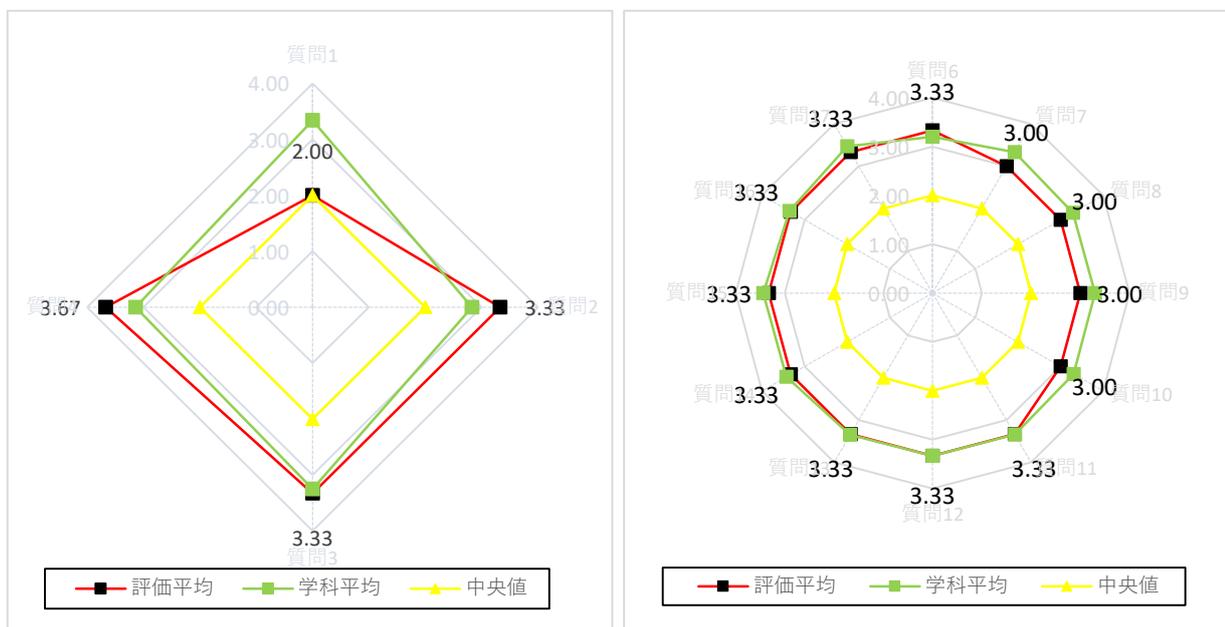
医療用語や医療処置などの難易度の高い授業では居眠りが確認されているため、授業の工夫が必要であった。得点は全体的に高いため、従来の科目の進め方で問題はなかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

医療面で苦手とする内容・項目については学生が興味・関心を持つための教材（DVDなど）を活用する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		地域再生・創生論	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

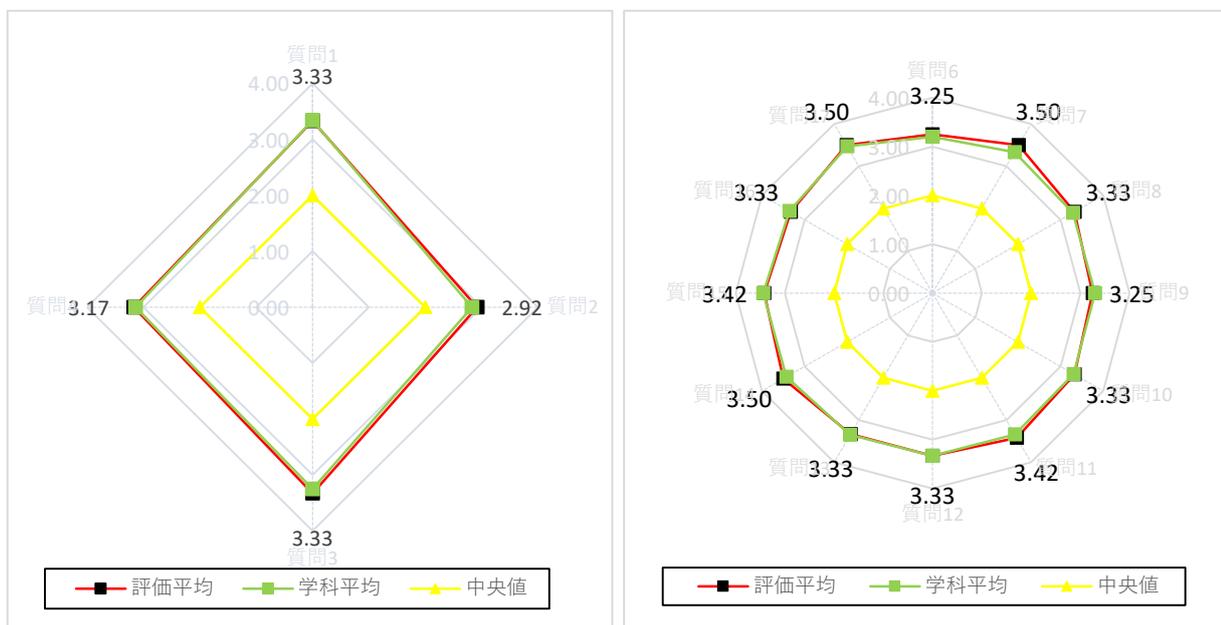
質問7-11において学科平均を下回っている。
講義の内容における論点が少しぼやけてしまったかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

より明確な論点と講義資料作り、および講義展開につとめたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉特講 I	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

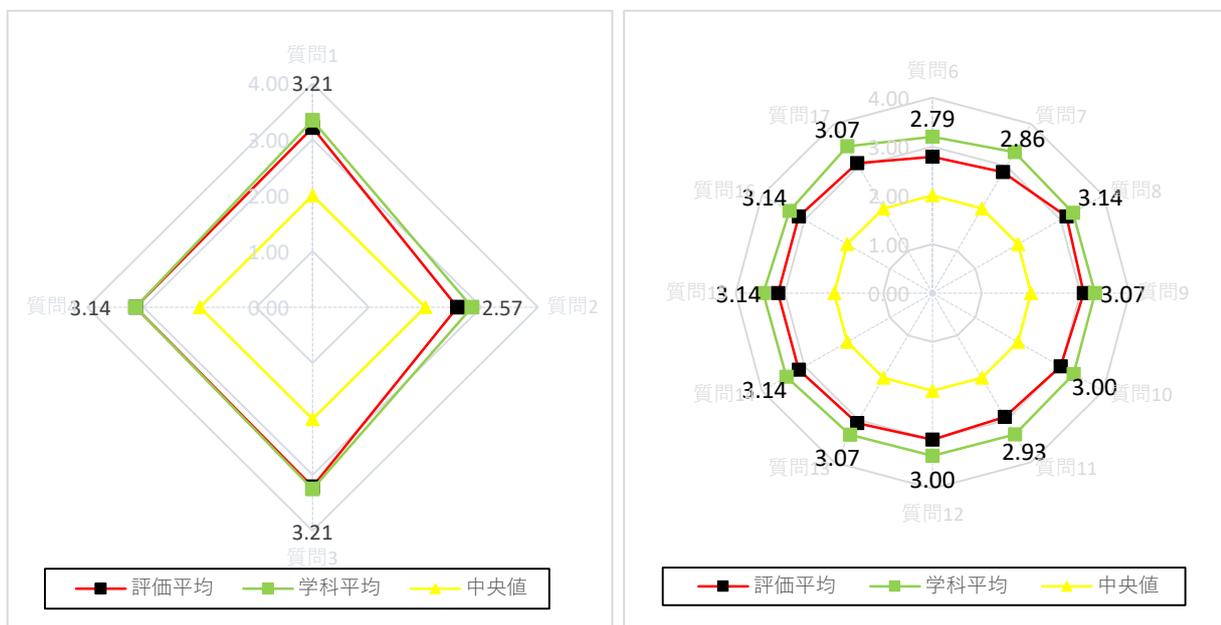
43名中12名の回答 前期の特講 I については、卒論の提出時期と重なりながら実施していた事。各教科担当者が教科のまとめを実施、数多くの教員が関わっている。特講 I の授業としては、おおむね平均的な評価が与えられたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

回答をまず全員になるようにする。評価をどの点におくのかの推敲を教員・学生と共に考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉特講Ⅱ	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

34人中14名の回答

各教科担当者が試験・解答 解説を実施。シラバスや説明を十分に繰り返してきたと感じたが、進行についての不備があったと考える。

評価4・3・2が平均的に出ているのを考えると、個別の支援の在り方を考えさせられる。

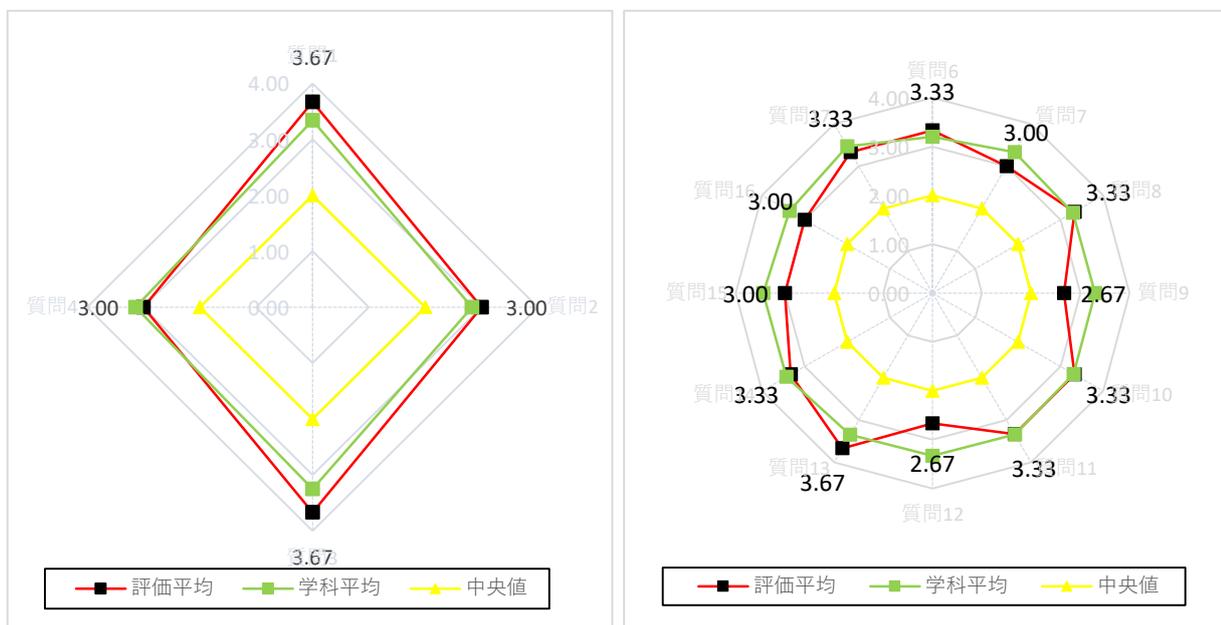
試験勉強が中心となるので、個別の対応と集団での対応について、今後の課題としたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

例年検討を重ねるが、授業評価が良くなくても、結果（国家試験の合格者数）が出ていることに対して、どのように捉えるべきかを、再検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		救急処置	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

満丸記入分：回答率20%（3/15人）。回答率が非常に低く、促しが必要であった。テーピング3回を担当したが、解剖・運動学、スポーツ外傷の知識もないままテーピングについて理解することは困難であり、方法だけを教えることに疑問も感じる。
また、出席状況も非常に悪い。3回ともに5名ほどの出席状況であった。かつ欠席の連絡も皆無である。

(3) 次年度に向けての取り組み

満丸記入分：解剖・運動学、スポーツ外傷の知識もないままテーピングについて理解することは困難でありかつ学生の満足度に疑問ものこるため、内容を検討する必要もあると感じている。